

柏崎刈羽原子力発電所 6/7号炉 (2017.12.20版)	東海第二発電所 (2018.9.18版)	島根原子力発電所 2号炉	備考																																																																																																																																																																				
<p>3. プラント状態確認チェックシートにおける確認項目</p> <p>プラント、体制等の状況を把握するために、「プラント状態確認チェックシート」の各項目を確認する。チェックシートは、目標設定や戦略の検討等発電所対策本部の情報共有に利用する。</p> <p>【注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チェックシートには、本部責任者の指示、又は各対応班の担当者が必要に応じ確認した情報を記載し作成する。計画・情報統括及び計画班長が取りまとめ、本部内に情報共有する。 2. 共通1.～3.項の確認を最優先に実施する。 3. 周囲の状況に十分注意しながらチェックし、チェック困難な場合には「不明」とする。(建屋の損壊状況、周辺線量等に注意) 4. 動作可能、使用可能は、外観及び警報等で判断する。 <p>(1)プラント状態確認項目(共通)</p> <p>共通1. 中央制御室との連絡と運転員の対応可能人数の確認</p> <table border="1" data-bbox="201 625 899 850"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1号炉中央制御室と連絡可能</td> <td>連絡可能・連絡不可</td> <td>対応可能 名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2号炉中央制御室と連絡可能</td> <td>連絡可能・連絡不可</td> <td>対応可能 名</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3号炉中央制御室と連絡可能</td> <td>連絡可能・連絡不可</td> <td>対応可能 名</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4号炉中央制御室と連絡可能</td> <td>連絡可能・連絡不可</td> <td>対応可能 名</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5号炉中央制御室と連絡可能</td> <td>連絡可能・連絡不可</td> <td>対応可能 名</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>6号及び7号炉中央制御室と連絡可能</td> <td>連絡可能・連絡不可</td> <td>対応可能 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>共通2. モニタ指示確認</p> <table border="1" data-bbox="201 898 899 976"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>屋外モニタ指示</td> <td>上昇なし・上昇あり・不明</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>共通3. 火災の確認</p> <table border="1" data-bbox="201 1024 899 1155"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>揮発性物質(航空機燃料・軽油等)による火災発生</td> <td>火災あり・火災なし・不明</td> <td>1・2・3・4号炉</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>上記以外による火災発生</td> <td>火災あり・火災なし・不明</td> <td>5・6・7号炉 その他</td> </tr> </tbody> </table>	番号	項目	状態	備考	1	1号炉中央制御室と連絡可能	連絡可能・連絡不可	対応可能 名	2	2号炉中央制御室と連絡可能	連絡可能・連絡不可	対応可能 名	3	3号炉中央制御室と連絡可能	連絡可能・連絡不可	対応可能 名	4	4号炉中央制御室と連絡可能	連絡可能・連絡不可	対応可能 名	5	5号炉中央制御室と連絡可能	連絡可能・連絡不可	対応可能 名	6	6号及び7号炉中央制御室と連絡可能	連絡可能・連絡不可	対応可能 名	番号	項目	状態	備考	1	屋外モニタ指示	上昇なし・上昇あり・不明		番号	項目	状態	備考	1	揮発性物質(航空機燃料・軽油等)による火災発生	火災あり・火災なし・不明	1・2・3・4号炉	2	上記以外による火災発生	火災あり・火災なし・不明	5・6・7号炉 その他	<p>第1表 プラント状態確認チェックシート (1/10)</p> <p>【注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チェックシートには、災害対策本部長代理又は統括待機当番者の指示に基づき確認した情報又は各作業班の担当者が必要に応じ確認した情報を記載する。 2. 確認結果は、情報班に報告する。 3. 情報班は、報告された確認結果を取りまとめ、本部内に情報共有する。 4. 確認項目1.項～3.項の確認を最優先に実施し、その後その他の確認項目の確認を行う。 5. 建屋の損壊状況、周辺線量等、周囲の状況に十分注意しながらチェックし、チェック困難な場合には「不明」とする。 6. 動作可能及び使用可能は、外観、警報等で判断する。 7. プラント状態の確認は、複数名で実施する。 <p>【ステップ①-1】</p> <p>1. 中央制御室との連絡及びパラメータの確認</p> <table border="1" data-bbox="964 625 1706 793"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-1</td> <td>中央制御室と連絡</td> <td>連絡可能・連絡不可</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-2</td> <td>中央制御室でのパラメータ確認</td> <td>確認可能・確認不可</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-3</td> <td>緊急時対策所でのパラメータ確認</td> <td>確認可能・確認不可</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 原子炉停止、原子炉注水及びモニタ指示確認</p> <table border="1" data-bbox="964 842 1706 1045"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2-1</td> <td>原子炉停止 (確認日時 / :)</td> <td>成功・失敗・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2-2</td> <td>原子炉注水</td> <td>成功・失敗・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2-3</td> <td>エリアモニタ指示</td> <td>上昇なし・上昇あり・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2-4</td> <td>屋外モニタ指示</td> <td>上昇なし・上昇あり・不明</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 火災の確認</p> <table border="1" data-bbox="964 1094 1706 1276"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3-1</td> <td>航空機燃料等による火災</td> <td>火災あり・火災なし・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3-2</td> <td>可搬型設備保管場所、接続口及び接続口までのアクセスルートに影響を与える火災</td> <td>火災あり・火災なし・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3-3</td> <td>上記以外の火災</td> <td>火災あり・火災なし・不明</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	項目	状態	備考	1-1	中央制御室と連絡	連絡可能・連絡不可		1-2	中央制御室でのパラメータ確認	確認可能・確認不可		1-3	緊急時対策所でのパラメータ確認	確認可能・確認不可		番号	項目	状態	備考	2-1	原子炉停止 (確認日時 / :)	成功・失敗・不明		2-2	原子炉注水	成功・失敗・不明		2-3	エリアモニタ指示	上昇なし・上昇あり・不明		2-4	屋外モニタ指示	上昇なし・上昇あり・不明		番号	項目	状態	備考	3-1	航空機燃料等による火災	火災あり・火災なし・不明		3-2	可搬型設備保管場所、接続口及び接続口までのアクセスルートに影響を与える火災	火災あり・火災なし・不明		3-3	上記以外の火災	火災あり・火災なし・不明		<p>3. プラント状態確認チェックシートによる確認項目</p> <p>プラント、体制等の状況を把握するために、チェックシートの各項目を確認する。チェックシートは目標設定や戦略の検討等、緊急時対策本部の情報共有に利用する。</p> <p>【注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チェックシートには、緊急時対策本部長(夜間・休日昼間については、指示者)の指示に基づき確認した情報又は各班が必要に応じて確認した情報を記載する。 2. 確認結果は、技術班(夜間・休日昼間については、連絡責任者)に報告する。 3. 技術班(夜間・休日昼間については、連絡責任者)は、報告された確認結果を取りまとめ、本部内に情報共有する。 4. 確認項目1.～3.項の確認を最優先に実施し、報告する。その後その他の確認項目の確認を行う。 5. 建物の損壊状況、周辺線量率等、周囲の状況に十分注意しながら確認を行い、確認が困難な場合には「不明」とする。 6. 動作可能及び使用可能は、外観、警報等で判断する。 7. プラント状態の確認は、複数名で実施する。 <p>1. 中央制御室との連絡及びプラントパラメータの監視機能確認【ステップ1-1】</p> <table border="1" data-bbox="1757 653 2469 835"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1号及び2号中央制御室との連絡確認</td> <td>連絡可能・連絡不可</td> <td>対応可能： 名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3号中央制御室との連絡確認</td> <td>連絡可能・連絡不可</td> <td>対応可能： 名</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中央制御室でのパラメータ確認</td> <td>可能・不可</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>緊急時対策所でのパラメータ確認</td> <td>可能・不可</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2. プラント状態の確認(初期状態確認)【ステップ1-1】</p> <p>(1)原子炉</p> <table border="1" data-bbox="1757 884 2469 1304"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>原子炉停止 (停止日時: 月 日 時 分)</td> <td>成功・失敗・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>原子炉注水</td> <td>成功・失敗・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>原子炉水位</td> <td>cm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>原子炉圧力</td> <td>MPa</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>主蒸気隔離弁</td> <td>全開・全閉・一部開・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ECCS作動要求</td> <td>作動要求なし・作動要求あり・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>原子炉圧力容器破損</td> <td>破損なし・破損あり・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>原子炉圧力容器温度</td> <td>℃</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>格納容器内雰囲気モニタ指示(D/W)</td> <td>Sv/h</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>格納容器内雰囲気モニタ指示(トータス)</td> <td>Sv/h</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">注) プラント状態確認チェックシートは、今後の訓練によって見直し可能性がある</p>	番号	項目	状態	備考	1	1号及び2号中央制御室との連絡確認	連絡可能・連絡不可	対応可能： 名	2	3号中央制御室との連絡確認	連絡可能・連絡不可	対応可能： 名	3	中央制御室でのパラメータ確認	可能・不可		4	緊急時対策所でのパラメータ確認	可能・不可		番号	項目	状態	備考	1	原子炉停止 (停止日時: 月 日 時 分)	成功・失敗・不明		2	原子炉注水	成功・失敗・不明		3	原子炉水位	cm		4	原子炉圧力	MPa		5	主蒸気隔離弁	全開・全閉・一部開・不明		6	ECCS作動要求	作動要求なし・作動要求あり・不明		7	原子炉圧力容器破損	破損なし・破損あり・不明		8	原子炉圧力容器温度	℃		9	格納容器内雰囲気モニタ指示(D/W)	Sv/h		10	格納容器内雰囲気モニタ指示(トータス)	Sv/h		<p>・体制の相違</p> <p>【柏崎6/7, 東海第二】</p> <p>・設備及び運用の相違</p> <p>【柏崎6/7, 東海第二】</p> <p>設備及び運用の相違に伴うプラント状態確認項目等の相違</p>
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																																				
1	1号炉中央制御室と連絡可能	連絡可能・連絡不可	対応可能 名																																																																																																																																																																				
2	2号炉中央制御室と連絡可能	連絡可能・連絡不可	対応可能 名																																																																																																																																																																				
3	3号炉中央制御室と連絡可能	連絡可能・連絡不可	対応可能 名																																																																																																																																																																				
4	4号炉中央制御室と連絡可能	連絡可能・連絡不可	対応可能 名																																																																																																																																																																				
5	5号炉中央制御室と連絡可能	連絡可能・連絡不可	対応可能 名																																																																																																																																																																				
6	6号及び7号炉中央制御室と連絡可能	連絡可能・連絡不可	対応可能 名																																																																																																																																																																				
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																																				
1	屋外モニタ指示	上昇なし・上昇あり・不明																																																																																																																																																																					
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																																				
1	揮発性物質(航空機燃料・軽油等)による火災発生	火災あり・火災なし・不明	1・2・3・4号炉																																																																																																																																																																				
2	上記以外による火災発生	火災あり・火災なし・不明	5・6・7号炉 その他																																																																																																																																																																				
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																																				
1-1	中央制御室と連絡	連絡可能・連絡不可																																																																																																																																																																					
1-2	中央制御室でのパラメータ確認	確認可能・確認不可																																																																																																																																																																					
1-3	緊急時対策所でのパラメータ確認	確認可能・確認不可																																																																																																																																																																					
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																																				
2-1	原子炉停止 (確認日時 / :)	成功・失敗・不明																																																																																																																																																																					
2-2	原子炉注水	成功・失敗・不明																																																																																																																																																																					
2-3	エリアモニタ指示	上昇なし・上昇あり・不明																																																																																																																																																																					
2-4	屋外モニタ指示	上昇なし・上昇あり・不明																																																																																																																																																																					
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																																				
3-1	航空機燃料等による火災	火災あり・火災なし・不明																																																																																																																																																																					
3-2	可搬型設備保管場所、接続口及び接続口までのアクセスルートに影響を与える火災	火災あり・火災なし・不明																																																																																																																																																																					
3-3	上記以外の火災	火災あり・火災なし・不明																																																																																																																																																																					
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																																				
1	1号及び2号中央制御室との連絡確認	連絡可能・連絡不可	対応可能： 名																																																																																																																																																																				
2	3号中央制御室との連絡確認	連絡可能・連絡不可	対応可能： 名																																																																																																																																																																				
3	中央制御室でのパラメータ確認	可能・不可																																																																																																																																																																					
4	緊急時対策所でのパラメータ確認	可能・不可																																																																																																																																																																					
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																																				
1	原子炉停止 (停止日時: 月 日 時 分)	成功・失敗・不明																																																																																																																																																																					
2	原子炉注水	成功・失敗・不明																																																																																																																																																																					
3	原子炉水位	cm																																																																																																																																																																					
4	原子炉圧力	MPa																																																																																																																																																																					
5	主蒸気隔離弁	全開・全閉・一部開・不明																																																																																																																																																																					
6	ECCS作動要求	作動要求なし・作動要求あり・不明																																																																																																																																																																					
7	原子炉圧力容器破損	破損なし・破損あり・不明																																																																																																																																																																					
8	原子炉圧力容器温度	℃																																																																																																																																																																					
9	格納容器内雰囲気モニタ指示(D/W)	Sv/h																																																																																																																																																																					
10	格納容器内雰囲気モニタ指示(トータス)	Sv/h																																																																																																																																																																					

共通4. 通信関係の確認

番号	項目	状態	備考
1	送受話器(ペー징)	使用可能・使用不可・不明	
2	電力保安通信用電話設備	使用可能・使用不可・不明	
3	衛星電話設備(常設)	使用可能・使用不可・不明	
4	衛星電話設備(可搬型)	使用可能・使用不可・不明	
5	無線連絡設備(常設)	使用可能・使用不可・不明	
6	無線連絡設備(可搬型)	使用可能・使用不可・不明	
7	緊急時対策支援システム伝送装置	使用可能・使用不可・不明	
8	SPDS表示装置	使用可能・使用不可・不明	
9	加入電話機	使用可能・使用不可・不明	
10	加入FAX	使用可能・使用不可・不明	
11	テレビ会議システム	使用可能・使用不可・不明	
12	専用電話設備(ホットライン)	使用可能・使用不可・不明	
13	IP-電話機	使用可能・使用不可・不明	
14	IP-FAX	使用可能・使用不可・不明	

共通5. 対応可能な要員の確認

番号	項目 ^{※1}	状態	備考
1	発電所対策本部長・本部機能(4名)	名	
2	原子炉主任技術者(2名) ^{※2}	名	
3	対外対応機能(5名)	名	
4	情報収集・計画立案機能(4名)	名	
5	現場対応機能(15名)	名	
6	ロジスティック・リソース管理機能(2名)	名	
7	復旧班現場要員(16名)	名	
8	保安班機能(4名)	名	
9	自衛消防隊(10名)	名	

※1 カッコ内は発電所内での必要最低人数

※2 6号及び7号炉の原子炉主任技術者それぞれ1名は、早期に非常参集が可能なエリアに待機する。

第1表 プラント状態チェックシート (2/10)

4. 対応可能な要員の確認

【ステップ①-2】

確認者	確認日時	年	月	日	時	分
番号	項目 [*]	要員数		備考		
4-1	原子力防災管理者(0名)			名		
4-2	副原子力防災管理者(1名)			名		
4-3	対応可能な当直(運転員)数(7名)			名		
4-4	対応可能な災害対策要員数(自衛消防隊を除く)(20名)			名		
4-5	対応可能な災害対策要員数(自衛消防隊)(11名)			名		

※ カッコ内は夜間・休日(平日の勤務時間帯以外)において必要な要員として発電所内に確保している人数

5. 通信設備の確認

確認者	確認日時	年	月	日	時	分
番号	項目	状態		備考		
5-1	TV会議システム(原子力防災ネットワーク)	使用可能・使用不可・不明				
5-2	TV会議システム(社内)	使用可能・使用不可・不明				
5-3	一斉通報装置	使用可能・使用不可・不明				
5-4	加入電話	使用可能・使用不可・不明				
5-5	IP電話(有線系)	使用可能・使用不可・不明				
5-6	IP電話(衛星系)	使用可能・使用不可・不明				
5-7	保安電話(固定型)	使用可能・使用不可・不明				
5-8	保安電話(携帯型)	使用可能・使用不可・不明				
5-9	衛星電話(固定型)	使用可能・使用不可・不明				
5-10	衛星電話(携帯型)	使用可能・使用不可・不明				
5-11	無線連絡設備(固定型)	使用可能・使用不可・不明				
5-12	無線連絡設備(携帯型)	使用可能・使用不可・不明				
5-13	携行型有線通話装置	使用可能・使用不可・不明				
5-14	IP-FAX	使用可能・使用不可・不明				
5-15	送受話器(ペー징)	使用可能・使用不可・不明				
5-16	SPDS	使用可能・使用不可・不明				
5-17	社内LAN	使用可能・使用不可・不明				
5-18	FAX	使用可能・使用不可・不明				

(2) 注水系統(常設)

番号	項目	状態	備考
1	復水・給水系(CW/FW)	使用可能・使用不可・不明	
2	原子炉隔離時冷却系(RCIC)	使用可能・使用不可・不明	
3	高圧原子炉代替注水系(HPAC)	使用可能・使用不可・不明	
4	高圧炉心スプレイ系(HPCS)	使用可能・使用不可・不明	
5	低圧炉心スプレイ系(LPCS)	使用可能・使用不可・不明	
6	A-残留熱除去系(A-RHR)	使用可能・使用不可・不明	
7	B-残留熱除去系(B-RHR)	使用可能・使用不可・不明	
8	C-残留熱除去系(C-RHR)	使用可能・使用不可・不明	
9	制御棒駆動水圧系(CRD)	使用可能・使用不可・不明	
10	復水輸送系(CWT)	使用可能・使用不可・不明	
11	消火系(FP)	使用可能・使用不可・不明	
12	ほう酸水注入系(SLC)	使用可能・使用不可・不明	
13	低圧原子炉代替注水系(FLSR)	使用可能・使用不可・不明	
14	残留熱代替除去系(RHAR)	使用可能・使用不可・不明	

(3) 補機冷却系

番号	項目	状態	備考
1	I-原子炉補機冷却系(I-RCW)	使用可能・使用不可・不明	
2	I-原子炉補機海水系(I-RSW)	使用可能・使用不可・不明	
3	II-原子炉補機冷却系(II-RCW)	使用可能・使用不可・不明	
4	II-原子炉補機海水系(II-RSW)	使用可能・使用不可・不明	
5	高圧炉心スプレイ補機冷却系(HPCW)	使用可能・使用不可・不明	
6	高圧炉心スプレイ補機海水系(HPSW)	使用可能・使用不可・不明	
7	タービン補機冷却系(TCW)	使用可能・使用不可・不明	
8	タービン補機海水系(TSW)	使用可能・使用不可・不明	

(4) 格納容器

番号	項目	状態	備考
1	格納容器圧力		kPa[abs]
2	格納容器温度		℃
3	格納容器破損	破損なし・破損あり・不明	

(5) モニタ

番号	項目	状態	備考
1	エリア放射線モニタ指示	上昇なし・上昇あり・不明	
2	プロセス放射線モニタ指示	上昇なし・上昇あり・不明	
3	モニタリング・ポスト指示	上昇なし・上昇あり・不明	

注) プラント状態確認チェックシートは、今後の訓練によって見直し可能性がある

共通6. 水源, その他

番号	項目	状態	備考
1	淡水貯水池	使用可能・使用不可・不明	
2	ろ過水タンク (荒浜側 No. 1)	使用可能・使用不可・不明	タンクレベル m
3	ろ過水タンク (荒浜側 No. 2)	使用可能・使用不可・不明	タンクレベル m
4	純水タンク (荒浜側 No. 1)	使用可能・使用不可・不明	タンクレベル m
5	純水タンク (荒浜側 No. 2)	使用可能・使用不可・不明	タンクレベル m
6	ろ過水タンク (大湊側 No. 3)	使用可能・使用不可・不明	タンクレベル m
7	ろ過水タンク (大湊側 No. 4)	使用可能・使用不可・不明	タンクレベル m
8	純水タンク (大湊側 No. 3)	使用可能・使用不可・不明	タンクレベル m
9	純水タンク (大湊側 No. 4)	使用可能・使用不可・不明	タンクレベル m
10	荒浜側防火水槽	使用可能・使用不可・不明	
11	大湊側防火水槽	使用可能・使用不可・不明	

共通7. 設備及び資機材の確認

番号	項目	状態	備考
7-1. 消火及び注水設備 荒浜側エリア【常設設備】			
1	荒浜側ディーゼル駆動消火ポンプ	運転中・停止中・使用不可・不明	
2	荒浜側電動消火ポンプ	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
3	純水移送ポンプ(A)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	1・2号炉共用
4	純水移送ポンプ(B)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	1・2号炉共用
5	純水移送ポンプ(C)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	1・2号炉共用
6	純水移送ポンプ(A)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	3・4号炉共用
7	純水移送ポンプ(B)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	3・4号炉共用
8	純水移送ポンプ(C)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	3・4号炉共用

第1表 プラント状態チェックシート (3/10)

【ステップ①-3】

6. 建屋等へのアクセス性確認

番号	項目*	状態	備考
6-1	中央制御室へのアクセス	可能・不可・不明	
6-2	原子炉建屋へのアクセス	可能・不可・不明	
6-3	タービン建屋へのアクセス	可能・不可・不明	
6-4	サービス建屋へのアクセス	可能・不可・不明	
6-5	復水貯蔵タンク外部接続口	可能・不可・不明	
6-6	代替淡水貯槽	可能・不可・不明	
6-7	西側淡水貯水設備	可能・不可・不明	
6-8	原子炉建屋東側接続口	可能・不可・不明	
6-9	原子炉建屋西側接続口	可能・不可・不明	
6-10	高所東側接続口	可能・不可・不明	
6-11	高所西側接続口	可能・不可・不明	

※ 建屋又は接続口の損壊状態を含め、事故対応への支障の有無の観点から確認する。

7. 施設損壊状態確認

番号	項目	状態	備考
7-1	原子炉建屋	損傷あり・損傷なし・不明	
7-2	タービン建屋	損傷あり・損傷なし・不明	
7-3	サービス建屋	損傷あり・損傷なし・不明	
7-4	使用済燃料乾式貯蔵建屋	損傷あり・損傷なし・不明	

(6) 燃料プール

番号	項目	状態	備考
1	燃料プール水位	通常水位・水位低下傾向・不明	m
2	燃料プール温度		℃
3	燃料プール冷却系 (FPC)	使用可能・使用不可・不明	
4	燃料プール補給水系 (FMW)	使用可能・使用不可・不明	
5	復水輸送系 (CWT)	使用可能・使用不可・不明	
6	補給水系 (MUW)	使用可能・使用不可・不明	
7	消火系 (FP)	使用可能・使用不可・不明	
8	A-残留熱除去系 (A-RHR)	使用可能・使用不可・不明	
9	B-残留熱除去系 (B-RHR)	使用可能・使用不可・不明	

(7) 電源

番号	項目	状態	備考
1	外部電源受電	受電中・停電中・使用不可・不明	
2	A-非常用ディーゼル発電機	運転中・待機中・冷却水なし・使用不可・不明	
3	B-非常用ディーゼル発電機	運転中・待機中・冷却水なし・使用不可・不明	
4	HPCS-非常用ディーゼル発電機	運転中・待機中・冷却水なし・使用不可・不明	
5	ガスタービン発電機 (2号用)	運転中・待機中・使用不可・不明	
6	ガスタービン発電機 (予備)	運転中・待機中・使用不可・不明	
7	電源融通	使用可能・使用不可・不明	

注) プラント状態確認チェックシートは、今後の訓練によって見直し可能性がある

番号	項目	状態	備考
7-2. 消火及び注水設備 大湊側エリア【常設設備】			
1	大湊側ディーゼル駆動消火ポンプ	運転中・停止中・使用不可・不明	
2	大湊側電動消火ポンプ	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
3	純水移送ポンプ(A)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用
4	純水移送ポンプ(B)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用
5	純水移送ポンプ(C)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用
6	純水移送ポンプ(D)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用
7-3. 大湊側エリア設備・資機材			
1	常設代替交流電源設備(第一ガスタービン発電機)	使用可能・使用不可・不明	
2	第一ガスタービン発電機用燃料タンク	使用可能・使用不可・不明	
3	可搬型代替交流電源設備(交流電源車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
4	可搬型直流電源設備(直流給電車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
5	仮設発電機	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
6	移動式変圧器	使用可能・使用不可・不明	
7	大湊側緊急用M/C	使用可能・使用不可・不明	
8	可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
9	代替原子炉補機冷却系	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 式
10	可搬型窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明	
11	大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
12	放水砲	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
13	ホース展張車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
14	汚濁防止膜	使用可能・使用不可・不明	
15	放射性物質吸着材	使用可能・使用不可・不明	
16	小型船舶	使用可能・使用不可・不明	使用可能艘数 艘
17	タンクローリ(4KL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
18	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台

第1表 プラント状態チェックシート (4/10)

8. 電源系統の確認 【ステップ①-4】

確認者: _____ 確認日時: _____ 年 月 日 時 分

番号	項目	状態	備考
8-1	外部電源	受電中・停電中・使用不可・不明	
8-2	高圧母線(2E)	受電中・停電中・使用不可・不明	
8-3	2C非常用ディーゼル発電機	受電中・停電中・使用不可・不明	
8-4	M/C 2C	受電中・停電中・使用不可・不明	
8-5	P/C 2C	受電中・停電中・使用不可・不明	
8-6	125V系蓄電池A系	受電中・停電中・使用不可・不明	
8-7	2D非常用ディーゼル発電機	運転中・待機中・使用不可・不明	
8-8	M/C 2D	受電中・停電中・使用不可・不明	
8-9	P/C 2D	受電中・停電中・使用不可・不明	
8-10	125V系蓄電池B系	受電中・停電中・使用不可・不明	
8-11	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機	運転中・待機中・使用不可・不明	
8-12	M/C HPCS	受電中・停電中・使用不可・不明	
8-13	125V系蓄電池HPCS系	受電中・停電中・使用不可・不明	
8-14	軽油貯蔵タンク	使用可能・使用不可・不明	
8-15	常設代替高圧電源装置	使用可能・使用不可・不明	
8-16	緊急用M/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
8-17	緊急用P/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
8-18	緊急用125V系蓄電池	受電中・停電中・使用不可・不明	
8-19	緊急用電源切替盤	使用可能・使用不可・不明	

3. プラント状態の確認(火災の確認)【ステップ1-1】

確認者: _____ 確認日時: _____ 年 月 日 時 分

番号	項目	状態	備考
1	航空機燃料等による火災	火災あり・火災なし・不明	発生場所: ・2号R/B ・2号T/B ・2号Rw/B ・2号C/B ・その他 ()
2	可搬型設備保管場所、接続口及び接続口までのアクセスルートに影響を与える火災	火災あり・火災なし・不明	発生場所: ・保管エリア () ・接続口周辺 () ・アクセスルート上 ()
3	上記以外の火災	火災あり・火災なし・不明	発生場所: () ()

4. 対応可能な要員の確認【ステップ1-2】

確認者: _____ 確認日時: _____ 年 月 日 時 分

番号	項目*	要員数	備考
緊急時対策要員(初動対応要員)			
1	運転員(9名)	名	
2	指示者(1名)	名	
3	連絡責任者(1名)	名	
4	連絡担当者(3名)	名	
5	放射線管理要員(3名)	名	
6	アクセスルート確保要員(2名)	名	
7	給水確保要員(6名)	名	
8	送水確保要員(6名)	名	
9	電源確保要員(3名)	名	
10	燃料確保要員(4名)	名	
11	自衛消防隊長(1名)	名	
12	消防チーム(6名)	名	
13	運転補助要員(2名)	名	

*: カッコ内は発電所内での必要最低人数

注) プラント状態確認チェックシートは、今後の訓練によって見直し可能性がある

番号	項目	状態	備考
19	大型化学高所放水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
20	泡原液搬送車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
21	泡原液混合装置	使用可能・使用不可・不明	
7-4. 荒浜エリア設備・資機材			
1	第二代替交流電源設備 (第二ガスタービン発電機)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
2	第二ガスタービン発電機用燃料タンク	使用可能・使用不可・不明	
3	第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ	使用可能・使用不可・不明	
4	可搬型代替交流電源設備 (交流電源車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
5	可搬型直流電源設備 (直流給電車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
6	緊急用M/C	使用可能・使用不可・不明	
7	仮設発電機	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
8	可搬型代替注水ポンプ (A-1級又はA-2級)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
9	代替原子炉補機冷却系	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 式
10	可搬型窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明	
11	可搬型格納容器窒素供給設備	使用可能・使用不可・不明	
12	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
13	放水砲	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
14	ホース展張車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
15	汚濁防止膜	使用可能・使用不可・不明	
16	放射性物質吸着材	使用可能・使用不可・不明	
17	小型船舶	使用可能・使用不可・不明	使用可能艘数 艘
18	タンクローリ (4kL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
19	タンクローリ (16kL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
20	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
21	化学消防自動車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
22	大型化学高所放水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
23	泡原液搬送車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
24	泡原液混合装置	使用可能・使用不可・不明	

第1表 プラント状態チェックシート (5/10)

9. 常設設備の確認 (1/2) 【ステップ①-4】

確認者: _____ 確認日時: _____ 年 月 日 時 分

番号	項目	状態	備考
9-1	高圧炉心スプレイ系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-2	原子炉隔離時冷却系	運転中・待機中・使用不可・不明	
9-3	高圧代替注水系	運転中・待機中・使用不可・不明	
9-4	低圧炉心スプレイ系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-5	残留熱除去系 (A)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-6	残留熱除去系 (B)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-7	残留熱除去系 (C)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-8	低圧代替注水系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-9	代替循環冷却系 (A)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-10	代替循環冷却系 (B)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-11	制御棒駆動水圧系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-12	ほう酸水注入系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-13	ほう酸水貯蔵タンク	使用可能・使用不可・不明	
9-14	ほう酸水テストタンク	使用可能・使用不可・不明	
9-15	給水系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-16	復水系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-17	消火系 (ディーゼル駆動消火ポンプ)	運転中・停止中・使用不可・不明	
9-18	消火系 (電動機駆動消火ポンプ)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-19	復水移送系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-20	純水移送系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-21	逃がし安全弁	使用可能・使用不可・不明	
9-22	非常用窒素供給系	使用可能・使用不可・不明	
9-23	非常用逃がし安全弁駆動系	使用可能・使用不可・不明	
9-24	残留熱除去系海水系 (A)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-25	残留熱除去系海水系 (B)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-26	緊急用海水系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-27	格納容器圧力逃がし装置	使用可能・使用不可・不明	

5. 通信設備の確認【ステップ1-2】

確認者: _____ 確認日時: _____ 年 月 日 時 分

番号	項目	状態	備考
1	所内通信連絡設備	使用可能・使用不可・不明	
2	電力保安通信用電話設備	使用可能・使用不可・不明	
3	衛星電話設備 (固定型)	使用可能・使用不可・不明	
4	衛星電話設備 (携帯型)	使用可能・使用不可・不明	
5	無線通信設備 (固定型)	使用可能・使用不可・不明	
6	無線通信設備 (携帯型)	使用可能・使用不可・不明	
7	安全パラメータ表示システム (SPDS)	使用可能・使用不可・不明	
8	局線加入電話設備	使用可能・使用不可・不明	
9	統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備	使用可能・使用不可・不明	
10	テレビ会議システム (社内用)	使用可能・使用不可・不明	
11	専用電話設備	使用可能・使用不可・不明	
12	有線式通信設備	使用可能・使用不可・不明	

6. 建物等へのアクセスルート確認【ステップ1-3】

確認者: _____ 確認日時: _____ 年 月 日 時 分

番号	項目	状態*	備考
1	中央制御室へのアクセス	可能・不可・不明	
2	原子炉建物へのアクセス	可能・不可・不明	
3	タービン建物へのアクセス	可能・不可・不明	
4	廃棄物処理建物へのアクセス	可能・不可・不明	
5	第1保管エリア (EL50m) へのアクセス	可能・不可・不明	
6	第2保管エリア (EL44m) へのアクセス	可能・不可・不明	
7	第3保管エリア (EL13~33m) へのアクセス	可能・不可・不明	
8	第4保管エリア (EL8.5m) へのアクセス	可能・不可・不明	
9	原子炉建物南側接続口へのアクセス	可能・不可・不明	
10	原子炉建物西側接続口へのアクセス	可能・不可・不明	
11	廃棄物処理建物南側接続口へのアクセス	可能・不可・不明	
12	建物内接続口へのアクセス	可能・不可・不明	
13	GTG建物接続口へのアクセス	可能・不可・不明	
14	輪谷貯水槽 (西1/西2) へのアクセス	可能・不可・不明	

※: 建物の損壊状況も含め、事故対応への支障の有無の観点から確認する。

注) プラント状態確認チェックシートは、今後の訓練によって見直し可能性がある

番号	項目	状態	備考
7-5. 消火設備 自衛消防隊詰め所			
1	化学消防自動車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
2	水槽付消防ポンプ自動車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台
3	泡消火薬剤備蓄車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台

第1表 プラント状態チェックシート (6/10)

9. 常設設備の確認 (2/2) 【ステップ①-4】

確認者: _____ 確認日時: _____ 年 月 日 時 分

番号	項目	状態	備考
9-28	耐圧強化ベント系	使用可能・使用不可・不明	
9-29	ドライウェル冷却系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-30	タービンバイパス系	使用可能・使用不可・不明	
9-31	原子炉補機冷却水系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-32	タービン補機冷却水系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-33	補機冷却海水系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-34	循環水系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-35	可燃性ガス濃度制御系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-36	静的触媒式水素再結合器	使用可能・使用不可・不明	
9-37	燃料プール冷却浄化系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
9-38	代替燃料プール冷却系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	

7. 施設損壊状態の確認【ステップ1-3】

確認者: _____ 確認日時: _____ 年 月 日 時 分

番号	項目	状態	備考
1	原子炉建物	損傷あり・損傷なし・不明	
2	タービン建物	損傷あり・損傷なし・不明	
3	廃棄物処理建物	損傷あり・損傷なし・不明	
4	制御室建物	損傷あり・損傷なし・不明	

8. 各機器の確認 (電源系統の確認)【ステップ1-4】

確認者: _____ 確認日時: _____ 年 月 日 時 分

番号	項目	状態	備考
1	2C-M/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
2	2C-L/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
3	C系C/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
4	2A-計装C/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
5	A-115V系直流盤	受電中・停電中・使用不可・不明	
6	A-原子炉中性子計装用母線	受電中・停電中・使用不可・不明	
7	A-非常用ディーゼル発電機	運転中・待機中・冷却水なし・使用不可・不明	
8	A-燃料デイトンク	使用可能・使用不可・不明	
9	A-ディーゼル燃料移送ポンプ	使用可能・電源なし・使用不可・不明	
10	A-ディーゼル燃料貯蔵タンク	使用可能・使用不可・不明	
11	2D-M/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
12	2D-L/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
13	D系C/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
14	2B-計装C/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
15	B-115V系直流盤	受電中・停電中・使用不可・不明	
16	B-115V系直流盤(SA)	受電中・停電中・使用不可・不明	
17	B-原子炉中性子計装用母線	受電中・停電中・使用不可・不明	
18	230V系直流盤(RCIC)	受電中・停電中・使用不可・不明	
19	SA対策設備用分電盤(2)	受電中・停電中・使用不可・不明	
20	B-非常用ディーゼル発電機	運転中・待機中・冷却水なし・使用不可・不明	
21	B-燃料デイトンク	使用可能・使用不可・不明	
22	B-ディーゼル燃料移送ポンプ	使用可能・電源なし・使用不可・不明	
23	B-ディーゼル燃料貯蔵タンク	使用可能・使用不可・不明	

注) プラント状態確認チェックシートは、今後の訓練によって見直し可能性がある

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)

東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)

島根原子力発電所 2号炉

備考

(2)プラント状態確認項目(6号及び7号炉用個別)

個別1. 初期状態の確認

番号	項目	状態	備考
1	プラント状況の確認が可能※	可能・不可	
2	原子炉停止 (確認日時 / :)	成功・失敗・不明	
3	原子炉水位	mm	
4	原子炉圧力	MPa	
5	原子炉格納容器圧力	kPa[abs]	
6	主蒸気隔離弁	全開・全閉・一部開・不明	
7	SFP 水位	m	
8	SFP 温度	℃	
9	ECCS 作動要求	作動要求あり・ 作動要求なし・不明	
10	外部電源受電	受電中・停電中・ 使用不可・不明	

※中央制御室又は緊急時対策所にてプラント状況の確認を実施する。

個別2. モニタ指示確認

番号	項目	状態	備考
1	プロセスモニタ指示	上昇なし・上昇あり・不明	
2	エリアモニタ指示	上昇なし・上昇あり・不明	

個別3. 通信関係の確認

番号	項目	状態	備考
1	送受信器 (ベージング)	使用可能・使用不可・不明	
2	電力保安通信用電話設備	使用可能・使用不可・不明	
3	携帯型音声呼出電話設備	使用可能・使用不可・不明	
4	衛星電話設備 (常設)	使用可能・使用不可・不明	
5	無線連絡設備 (常設)	使用可能・使用不可・不明	
6	プロセス計算機	使用可能・使用不可・不明	
7	データ伝送装置	使用可能・使用不可・不明	
8	加入電話機	使用可能・使用不可・不明	

番号	項目	状態	備考
24	HPCS-M/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
25	HPCS-C/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
26	高圧炉心スプレイ系直流流盤	受電中・停電中・使用不可・不明	
27	HPCS-非常用ディーゼル発電機	運転中・待機中・冷却水なし ・使用不可・不明	
28	HPCS-燃料デイトンク	使用可能・使用不可・不明	
29	HPCS-ディーゼル燃料移送ポンプ	使用可能・電源なし・使用不可 ・不明	
30	HPCS-ディーゼル燃料貯蔵タンク	使用可能・使用不可・不明	
31	緊急用M/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
32	SA-L/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
33	SA1-C/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
34	SA2-C/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
35	メタクラ切替盤	受電中・停電中・使用不可・不明	
36	SA電源切替盤	受電中・停電中・使用不可・不明	
37	充電器電源切替盤	受電中・停電中・使用不可・不明	
38	ガスタービン発電機 (2号用)	運転中・待機中・使用不可・不明	
39	ガスタービン発電機用サービスタンク (2号炉用)	使用可能・使用不可・不明	
40	ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ (2号炉用)	使用可能・電源なし・使用不可 ・不明	
41	ガスタービン発電機 (予備)	運転中・待機中・使用不可・不明	
42	ガスタービン発電機用サービスタンク (予備)	使用可能・使用不可・不明	
43	ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ (予備)	使用可能・電源なし・使用不可 ・不明	
44	ガスタービン発電機用軽油タンク	使用可能・使用不可・不明	
45	2A-M/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
46	2B-M/C	受電中・停電中・使用不可・不明	
47	230V系直流流盤 (常用)	受電中・停電中・使用不可・不明	
48	号炉間電力融通電気設備	使用可能・使用不可・不明	
49	号炉間連絡ケーブル	使用可能・使用不可・不明	
50	主蒸気逃がし安全弁用蓄電池 (補助盤室)	使用可能・使用不可・不明	
51	主蒸気逃がし安全弁用蓄電池 (原子炉建物)	使用可能・使用不可・不明	

注) プラント状態確認チェックシートは、今後の訓練によって見直し可能性がある

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考																																																																																																																				
<p>個別4. 建屋アクセス性の確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>中央制御室へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>コントロール建屋へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>原子炉建屋へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>タービン建屋へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>廃棄物処理建屋へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>サービス建屋へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>海水熱交換器建屋へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>発電所外からのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>※建屋の損壊状態を含め、事故対応への支障の有無の観点から確認する。</p>	番号	項目	状態	備考	1	中央制御室へのアクセス性	可能・不可・不明		2	コントロール建屋へのアクセス性	可能・不可・不明		3	原子炉建屋へのアクセス性	可能・不可・不明		4	タービン建屋へのアクセス性	可能・不可・不明		5	廃棄物処理建屋へのアクセス性	可能・不可・不明		6	サービス建屋へのアクセス性	可能・不可・不明		7	海水熱交換器建屋へのアクセス性	可能・不可・不明		8	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へのアクセス性	可能・不可・不明		9	発電所外からのアクセス性	可能・不可・不明			<p>9. 各機器の確認 (常設設備の確認) 【ステップ1-4】</p> <p>確認者: _____ 確認日時: _____ 年 月 日 時 分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">9.1 原子炉注水, 原子炉格納容器除熱設備 【常設設備】</td> </tr> <tr><td>1</td><td>高圧炉心スプレイ・ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>原子炉隔離時冷却ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>高圧原子炉代替注水ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>A-ほう酸水注入ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>B-ほう酸水注入ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>原子炉浄化補助ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>A-制御棒駆動水圧ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>B-制御棒駆動水圧ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>低圧炉心スプレイ・ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>A-残留熱除去ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>B-残留熱除去ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>C-残留熱除去ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>A-復水輸送ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>B-復水輸送ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>C-復水輸送ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>A-消火ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明</td><td>消火設備兼用</td></tr> <tr><td>17</td><td>B-消火ポンプ</td><td>運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明</td><td>消火設備兼用</td></tr> </tbody> </table> <p>注) プラント状態確認チェックシートは、今後の訓練によって見直す可能性がある</p>	番号	項目	状態	備考	9.1 原子炉注水, 原子炉格納容器除熱設備 【常設設備】				1	高圧炉心スプレイ・ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明		2	原子炉隔離時冷却ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明		3	高圧原子炉代替注水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明		4	A-ほう酸水注入ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明		5	B-ほう酸水注入ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明		6	原子炉浄化補助ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明		7	A-制御棒駆動水圧ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明		8	B-制御棒駆動水圧ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明		9	低圧炉心スプレイ・ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明		10	A-残留熱除去ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明		11	B-残留熱除去ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明		12	C-残留熱除去ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明		13	A-復水輸送ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明		14	B-復水輸送ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明		15	C-復水輸送ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明		16	A-消火ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	消火設備兼用	17	B-消火ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	消火設備兼用	
番号	項目	状態	備考																																																																																																																				
1	中央制御室へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																					
2	コントロール建屋へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																					
3	原子炉建屋へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																					
4	タービン建屋へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																					
5	廃棄物処理建屋へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																					
6	サービス建屋へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																					
7	海水熱交換器建屋へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																					
8	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																					
9	発電所外からのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																					
番号	項目	状態	備考																																																																																																																				
9.1 原子炉注水, 原子炉格納容器除熱設備 【常設設備】																																																																																																																							
1	高圧炉心スプレイ・ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明																																																																																																																					
2	原子炉隔離時冷却ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明																																																																																																																					
3	高圧原子炉代替注水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明																																																																																																																					
4	A-ほう酸水注入ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明																																																																																																																					
5	B-ほう酸水注入ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明																																																																																																																					
6	原子炉浄化補助ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明																																																																																																																					
7	A-制御棒駆動水圧ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明																																																																																																																					
8	B-制御棒駆動水圧ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明																																																																																																																					
9	低圧炉心スプレイ・ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明																																																																																																																					
10	A-残留熱除去ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明																																																																																																																					
11	B-残留熱除去ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明																																																																																																																					
12	C-残留熱除去ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明																																																																																																																					
13	A-復水輸送ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明																																																																																																																					
14	B-復水輸送ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明																																																																																																																					
15	C-復水輸送ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明																																																																																																																					
16	A-消火ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	消火設備兼用																																																																																																																				
17	B-消火ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	消火設備兼用																																																																																																																				
<p>個別5. 施設損壊状態確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>SFP 損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>原子炉格納容器損傷 (ドライウエル)</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>原子炉格納容器損傷 (サブプレッション・チェンバ)</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>復水貯蔵槽損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td>水位 m</td></tr> <tr><td>5</td><td>原子炉建屋損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>タービン建屋損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>コントロール建屋損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>廃棄物処理建屋損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>サービス建屋損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>非常用取水設備損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>主排気筒損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	項目	状態	備考	1	SFP 損傷	損傷あり・損傷なし・不明		2	原子炉格納容器損傷 (ドライウエル)	損傷あり・損傷なし・不明		3	原子炉格納容器損傷 (サブプレッション・チェンバ)	損傷あり・損傷なし・不明		4	復水貯蔵槽損傷	損傷あり・損傷なし・不明	水位 m	5	原子炉建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明		6	タービン建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明		7	コントロール建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明		8	廃棄物処理建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明		9	サービス建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明		10	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所損傷	損傷あり・損傷なし・不明		11	非常用取水設備損傷	損傷あり・損傷なし・不明		12	主排気筒損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																				
番号	項目	状態	備考																																																																																																																				
1	SFP 損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																					
2	原子炉格納容器損傷 (ドライウエル)	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																					
3	原子炉格納容器損傷 (サブプレッション・チェンバ)	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																					
4	復水貯蔵槽損傷	損傷あり・損傷なし・不明	水位 m																																																																																																																				
5	原子炉建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																					
6	タービン建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																					
7	コントロール建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																					
8	廃棄物処理建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																					
9	サービス建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																					
10	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																					
11	非常用取水設備損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																					
12	主排気筒損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																					

個別6. 電源系統の確認

番号	項目	状態	備考
1	非常用ディーゼル発電機 (A)	運転中・待機中・使用不可・不明	
2	非常用ディーゼル発電機 (A) 燃料ディタンク	使用可能・使用不可・不明	
3	非常用ディーゼル発電機 (A) 燃料移送ポンプ	使用可能・使用不可・不明	
4	非常用ディーゼル発電機 (B)	運転中・待機中・使用不可・不明	
5	非常用ディーゼル発電機 (B) 燃料ディタンク	使用可能・使用不可・不明	
6	非常用ディーゼル発電機 (B) 燃料移送ポンプ	使用可能・使用不可・不明	
7	非常用ディーゼル発電機 (C)	運転中・待機中・使用不可・不明	
8	非常用ディーゼル発電機 (C) 燃料ディタンク	使用可能・使用不可・不明	
9	非常用ディーゼル発電機 (C) 燃料移送ポンプ	使用可能・使用不可・不明	
10	軽油タンク (A)	使用可能・使用不可・不明	
11	軽油タンク (B)	使用可能・使用不可・不明	
12	非常用 M/C (C) 受電	受電中・停電中・使用不可・不明	
13	非常用 M/C (D) 受電	受電中・停電中・使用不可・不明	
14	非常用 M/C (E) 受電	受電中・停電中・使用不可・不明	
15	非常用 P/C (C-1) 受電	受電中・停電中・使用不可・不明	
16	非常用 P/C (C-2) 受電	受電中・停電中・使用不可・不明	
17	非常用 P/C (D-1) 受電	受電中・停電中・使用不可・不明	
18	非常用 P/C (D-2) 受電	受電中・停電中・使用不可・不明	
19	非常用 P/C (E-1) 受電	受電中・停電中・使用不可・不明	
20	非常用 P/C (E-2) 受電	受電中・停電中・使用不可・不明	

第1表 プラント状態チェックシート (7/10)

10. 可搬型設備、資機材等の確認 (1/3) 【ステップ①-4】

(1) 西側保管場所

確認者	確認日時	年	月	日	時	分
番号	項目	状態			備考	
10-1	可搬型代替注水大型ポンプ (原子炉注水等用)	使用可能・使用不可・不明				
10-2	可搬型代替注水大型ポンプ (放水用)	使用可能・使用不可・不明				
10-3	可搬型代替注水中型ポンプ (原子炉注水等用)	使用可能・使用不可・不明				
10-4	可搬型代替注水中型ポンプ (消火用)	使用可能・使用不可・不明				
10-5	ホース (150A)	使用可能・使用不可・不明				
10-6	ホース (200A)	使用可能・使用不可・不明				
10-7	ホース (250A)	使用可能・使用不可・不明				
10-8	ホース (放水用) (300A)	使用可能・使用不可・不明				
10-9	ホース展開車 (消火用)	使用可能・使用不可・不明				
10-10	ホース展開車 (原子炉注水等用)	使用可能・使用不可・不明				
10-11	ホース展開車 (放水/代替RHS用)	使用可能・使用不可・不明				
10-12	放水砲	使用可能・使用不可・不明				
10-13	泡消火薬剤容器 (大型ポンプ用)	使用可能・使用不可・不明				
10-14	放水砲/泡消火薬剤運搬車	使用可能・使用不可・不明				
10-15	放水銃	使用可能・使用不可・不明				
10-16	水槽付消防ポンプ自動車	使用可能・使用不可・不明				
10-17	泡消火薬剤容器 (消防用)	使用可能・使用不可・不明				
10-18	可搬型代替低圧電源車	使用可能・使用不可・不明				
10-19	ケーブル	使用可能・使用不可・不明				
10-20	可搬型ケーブル運搬車	使用可能・使用不可・不明				
10-21	可搬型整流器	使用可能・使用不可・不明				
10-22	可搬型整流器運搬車	使用可能・使用不可・不明				
10-23	窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明				
10-24	窒素供給装置用電源車	使用可能・使用不可・不明				
10-25	汚濁防止膜	使用可能・使用不可・不明				
10-26	汚濁防止膜運搬車	使用可能・使用不可・不明				
10-27	放射性物質吸着材	使用可能・使用不可・不明				
10-28	小型船舶	使用可能・使用不可・不明				
10-29	小型船舶運搬車	使用可能・使用不可・不明				
10-30	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明				
10-31	タンクローリ	使用可能・使用不可・不明				

番号	項目	状態	備考
18	A-補助消火ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	消火設備兼用
19	B-補助消火ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	消火設備兼用
20	A-低圧原子炉代替注水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
21	B-低圧原子炉代替注水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
22	A-残留熱代替除去ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明	
23	B-残留熱代替除去ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明	
24	A-復水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明	
25	B-復水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明	
26	C-復水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明	
27	A-復水昇圧ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明	
28	B-復水昇圧ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明	
29	C-復水昇圧ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明	
30	A-タービン駆動原子炉給水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明	
31	B-タービン駆動原子炉給水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明	
32	A-電動機駆動原子炉給水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明	
33	B-電動機駆動原子炉給水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・冷却水なし・使用不可・不明	
34	タービンバイパス弁	使用可能・電源なし・使用不可 ・不明	
35	逃がし安全弁	使用可能・電源なし・使用不可 ・不明	

注) プラント状態確認チェックシートは、今後の訓練によって見直す可能性がある

番号	項目	状態	備考
21	計器用バイタル(A)受電	受電中・停電中・ 使用不可・不明	
22	計器用バイタル(B)受電	受電中・停電中・ 使用不可・不明	
23	計器用バイタル(C)受電	受電中・停電中・ 使用不可・不明	
24	計器用バイタル(D)受電	受電中・停電中・ 使用不可・不明	
25	直流 125V 主母線(A)受電	受電中・停電中・ 使用不可・不明	
26	直流 125V 主母線(B)受電	受電中・停電中・ 使用不可・不明	
27	直流 125V 主母線(C)受電	受電中・停電中・ 使用不可・不明	
28	直流 125V 主母線(D)受電	受電中・停電中・ 使用不可・不明	
29	安全系蓄電池用充電器	使用可能・使用不可・ 不明	
30	常設代替直流電源設備 (AM 用直流電源)	使用可能・使用不可・ 不明	
31	号炉間融通設備	使用可能・使用不可・ 不明	
32	代替所内電気設備	使用可能・使用不可・ 不明	
33	大湊側緊急用高圧母線	使用可能・使用不可・ 不明	
34	荒浜側緊急用高圧母線	使用可能・使用不可・ 不明	
35	可搬型直流電源設備	使用可能・使用不可・ 不明	

個別 7. 機器状態の確認

番号	項目	状態	備考
7-1. 炉心注水, 原子炉格納容器除熱機器【常設設備】			
1	原子炉隔離時冷却ポンプ	運転中・待機中・ 使用不可・不明	
2	高圧代替注水ポンプ	運転中・待機中・ 使用不可・不明	
3	高圧炉心注水ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	

第 1 表 プラント状態チェックシート (8/10)

10. 可搬型設備, 資機材等の確認 (2/3) 【ステップ①-4】

(2) 南側保管場所

確認者	確認日時	年	月	日	時	分
番号	項目	状態		備考		
10-32	可搬型代替注水大型ポンプ (原子炉注水等用)	使用可能・使用不可・不明				
10-33	可搬型代替注水大型ポンプ (放水用)	使用可能・使用不可・不明				
10-34	可搬型代替注水中型ポンプ (原子炉注水等用)	使用可能・使用不可・不明				
10-35	ホース (200A)	使用可能・使用不可・不明				
10-36	ホース (250A)	使用可能・使用不可・不明				
10-37	ホース (放水用) (300A)	使用可能・使用不可・不明				
10-38	ホース展開車 (原子炉注水等用)	使用可能・使用不可・不明				
10-39	ホース展開車 (放水/代替RHS用)	使用可能・使用不可・不明				
10-40	放水砲	使用可能・使用不可・不明				
10-41	泡消火薬剤容器 (大型ポンプ用)	使用可能・使用不可・不明				
10-42	放水砲/泡消火薬剤運搬車	使用可能・使用不可・不明				
10-43	化学消防自動車	使用可能・使用不可・不明				
10-44	泡消火薬剤容器 (消防用)	使用可能・使用不可・不明				
10-45	可搬型代替低圧電源車	使用可能・使用不可・不明				
10-46	ケーブル	使用可能・使用不可・不明				
10-47	可搬型ケーブル運搬車	使用可能・使用不可・不明				
10-48	可搬型整流器	使用可能・使用不可・不明				
10-49	可搬型整流器運搬車	使用可能・使用不可・不明				
10-50	窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明				
10-51	窒素供給装置用電源車	使用可能・使用不可・不明				
10-52	汚濁防止膜	使用可能・使用不可・不明				
10-53	汚濁防止膜運搬車	使用可能・使用不可・不明				
10-54	放射性物質吸着材	使用可能・使用不可・不明				
10-55	小型船舶	使用可能・使用不可・不明				
10-56	小型船舶運搬車	使用可能・使用不可・不明				
10-57	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明				
10-58	油圧ショベル	使用可能・使用不可・不明				
10-59	ブルドーザ	使用可能・使用不可・不明				
10-60	タンクローリ	使用可能・使用不可・不明				

番号	項目	状態	備考
36	逃がし安全弁窒素ガス代替供給設備	使用可能・電源なし・使用不可・ 不明	
37	逃がし安全弁用窒素ガスボンベ	使用可能・使用不可・不明	
38	格納容器フィルタベント系	使用可能・電源なし・使用不可・ 不明	
39	耐圧強化ベントライン	使用可能・電源なし・使用不可・ 不明	
40	遠隔手動弁操作機構	使用可能・使用不可・不明	
41	ドライウェル冷却装置	運転中・待機中・電源なし・ 冷却水なし・使用不可・不明	
42	サブプレッション・プール水 pH制御系	使用可能・電源なし・使用不可・ 不明	
9.2 水素爆発防止設備【常設設備】			
1	A-可燃性ガス濃度制御系再結合装置	運転中・待機中・電源なし・ 冷却水なし・使用不可・不明	
2	A-可燃性ガス濃度制御系再結合器ブロウ	運転中・待機中・電源なし・ 使用不可・不明	
3	B-可燃性ガス濃度制御系再結合装置	運転中・待機中・電源なし・ 冷却水なし・使用不可・不明	
4	B-可燃性ガス濃度制御系再結合器ブロウ	運転中・待機中・電源なし・ 使用不可・不明	
5	静的触媒式水素処理装置	使用可能・使用不可・不明	
6	原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル	使用可能・使用不可・不明	
7	窒素ガス制御系	使用可能・電源なし・使用不可・ 不明	

(注) プラント状態確認チェックシートは, 今後の訓練によって見直し可能性がある

番号	項目	状態	備考
4	高压炉心注水ポンプ(C)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
5	ほう酸水注入系ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
6	ほう酸水注入系ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
7	ほう酸水注入系貯蔵タンク	使用可能・使用不可・不明	
8	制御棒駆動水ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
9	制御棒駆動水ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
10	逃がし安全弁	使用可能・使用不可・不明	
11	タービンバイパス弁(タービン制御系)	使用可能・使用不可・不明	
12	高压窒素ガス供給系(高压窒素ガスポンプ)	使用可能・使用不可・不明	
13	残留熱除去系ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
14	残留熱除去系ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
15	残留熱除去系ポンプ(C)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
16	復水移送ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
17	復水移送ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
18	復水移送ポンプ(C)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
19	ドライウエル冷却送風機(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
20	ドライウエル冷却送風機(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
21	ドライウエル冷却送風機(C)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
22	ドライウエル除湿冷却器(A)	使用可能・使用不可・不明	
23	ドライウエル除湿冷却器(B)	使用可能・使用不可・不明	
24	低压復水ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	

第1表 プラント状態チェックシート (9/10)

10. 可搬型設備、資機材等の確認 (3/3) 【ステップ①-4】

(3) 予備機置場

確認者	確認日時	年	月	日	時	分
番号	項目	状態		備考		
10-61	可搬型代替注水大型ポンプ(原子炉注水等用)	使用可能・使用不可・不明				
10-62	可搬型代替注水中型ポンプ(原子炉注水等用)	使用可能・使用不可・不明				
10-63	ホース展張車(原子炉注水等用)	使用可能・使用不可・不明				
10-64	ホース展張車(放水/代替RHS用)	使用可能・使用不可・不明				
10-65	可搬型代替低圧電源車	使用可能・使用不可・不明				
10-66	可搬型高圧窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明				
10-67	放射能観測車	使用可能・使用不可・不明				
10-68	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明				
10-69	タンクローリ	使用可能・使用不可・不明				

(4) 監視所付近

確認者	確認日時	年	月	日	時	分
番号	項目	状態		備考		
10-70	水槽付消防ポンプ自動車	使用可能・使用不可・不明				
10-71	化学消防自動車	使用可能・使用不可・不明				
10-72	泡消火薬剤容器(消防用)	使用可能・使用不可・不明				

(5) 原子炉建屋内

確認者	確認日時	年	月	日	時	分
番号	項目	状態		備考		
10-73	可搬型スプレインゾル	使用可能・使用不可・不明				
10-74	ホース(65A)	使用可能・使用不可・不明				
10-75	高圧窒素ポンプ	使用可能・使用不可・不明				
10-76	逃がし安全弁用可搬型蓄電池	使用可能・使用不可・不明				

番号	項目	状態	備考
9.3 補機冷却設備【常設設備】			
1	A-原子炉補機冷却水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
2	B-原子炉補機冷却水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
3	C-原子炉補機冷却水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
4	D-原子炉補機冷却水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
5	A-原子炉補機海水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
6	B-原子炉補機海水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
7	C-原子炉補機海水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
8	D-原子炉補機海水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
9	高压炉心スプレイ補機冷却水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
10	高压炉心スプレイ補機海水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
11	A-タービン補機冷却水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
12	B-タービン補機冷却水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
13	C-タービン補機冷却水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
14	A-タービン補機海水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
15	B-タービン補機海水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	
16	C-タービン補機海水ポンプ	運転中・待機中・電源なし ・使用不可・不明	

(注) プラント状態確認チェックシートは、今後の訓練によって見直し可能性がある

番号	項目	状態	備考
25	低圧復水ポンプ(B)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
26	低圧復水ポンプ(C)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
27	高圧復水ポンプ(A)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
28	高圧復水ポンプ(B)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
29	高圧復水ポンプ(C)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
30	電動駆動給水ポンプ(A)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
31	電動駆動給水ポンプ(B)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
32	タービン駆動給水ポンプ(A)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
33	タービン駆動給水ポンプ(B)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
34	格納容器圧力逃がし装置(フィルタベント)	使用可能・使用不可・不明	
35	耐圧強化ベント	使用可能・使用不可・不明	
36	格納容器 pH 制御装置	使用可能・使用不可・不明	
37	遠隔手動弁操作設備(エクステンション)	使用可能・使用不可・不明	
38	空気駆動弁操作ポンプ	使用可能・使用不可・不明	
39	非常用ガス処理系	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
40	真空破壊弁	使用可能・使用不可・不明	
7-2. SFP 注水, 除熱機器【常設設備】			
1	燃料プール冷却ポンプ(A)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
2	燃料プール冷却ポンプ(B)	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
3	サブプレッションプール浄化系ポンプ	運転中・停止中・電源なし・使用不可・不明	
4	常設スプレイヘッダ	使用可能・使用不可・不明	
5	可搬型スプレイヘッダ	使用可能・使用不可・不明	
6	ステンレス鋼板	使用可能・使用不可・不明	

第1表 プラント状態チェックシート (10/10)

11. 水源の確認 【ステップ①-4】

確認者	確認日時	年	月	日	時	分
番号	項目	状態			備考	
11-1	サブプレッション・チェンバ	使用可能・使用不可・不明				
11-2	代替淡水貯槽	使用可能・使用不可・不明				
11-3	西側淡水貯水設備	使用可能・使用不可・不明				
11-4	復水貯蔵タンク	使用可能・使用不可・不明				
11-5	ろ過水貯蔵タンク	使用可能・使用不可・不明				
11-6	多目的タンク	使用可能・使用不可・不明				
11-7	純水タンク	使用可能・使用不可・不明				
11-8	原水タンク	使用可能・使用不可・不明				

番号	項目	状態	備考
9.4 燃料プール注水, 除熱設備【常設設備】			
1	A-燃料プール冷却ポンプ	運転中・待機中・電源なし・冷却水なし・使用不可・不明	
2	B-燃料プール冷却ポンプ	運転中・待機中・電源なし・冷却水なし・使用不可・不明	
3	燃料プール補給水ポンプ	運転中・待機中・電源なし・使用不可・不明	
4	燃料プール監視カメラ(SA)	使用可能・電源なし・冷却水なし・使用不可・不明	
5	燃料プール監視カメラ用冷却設備	使用可能・使用不可・電源なし・不明	
6	A-残留熱除去ポンプ	運転中・待機中・電源なし・冷却水なし・使用不可・不明	
7	B-残留熱除去ポンプ	運転中・待機中・電源なし・冷却水なし・使用不可・不明	
8	C-残留熱除去ポンプ	運転中・待機中・電源なし・冷却水なし・使用不可・不明	
9	A-復水輸送ポンプ	運転中・待機中・電源なし・使用不可・不明	
10	B-復水輸送ポンプ	運転中・待機中・電源なし・使用不可・不明	
11	C-復水輸送ポンプ	運転中・待機中・電源なし・使用不可・不明	
12	A-消火ポンプ	運転中・待機中・電源なし・使用不可・不明	消火設備兼用
13	B-消火ポンプ	運転中・待機中・電源なし・使用不可・不明	消火設備兼用
14	A-補助消火ポンプ	運転中・待機中・電源なし・使用不可・不明	消火設備兼用
15	B-補助消火ポンプ	運転中・待機中・電源なし・使用不可・不明	消火設備兼用
16	A-補給水ポンプ	運転中・待機中・電源なし・使用不可・不明	
17	B-補給水ポンプ	運転中・待機中・電源なし・使用不可・不明	
18	C-補給水ポンプ	運転中・待機中・電源なし・使用不可・不明	

注) プラント状態確認チェックシートは, 今後の訓練によって見直し可能性がある

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)

東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)

島根原子力発電所 2号炉

備考

番号	項目	状態	備考
7-3. 水素爆発防止設備【常設設備】			
1	格納容器内雰囲気モニタ 水素・酸素濃度	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
2	再結合器プロア(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
3	再結合器プロア(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
4	静的触媒式水素再結合装置 (原子炉建屋水素処理設備)	使用可能・使用不可・不明	
5	不活性ガス系	使用可能・使用不可・不明	
6	原子炉建屋トップベント	使用可能・使用不可・不明	
7-4. 補機冷却設備【常設設備】			
1	原子炉補機冷却水ポンプ (A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
2	原子炉補機冷却水ポンプ (B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
3	原子炉補機冷却水ポンプ (C)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
4	原子炉補機冷却水ポンプ (D)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
5	原子炉補機冷却水ポンプ (E)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
6	原子炉補機冷却水ポンプ (F)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
7	原子炉補機冷却海水ポンプ (A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
8	原子炉補機冷却海水ポンプ (B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
9	原子炉補機冷却海水ポンプ (C)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
10	原子炉補機冷却海水ポンプ (D)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
11	原子炉補機冷却海水ポンプ (E)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
12	原子炉補機冷却海水ポンプ (F)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	
13	タービン補機冷却水ポンプ (A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	

番号	項目	状態	備考
9.5 可搬型設備接続口			
1	低圧原子炉代替注水系(可搬型)接続口	使用可能・使用不可・不明	使用可能な接続口: R/B南側・西側 ・建物内
2	格納容器代替スプレイ系(可搬型)接続口	使用可能・使用不可・不明	使用可能な接続口: R/B南側・西側 ・建物内
3	ペDESTAL代替注水系(可搬型)接続口	使用可能・使用不可・不明	使用可能な接続口: R/B南側・西側 ・建物内
4	燃料プールのスプレイ系(常設スプレイヘッ ダ)接続口	使用可能・使用不可・不明	使用可能な接続口: R/B南側・西側
5	原子炉補機代替冷却系接続口	使用可能・使用不可・不明	使用可能な接続口: R/B南側・西側 ・建物内
6	高圧発電機車接続口	使用可能・使用不可・不明	使用可能な接続口: R/B南側・西側 ・GTG建物
7	直流給電車接続口	使用可能・使用不可・不明	使用可能な接続口: R/B南側・ Rw/B南側
8	原子炉ウエル代替注水系接続口	使用可能・使用不可・不明	使用可能な接続口: R/B南側・西側
9	窒素ガス代替注入系サブプレッション・チェン パ側供給用接続口	使用可能・使用不可・不明	使用可能な接続口: R/B南側・建物内
10	窒素ガス代替注入系ドライウエル側供給用 接続口	使用可能・使用不可・不明	使用可能な接続口: R/B南側・建物内
11	格納容器フィルタベント系窒素ガス供給用 接続口	使用可能・使用不可・不明	使用可能な接続口: R/B南側・建物内
12	格納容器フィルタベント系スクラバ水補給 用接続口	使用可能・使用不可・不明	使用可能な接続口: R/B南側
13	格納容器フィルタベント系水素濃度測定用 接続口	使用可能・使用不可・不明	使用可能な接続口: R/B南側

注) プラント状態確認チェックシートは、今後の訓練によって見直し可能性がある

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考																																																																																																																																																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">10.2 第2保管エリア (EL44m)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>大量送水車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中型ホース展開車 (150A)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>可搬型ストレータ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td colspan="4">10.3 第3保管エリア (EL13~33m)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>大量送水車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>可搬型ストレータ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中型ホース展開車 (150A)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>大型送水ポンプ車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ホイールローダ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>タンクローリ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>高圧発電機車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>移動式代替熱交換設備</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td colspan="4">10.4 第4保管エリア (EL8.5m)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>第1ベントフィルタ出口水素濃度計</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高圧発電機車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>移動式代替熱交換設備</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>250A ホース</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：本</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ホース運搬車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>大型送水ポンプ車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>300A ホース</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：本</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>大型ホース展開車 (300A)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>可搬式窒素供給装置</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>放射性物質吸着材</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：式</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>放射性物質吸着材運搬車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>シルトフェンス運搬車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>シルトフェンス</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：式</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>タンクローリ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ホイールローダ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>放水砲</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>化学消防自動車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>泡消火薬剤容器運搬車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>小型動力ポンプ付水槽車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>小型放水砲</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>泡消火薬剤容器</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：個</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>大量送水車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>大型ホース展開車 (150A)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能：台</td> </tr> </tbody> </table>	番号	項目	状態	備考	10.2 第2保管エリア (EL44m)				1	大量送水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	2	中型ホース展開車 (150A)	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	3	可搬型ストレータ	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	10.3 第3保管エリア (EL13~33m)				1	大量送水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	2	可搬型ストレータ	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	3	中型ホース展開車 (150A)	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	4	大型送水ポンプ車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	5	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	6	タンクローリ	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	7	高圧発電機車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	8	移動式代替熱交換設備	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	10.4 第4保管エリア (EL8.5m)				1	第1ベントフィルタ出口水素濃度計	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	2	高圧発電機車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	3	移動式代替熱交換設備	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	4	250A ホース	使用可能・使用不可・不明	使用可能：本	5	ホース運搬車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	6	大型送水ポンプ車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	7	300A ホース	使用可能・使用不可・不明	使用可能：本	8	大型ホース展開車 (300A)	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	9	可搬式窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	10	放射性物質吸着材	使用可能・使用不可・不明	使用可能：式	11	放射性物質吸着材運搬車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	12	シルトフェンス運搬車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	13	シルトフェンス	使用可能・使用不可・不明	使用可能：式	14	タンクローリ	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	15	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	16	放水砲	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	17	化学消防自動車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	18	泡消火薬剤容器運搬車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	19	小型動力ポンプ付水槽車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	20	小型放水砲	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	21	泡消火薬剤容器	使用可能・使用不可・不明	使用可能：個	22	大量送水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	23	大型ホース展開車 (150A)	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台	
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																								
10.2 第2保管エリア (EL44m)																																																																																																																																																											
1	大量送水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
2	中型ホース展開車 (150A)	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
3	可搬型ストレータ	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
10.3 第3保管エリア (EL13~33m)																																																																																																																																																											
1	大量送水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
2	可搬型ストレータ	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
3	中型ホース展開車 (150A)	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
4	大型送水ポンプ車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
5	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
6	タンクローリ	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
7	高圧発電機車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
8	移動式代替熱交換設備	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
10.4 第4保管エリア (EL8.5m)																																																																																																																																																											
1	第1ベントフィルタ出口水素濃度計	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
2	高圧発電機車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
3	移動式代替熱交換設備	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
4	250A ホース	使用可能・使用不可・不明	使用可能：本																																																																																																																																																								
5	ホース運搬車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
6	大型送水ポンプ車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
7	300A ホース	使用可能・使用不可・不明	使用可能：本																																																																																																																																																								
8	大型ホース展開車 (300A)	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
9	可搬式窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
10	放射性物質吸着材	使用可能・使用不可・不明	使用可能：式																																																																																																																																																								
11	放射性物質吸着材運搬車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
12	シルトフェンス運搬車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
13	シルトフェンス	使用可能・使用不可・不明	使用可能：式																																																																																																																																																								
14	タンクローリ	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
15	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
16	放水砲	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
17	化学消防自動車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
18	泡消火薬剤容器運搬車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
19	小型動力ポンプ付水槽車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
20	小型放水砲	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
21	泡消火薬剤容器	使用可能・使用不可・不明	使用可能：個																																																																																																																																																								
22	大量送水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
23	大型ホース展開車 (150A)	使用可能・使用不可・不明	使用可能：台																																																																																																																																																								
		<p style="text-align: center;">注) プラント状態確認チェックシートは、今後の訓練によって見直し可能性がある</p>																																																																																																																																																									

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考																																																																																																																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24</td> <td>可搬型ストレナ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能： 台</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>小型船舶</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能： 隻</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>小型船舶運搬車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能： 台</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>可搬式モニタリング・ポスト</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能： 台</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>モニタリング設備運搬車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能： 台</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>可搬式気象観測装置</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能： 台</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>緊急時対策所用発電機</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能： 台</td> </tr> <tr> <td>31</td> <td>緊急時対策所空気浄化送風機</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能： 台</td> </tr> <tr> <td>32</td> <td>緊急時対策所空気浄化フィルタユニット</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能： 台</td> </tr> <tr> <td>33</td> <td>緊急時対策所正圧化装置 (空気ポンペ)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能： 式</td> </tr> </tbody> </table> <p>11. 水源の確認【ステップ1-4】</p> <p>確認者： _____ 確認日時： _____ 年 月 日 時 分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ほう酸水貯蔵タンク</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>水位： m</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ほう酸水注入系テストタンク</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>水位： m</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>復水貯蔵タンク</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>水位： m</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>サブプレッション・チェンバ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>水位： m</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>低圧原子炉代替注水槽</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>水位： m</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1号ろ過水タンク</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>水位： m 消火用水源兼用</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>2号ろ過水タンク</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>水位： m 消火用水源兼用</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>非常用ろ過水タンク</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>水位： m 消火用水源兼用</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>純水タンク</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>水位： m</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>輪谷貯水槽(西1)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>水位： m</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>輪谷貯水槽(西2)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>水位： m</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>輪谷貯水槽(東1)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>輪谷貯水槽(東2)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>非常用取水設備</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>海水取水箇所</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>荷揚場</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>海水取水箇所</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>2号炉放水槽</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>海水取水箇所</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>1号炉取水槽</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>海水取水箇所</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>3号炉取水管点検立坑</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>海水取水箇所</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>補助消火水槽</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>消火用水源兼用</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">注) プラント状態確認チェックシートは、今後の訓練によって見直し可能性がある</p>	番号	項目	状態	備考	24	可搬型ストレナ	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台	25	小型船舶	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 隻	26	小型船舶運搬車	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台	27	可搬式モニタリング・ポスト	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台	28	モニタリング設備運搬車	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台	29	可搬式気象観測装置	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台	30	緊急時対策所用発電機	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台	31	緊急時対策所空気浄化送風機	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台	32	緊急時対策所空気浄化フィルタユニット	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台	33	緊急時対策所正圧化装置 (空気ポンペ)	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 式	番号	項目	状態	備考	1	ほう酸水貯蔵タンク	使用可能・使用不可・不明	水位： m	2	ほう酸水注入系テストタンク	使用可能・使用不可・不明	水位： m	3	復水貯蔵タンク	使用可能・使用不可・不明	水位： m	4	サブプレッション・チェンバ	使用可能・使用不可・不明	水位： m	5	低圧原子炉代替注水槽	使用可能・使用不可・不明	水位： m	6	1号ろ過水タンク	使用可能・使用不可・不明	水位： m 消火用水源兼用	7	2号ろ過水タンク	使用可能・使用不可・不明	水位： m 消火用水源兼用	8	非常用ろ過水タンク	使用可能・使用不可・不明	水位： m 消火用水源兼用	9	純水タンク	使用可能・使用不可・不明	水位： m	10	輪谷貯水槽(西1)	使用可能・使用不可・不明	水位： m	11	輪谷貯水槽(西2)	使用可能・使用不可・不明	水位： m	12	輪谷貯水槽(東1)	使用可能・使用不可・不明		13	輪谷貯水槽(東2)	使用可能・使用不可・不明		14	非常用取水設備	使用可能・使用不可・不明	海水取水箇所	15	荷揚場	使用可能・使用不可・不明	海水取水箇所	16	2号炉放水槽	使用可能・使用不可・不明	海水取水箇所	17	1号炉取水槽	使用可能・使用不可・不明	海水取水箇所	18	3号炉取水管点検立坑	使用可能・使用不可・不明	海水取水箇所	19	補助消火水槽	使用可能・使用不可・不明	消火用水源兼用	
番号	項目	状態	備考																																																																																																																												
24	可搬型ストレナ	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台																																																																																																																												
25	小型船舶	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 隻																																																																																																																												
26	小型船舶運搬車	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台																																																																																																																												
27	可搬式モニタリング・ポスト	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台																																																																																																																												
28	モニタリング設備運搬車	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台																																																																																																																												
29	可搬式気象観測装置	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台																																																																																																																												
30	緊急時対策所用発電機	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台																																																																																																																												
31	緊急時対策所空気浄化送風機	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台																																																																																																																												
32	緊急時対策所空気浄化フィルタユニット	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 台																																																																																																																												
33	緊急時対策所正圧化装置 (空気ポンペ)	使用可能・使用不可・不明	使用可能： 式																																																																																																																												
番号	項目	状態	備考																																																																																																																												
1	ほう酸水貯蔵タンク	使用可能・使用不可・不明	水位： m																																																																																																																												
2	ほう酸水注入系テストタンク	使用可能・使用不可・不明	水位： m																																																																																																																												
3	復水貯蔵タンク	使用可能・使用不可・不明	水位： m																																																																																																																												
4	サブプレッション・チェンバ	使用可能・使用不可・不明	水位： m																																																																																																																												
5	低圧原子炉代替注水槽	使用可能・使用不可・不明	水位： m																																																																																																																												
6	1号ろ過水タンク	使用可能・使用不可・不明	水位： m 消火用水源兼用																																																																																																																												
7	2号ろ過水タンク	使用可能・使用不可・不明	水位： m 消火用水源兼用																																																																																																																												
8	非常用ろ過水タンク	使用可能・使用不可・不明	水位： m 消火用水源兼用																																																																																																																												
9	純水タンク	使用可能・使用不可・不明	水位： m																																																																																																																												
10	輪谷貯水槽(西1)	使用可能・使用不可・不明	水位： m																																																																																																																												
11	輪谷貯水槽(西2)	使用可能・使用不可・不明	水位： m																																																																																																																												
12	輪谷貯水槽(東1)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																													
13	輪谷貯水槽(東2)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																													
14	非常用取水設備	使用可能・使用不可・不明	海水取水箇所																																																																																																																												
15	荷揚場	使用可能・使用不可・不明	海水取水箇所																																																																																																																												
16	2号炉放水槽	使用可能・使用不可・不明	海水取水箇所																																																																																																																												
17	1号炉取水槽	使用可能・使用不可・不明	海水取水箇所																																																																																																																												
18	3号炉取水管点検立坑	使用可能・使用不可・不明	海水取水箇所																																																																																																																												
19	補助消火水槽	使用可能・使用不可・不明	消火用水源兼用																																																																																																																												

実際の運用では本例示のように記載内容をより具体化した様式を用いる。

作成責任者：総務班長

共通

目標：事業発生後、30分以内確認

確認時間

2. 対応可能な要員の確認

NO.	設備・機器・項目	状態	確認内容	作成者	提出先	備考
1	本部系(1名)	名	・警備状況・安否			※1 カッコ内は発電所での必要最低人数 ※2 6号及び7号炉の原子炉主任技師をそれぞれ1名は、原則に非等集員が可能なエリアに待機する
2	本部のOP/安全監視担当(1名)	名	・警備状況・安否			
3	原子炉主任技術者(2名) ^{※1}	名	・警備状況・安否			
4	対外対応技師(1名) 通報班(2名) 立地・広域班(1名)	名	・警備状況・安否			
5	計画・情報班(1名) 計画班(1~3号)(2名) 計画班(6,7号)(2名) 保安班(2名) 保安班班長(1名)	名	・警備状況・安否			
6	1~3号炉 監視班(1名) 監視班(1名) 復旧班(1名)	名	・警備状況・安否	総務班長	計画班	
7	6号炉 監視班(1名) 監視班(3名) 復旧班(2名)	名	・警備状況・安否			
8	7号炉 監視班(1名) 監視班(3名) 復旧班(2名)	名	・警備状況・安否			
9	復旧班班長要員(1名)	名	・警備状況・安否			
10	総務班班長(1名) 総務班(1名)	名	・警備状況・安否			
11	自衛消防班(10名)	名	・警備状況・安否			

(注)記載内容については、今後の運用によって見直し可能性がある

・記載表現の相違
 【柏崎 6/7】
 柏崎 6/7 は、使用する様式を記載

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p style="text-align: right;">添付資料 2. 1. 12</p> <p><u>個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧について</u></p> <p>大規模損壊発生時に初動対応フローから選択する個別戦略の決定に当たっては、要員及び設備を含めた残存する資源から必要な手順等を確認し、有効な戦略を迅速かつ確実に選定する必要がある。</p> <p><u>表 1 に示す個別戦略による対応が必要と判断された場合には、個別戦略フローに基づいて当該の手順書等を選択し、事故緩和措置を実施する。</u></p> <p>また、大規模損壊発生時の対応手順書等の体系図を示す。</p>	<p style="text-align: right;">添付資料 2. 1. 11</p> <p>大規模損壊発生時に使用する対応手順書及び設備一覧について</p> <p>大規模損壊発生時に初動対応フローから選択する個別戦略の決定に当たっては、要員及び設備を含めた残存する資源から必要な手順等を確認し、有効な戦略を迅速かつ確実に選定する必要がある。</p> <p>第1表に個別戦略において必要な対応操作、対応操作に必要な設備とその容量、準備開始から必要となるまでの時間、必要な要員数をまとめた表を示す。</p> <p>また、第1図に大規模損壊発生時の対応手順書体系図を示す。</p>	<p style="text-align: right;">添付資料 2. 1. 12</p> <p>大規模損壊発生時に使用する対応手順書及び設備一覧について</p> <p>大規模損壊発生時に初動対応フローから選択する個別戦略の決定に当たっては、要員及び設備を含めた残存する資源から必要な手順等を確認し、有効な戦略を迅速かつ確実に選定する必要がある。</p> <p>第 1 表に個別戦略において必要な対応操作、対応操作に必要な設備とその容量、準備開始から必要となるまでの時間、必要な要員数をまとめた表を示す。</p> <p>また、第 1 図に大規模損壊発生時の対応手順書体系図を示す。</p>	

表 1 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (7号炉の例) (1/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る事項の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
① アクセスマウント確保戦略 [がれき撤去等]	①多様なボルト下引込要領 [状況確認とアクセスマウント確保]	「状況確認とアクセスマウント確保」 (1.0)	・電線車 (保管場所: T.M.S.L. 13m) ・ホイールローダー (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・ホイールローダー (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・ホイールローダー (保管場所: T.M.S.L. 35m以上)	-	-	15分 10分/箇所 3分/箇所	復旧員 2名 復旧員 2名 復旧員 2名
	②水圧調整計画 [水圧調整計画]	(2.1)	・化学消防自動車 (保管場所: T.M.S.L. 13m、37m) 各1台 ・水櫃付消防ポンプ自動車 (保管場所: T.M.S.L. 13m又は37m) 各数: 1台 ・大型化学消防自動車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 各数: 1台 ・可搬型代替注水ポンプ (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 各数: 2台 ・放水車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 各数: 2台 ・ホース巻取車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 各数: 2台 ・大型高圧送車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 各数: 1台 ・大型高圧送車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 各数: 2台 ・大型高圧送車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 各数: 2台	・消防水 ・取水ポンプ ・取水ポンプ ・取水ポンプ	・3%濃硫酸 ・5%濃硫酸 ・1%濃硫酸 ・他消防水	20分~消火開始 6名 復旧員 8名	自衛消防隊 6名 復旧員 8名
② 消火戦略	「手動消火」	(1.1)	・ほう湯水タンク (保管場所: T.M.S.L. 37m)	3Lタンク	-	3分	2名
	「ステータスマウント引込によるアクセスマウント確保」 「フレッドアイドヒューズ引き抜き」	(2.1)	・ほう湯水タンク (保管場所: T.M.S.L. 37m)	-	-	3分	2名

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

第 1 表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (1/11)

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る事項の該当項目」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
① アクセスマウント確保戦略 [がれき撤去等]	「状況確認とアクセスマウント確保」	(1.0)	・ホイールローダー (台数: 5) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備機置場) ・ブルドーザー (台数: 1) (保管場所: 南側保管場所) ・油圧ショベル (台数: 1) (保管場所: 南側保管場所)	-	-	30分	重大事故等対応要員 2名
	「がれき撤去等」	(2.1)	・ガス溶断機 (台数: 2) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所) ・化学消防自動車 (容量: 水: 2.5m ³ /min (1台当たり)、泡: 0.5m ³ /min (1台当たり)、吐出圧力: 0.85MPa, 台数: 2) (保管場所: 西側保管場所、監視所付近) ・水櫃付消防ポンプ自動車 (容量: 2.5m ³ /min (1台当たり)、吐出圧力: 0.7MPa, 台数: 2) (保管場所: 西側保管場所、監視所付近) ・可搬型代替注水ポンプ (消火用) (容量: 約 210m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 100m, 台数: 1) (保管場所: 西側保管場所) ・可搬型代替注水ポンプ (放水用) (容量: 約 1,380m ³ /h, 揚程: 約 135m, 台数: 2) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所) ・放水砲 (台数: 2) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所)	・消火栓 ・取水ポンプ	被災状況・規模により所要時間は変動	約 1.44km/h	重大事故等対応要員 2名
② 消火戦略	「消火活動」	(1.0)	・ほう湯水タンク (保管場所: T.M.S.L. 37m)	-	-	40分	重大事故等対応要員 2名
	「ステータスマウント引込によるアクセスマウント確保」 「フレッドアイドヒューズ引き抜き」	(2.1)	・ほう湯水タンク (保管場所: T.M.S.L. 37m)	-	-	40分	重大事故等対応要員 2名

第 1 表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (1/14)

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る事項の該当項目」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
① アクセスマウント確保戦略 [がれき撤去等]	①多様なボルト下引込要領 [状況確認とアクセスマウント確保]	(1.0)	・電線車 (保管場所: T.M.S.L. 13m) ・ホイールローダー (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・ホイールローダー (保管場所: T.M.S.L. 35m以上)	-	-	約 1.5km/h	緊急時対応要員 2名
	②水圧調整計画 [水圧調整計画]	(2.1)	・化学消防自動車 (保管場所: T.M.S.L. 13m、37m) 各1台 ・水櫃付消防ポンプ自動車 (保管場所: T.M.S.L. 13m又は37m) 各数: 1台 ・大型化学消防自動車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 各数: 1台 ・可搬型代替注水ポンプ (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 各数: 2台 ・放水車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 各数: 2台 ・ホース巻取車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 各数: 2台 ・大型高圧送車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 各数: 1台 ・大型高圧送車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 各数: 2台 ・大型高圧送車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 各数: 2台	・消防水 ・取水ポンプ ・取水ポンプ ・取水ポンプ	・3%濃硫酸 ・5%濃硫酸 ・1%濃硫酸 ・他消防水	1時間 10分~消火開始 1時間 40分~消火開始 8時間 10分以内 緊急時対応要員 2名	自衛消防隊 7名 復旧員 8名
② 消火戦略	「手動消火」	(1.1)	・ほう湯水タンク (保管場所: T.M.S.L. 37m)	-	-	3分	2名
	「ステータスマウント引込によるアクセスマウント確保」 「フレッドアイドヒューズ引き抜き」	(2.1)	・ほう湯水タンク (保管場所: T.M.S.L. 37m)	-	-	6分以内	2名

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

・設備及び運用の相違
【柏崎 6/7, 東海第二】
対応手段における対応設備及び運用の相違
・記載表現の相違
【東海第二】
東海第二は、原子炉停止戦略について、対応手順書等及び設備一覧 (2/11) に記載

表 1 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (7号炉の例) (2/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に 係る書式等 の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
③ 原子炉停止戦略	「個々の調整機種の電動挿入」		—	—	配(0)移行機種の 全数を挿入又は 16台以下 まで維持	—	運転員 2名
	「原子炉水位制御」	(1.1)	<ul style="list-style-type: none"> 電動機駆動原子炉給水ポンプ 台数：2台 (容量：2340m³/h/台、揚程：835m) 高圧復水ポンプ 台数：3台 (容量：3300m³/h/台、揚程：225m) 低圧復水ポンプ 台数：3台 (容量：2700m³/h/台、揚程：155m) 制御機駆動水ポンプ 台数：2台 (容量：460m³/h/台、揚程：1420m) 原子炉内循環冷却系ポンプ 台数：1台 (容量：1850m³/h、揚程：高圧側900m、低圧側185m) 高圧炉心冷却水ポンプ 台数：1台 (容量：高圧側182m³/h、低圧側727m³/h、揚程：高圧側890m、低圧側190m) 	—	配(0)移行機種の 出力3%維持	—	運転員 2名
④ 原子炉停止戦略への 注水戦略	「原子炉注水」		<ul style="list-style-type: none"> 高圧炉心冷却水ポンプ 台数：1台 (容量：高圧側182m³/h、低圧側727m³/h、揚程：高圧側890m、低圧側190m) 電動機駆動原子炉給水ポンプ 台数：2台 (容量：2340m³/h/台、揚程：835m) 高圧復水ポンプ 台数：3台 (容量：3300m³/h/台、揚程：225m) 低圧復水ポンプ 台数：3台 (容量：2700m³/h/台、揚程：155m) 高圧炉心冷却水ポンプ 台数：1台 (容量：高圧側182m³/h、低圧側727m³/h、揚程：高圧側890m、低圧側190m) 	—	—	電源有の場合 中機操作	運転員 2名
	「給・復水系による原子炉注水」	(1.2) (1.3) (1.4) (1.13)	<ul style="list-style-type: none"> 復水移送ポンプ 台数：3台 (容量：186m³/h/台、揚程：103m) 	—	—	—	運転員 2名
	「兩次ポンプによる原子炉注水」		<ul style="list-style-type: none"> 「ディーゼル駆動消防ポンプ」 台数：1台 (容量：177m³/h、揚程：75m) 	—	—	—	運転員 2名

第 1 表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (2/11)

個別戦略	手順書等	技術的能力に 係る書式 の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
③ 原子炉停止戦略	「原子炉注水」		<ul style="list-style-type: none"> 「ほうろく水注入ポンプ」 (容量：約9.75m³/h (1台当たり)、揚程：約370m、台数：2) 「ほうろく水貯蔵タンク」 (容量：約19.5m³、基数：1) 	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 1名
	「代替制御機入機種の自動挿入操作」		—	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名
④ 原子炉停止戦略	「選択制御機入機種の自動挿入操作」		—	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名
	「スクラム・バイロケット弁制御空気系操作」		—	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名
	「スクラム・リセット後のスクラム制御スイッチの操作」 (スクラム制御の場合)		—	—	—	72分以内	当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (現機) 2名
⑤ 原子炉停止戦略	「制御機駆動水圧差の引抜きポンプからの排水操作」		—	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名
	「原子炉水位低下操作」	(1.1)	<ul style="list-style-type: none"> 電動機駆動原子炉給水ポンプ (容量：2,157.5m³/h (1台当たり)、揚程：702m、台数：2) 高圧復水ポンプ (容量：3,792m³/h (1台当たり)、揚程：365.5m、台数：3) 低圧復水ポンプ (容量：3,792m³/h (1台当たり)、揚程：34.5m、台数：3) 制御機駆動水ポンプ (容量：46.3m³/h (1台当たり)、揚程：約82m、台数：2) 原子炉内循環冷却系ポンプ (容量：約142m³/h、揚程：約890m～約185m、台数：1) 高圧炉心スプレッドポンプ (容量：約1,440m³/h、揚程：約257m、台数：1) 	—	—	139分以内	当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (現機) 2名
⑥ 原子炉停止戦略	「スクラム・リセット後のスクラム制御スイッチの操作」		—	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名
	「スクラム・リセット後のスクラム制御スイッチの操作」		—	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名

第 1 表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (2/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に 係る書式 の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
③ 原子炉停止戦略	「原子炉注水」		<ul style="list-style-type: none"> 「ほうろく水注入ポンプ」 (容量：約9.75m³/h (1台当たり)、揚程：約370m、台数：2) 「ほうろく水貯蔵タンク」 (容量：約19.5m³、基数：1) 	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 1名
	「代替制御機入機種の自動挿入操作」		—	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名
④ 原子炉停止戦略	「選択制御機入機種の自動挿入操作」		—	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名
	「スクラム・バイロケット弁制御空気系操作」		—	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名
	「スクラム・リセット後のスクラム制御スイッチの操作」 (スクラム制御の場合)		—	—	—	72分以内	当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (現機) 2名
⑤ 原子炉停止戦略	「制御機駆動水圧差の引抜きポンプからの排水操作」		—	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名
	「原子炉水位低下操作」	(1.1)	<ul style="list-style-type: none"> 電動機駆動原子炉給水ポンプ (容量：2,157.5m³/h (1台当たり)、揚程：702m、台数：2) 高圧復水ポンプ (容量：3,792m³/h (1台当たり)、揚程：365.5m、台数：3) 低圧復水ポンプ (容量：3,792m³/h (1台当たり)、揚程：34.5m、台数：3) 制御機駆動水ポンプ (容量：46.3m³/h (1台当たり)、揚程：約82m、台数：2) 原子炉内循環冷却系ポンプ (容量：約142m³/h、揚程：約890m～約185m、台数：1) 高圧炉心スプレッドポンプ (容量：約1,440m³/h、揚程：約257m、台数：1) 	—	—	995分以内	当直運転員 (中機) 2名
⑥ 原子炉停止戦略	「スクラム・リセット後のスクラム制御スイッチの操作」		—	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名
	「スクラム・リセット後のスクラム制御スイッチの操作」		—	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名

備考

- 設備及び運用の相違
- 【柏崎6/7, 東海第二】
対応手段における対応設備及び運用の相違
- 記載表現の相違
- 【東海第二】
東海第二は、原子炉圧力容器への注水戦略を対応手順書等及び設備一覧(3/11)及び(4/11)に記載

表1 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (7号炉の例) (3/14)

Table with columns: 個別戦略, 手順書等, 目的的能力に係る重要事項の該当項目, 主要な使用設備 (保管場所, 仕様等), 水源, 備考, 所要時間 (目安), 必要人員 (目安).

注) 本資料は, 訓練等の実績により見直す可能性があり, 使用設備, 所要時間, 必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (3/11)

Table with columns: 個別戦略, 手順書等, 目的的能力に係る重要事項の該当項目, 主要な使用設備 (保管場所, 仕様等), 水源, 備考, 所要時間 (目安), 必要人員 (目安).

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (3/14)

Table with columns: 個別戦略, 手順書等, 目的的能力に係る重要事項の該当項目, 主要な使用設備 (保管場所, 仕様等), 水源, 備考, 所要時間 (目安), 必要人員 (目安).

注) 本資料は, 訓練等の実績により見直す可能性があり, 使用設備, 所要時間, 必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

・設備及び運用の相違【柏崎6/7, 東海第二】対応手段における対応設備及び運用の相違

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (4/11)

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所, 仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)			
④ 原子炉注水戦略	「低圧代替注水系 (可搬型) による原子炉注水」	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約 1,320m ³ /h (1台当たり), 揚程: 約 10m, 台数: 3) (保管場所: 西側除染場所, 南側除染場所, 予備機置場)	・代替注水貯槽 ・西側除染貯水設備 ・海	系統構成を中央操作で実施する場合使用しない場合は 535分以内)	205分以内 (ホース搬搬車を 535分以内)	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (中機) 8名 重大事故等対応委員			
			・可搬型代替注水中型ポンプ (容量: 約 210m ³ /h (1台当たり), 揚程: 約 100m, 台数: 5) (保管場所: 西側除染場所, 南側除染場所, 予備機置場)		系統構成を現場操作で実施する場合使用しない場合は 535分以内)				当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (中機) 5名 重大事故等対応委員	
	「原子炉隔離時冷却系による原子炉注水」	(1.2) (1.3) (1.4) (1.13)	・原子炉隔離時冷却器ポンプ (容量: 約 142m ³ /h, 揚程: 約 80m~約 186m, 台数: 1)	・復水貯留タンク ・サブプレッシャポンプ ・チェンバ	中央操作	中央操作	205分以内	当直運転員 (中機) 1名		
			・常設高圧代替注水ポンプ (容量: 約 136.7m ³ /h, 揚程: 約 90m, 台数: 1)		中央操作が実施できない場合		125分以内		当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (中機) 2名 重大事故等対応委員	
	「高圧代替注水系による原子炉注水」	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	(1.2) (1.3) (1.4) (1.13)	・透かし安全弁 (個数: 18 (自動減圧機能付: 7))	・サブプレッシャポンプ ・チェンバ	中央操作が実施できない場合	58分以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (中機) 2名 重大事故等対応委員		
				・タービン・バイパス弁 (個数: 5)				中央操作		当直運転員 (中機) 1名
				・高圧蓄積ポンプ (体数: 20)				中央操作		当直運転員 (中機) 1名
				・透かし安全弁用可搬型蓄電池 (個数: 2)				282分以内		当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (中機) 2名
	「非常用透かし安全弁駆動系による減圧」	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	(1.2) (1.3) (1.4) (1.13)	・非常用透かし安全弁駆動系			55分以内	当直運転員 (中機) 1名		
								120分以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (中機) 2名 (機材) 2名	

・記載表現の相違
【東海第二】
島根2号炉は, 原子炉圧力容器への注水戦略を対応手順書等及び設備一覧 (2/13) 及び (3/13) に記載

表 1 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (7号炉の例) (4/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査等の実施項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
④水蒸気発生防止 戦略	①事故時運転操作手順書(低圧ベント)水蒸気発生抑制手順書(シベリアタンデント) (C&S起動)	技術的能力に係る審査項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)				運転員 2名 当直運転員 2名
	②原子炉格納容器内水蒸気発生監視	(1.9) (1.10)	原子炉格納容器内水蒸気監視装置 (S.A.) 格納容器内水蒸気監視装置 (S.A.) 格納容器内水蒸気監視装置 (S.A.)			135分以内	当直運転員 3名 当直運転員 3名
	③可搬型空素供給装置による原子炉格納容器への空素注入		可搬型空素供給装置 (容量: 約 2000m ³ /h (1台あたり)、台数: 4) 空素供給装置用電源車 (台数: 2) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所)			115分以内	当直運転員 6名 当直運転員 6名
	④原子炉建屋外側ブローアウトハネル開放		原子炉建屋外側ブローアウトハネル			中央操作 第一弁 (S/C) 125分以内 第一弁 (D/W) 140分以内 第二弁 75分以内	当直運転員 1名 当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (中機) 3名 当直運転員 (中機) 3名
	⑤可燃性ガス濃度制御系起動		可燃性ガス濃度制御系			中央操作	当直運転員 (中機) 1名
	⑥原子炉建屋ガス処理系起動		原子炉建屋ガス処理系			中央操作	当直運転員 (中機) 1名
	⑦原子炉建屋ガス処理系停止		原子炉建屋ガス処理系			中央操作	当直運転員 (中機) 1名
	⑧原子炉建屋外側ブローアウトハネル開放による水蒸気発生抑制		原子炉建屋外側ブローアウトハネル			ブローアウトハネル閉止装置が閉止状態の場合	当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (中機) 2名
	⑨原子炉建屋外側ブローアウトハネル開放による水蒸気発生抑制		原子炉建屋外側ブローアウトハネル			ブローアウトハネル閉止装置が閉止状態の場合	当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (中機) 2名
	⑩原子炉建屋外側ブローアウトハネル開放による水蒸気発生抑制		原子炉建屋外側ブローアウトハネル			ブローアウトハネル閉止装置が閉止状態の場合	当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (中機) 2名

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

第 1 表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (5/11)

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
⑤水蒸気発生防止 戦略	①事故時運転操作手順書(シベリアタンデント)、重大事故等対策要領	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)				当直運転員 (中機) 1名
	②原子炉格納容器内水蒸気発生監視	(1.9) (1.10)	原子炉格納容器内水蒸気監視装置 (S.A.) 格納容器内水蒸気監視装置 (S.A.) 格納容器内水蒸気監視装置 (S.A.)			135分以内	当直運転員 6名 当直運転員 6名
	③可搬型空素供給装置による原子炉格納容器への空素注入		可搬型空素供給装置 (容量: 約 2000m ³ /h (1台あたり)、台数: 4) 空素供給装置用電源車 (台数: 2) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所)			115分以内	当直運転員 6名 当直運転員 6名
	④原子炉建屋外側ブローアウトハネル開放		原子炉建屋外側ブローアウトハネル			中央操作	当直運転員 (中機) 1名
	⑤可燃性ガス濃度制御系起動		可燃性ガス濃度制御系			中央操作	当直運転員 (中機) 1名
	⑥原子炉建屋ガス処理系起動		原子炉建屋ガス処理系			中央操作	当直運転員 (中機) 1名
	⑦原子炉建屋ガス処理系停止		原子炉建屋ガス処理系			中央操作	当直運転員 (中機) 1名
	⑧原子炉建屋外側ブローアウトハネル開放による水蒸気発生抑制		原子炉建屋外側ブローアウトハネル			ブローアウトハネル閉止装置が閉止状態の場合	当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (中機) 2名
	⑨原子炉建屋外側ブローアウトハネル開放による水蒸気発生抑制		原子炉建屋外側ブローアウトハネル			ブローアウトハネル閉止装置が閉止状態の場合	当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (中機) 2名
	⑩原子炉建屋外側ブローアウトハネル開放による水蒸気発生抑制		原子炉建屋外側ブローアウトハネル			ブローアウトハネル閉止装置が閉止状態の場合	当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (中機) 2名

第 1 表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (4/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
⑤水蒸気発生防止 戦略	①事故時運転操作手順書(シベリアタンデント) (C&S起動)	技術的能力に係る審査項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)				運転員 2名 当直運転員 2名
	②原子炉格納容器内水蒸気発生監視	(1.9) (1.10)	原子炉格納容器内水蒸気監視装置 (S.A.) 格納容器内水蒸気監視装置 (S.A.) 格納容器内水蒸気監視装置 (S.A.)			135分以内	当直運転員 3名 当直運転員 3名
	③可搬型空素供給装置による原子炉格納容器への空素注入		可搬型空素供給装置 (容量: 約 2000m ³ /h (1台あたり)、台数: 4) 空素供給装置用電源車 (台数: 2) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所)			115分以内	当直運転員 6名 当直運転員 6名
	④原子炉建屋外側ブローアウトハネル開放		原子炉建屋外側ブローアウトハネル			中央操作	当直運転員 (中機) 1名
	⑤可燃性ガス濃度制御系起動		可燃性ガス濃度制御系			中央操作	当直運転員 (中機) 1名
	⑥原子炉建屋ガス処理系起動		原子炉建屋ガス処理系			中央操作	当直運転員 (中機) 1名
	⑦原子炉建屋ガス処理系停止		原子炉建屋ガス処理系			中央操作	当直運転員 (中機) 1名
	⑧原子炉建屋外側ブローアウトハネル開放による水蒸気発生抑制		原子炉建屋外側ブローアウトハネル			ブローアウトハネル閉止装置が閉止状態の場合	当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (中機) 2名
	⑨原子炉建屋外側ブローアウトハネル開放による水蒸気発生抑制		原子炉建屋外側ブローアウトハネル			ブローアウトハネル閉止装置が閉止状態の場合	当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (中機) 2名
	⑩原子炉建屋外側ブローアウトハネル開放による水蒸気発生抑制		原子炉建屋外側ブローアウトハネル			ブローアウトハネル閉止装置が閉止状態の場合	当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (中機) 2名

(注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

備考
・設備及び運用の相違
【柏崎 6/7, 東海第二】
対応手段における対応設備及び運用の相違

表1 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (7号炉の例) (5/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る事項等の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	
①-1 原子炉格納容器 除熱戦略	「緊急時運転手順書」(巻体ベーン)のPV圧力制御	「格納容器」	・ 排水移送ポンプ 台数：3台 (容量：150m ³ /h、揚程：10m)	排水貯留槽	-	電源有の場合 2名 電源無の場合 中絶名 1時間以内 2名 電源有の場合 中絶名 2名	運転員 2名 中絶名 1名 中絶名 1名	
	「排水ポンプによるRVSスプレィ」	「排水ポンプ」	・ ディーゼル駆動排水ポンプ 台数：1台 (容量：177m ³ /h、揚程：7m)	ろ過水タンク	-	電源有の場合 中絶名 1時間以内 2名 電源無の場合 中絶名 1時間以内 2名	運転員 2名 中絶名 1名 中絶名 1名	
	「廃水による除熱」	「廃水」	・ ドライウェル冷却系冷却塔送風機 台数：3台	-	-	電源有の場合 中絶名 2時間以内 2名 電源無の場合 中絶名 2時間以内 2名	運転員 2名 中絶名 2名 中絶名 2名	
	「風車代替機置換弁閉による原子炉注水」	「風車代替機置換弁閉」	・ 排水移送ポンプ 台数：3台 (容量：150m ³ /h、揚程：10m)	47777のバルブ	-	電源有の場合 中絶名 2時間以内 2名 電源無の場合 中絶名 2時間以内 2名	運転員 2名 中絶名 2名 中絶名 2名	
	「風車代替機置換弁閉によるRVSスプレィ」	「風車代替機置換弁閉」	・ 排水移送ポンプ 台数：3台 (容量：150m ³ /h、揚程：10m)	47777のバルブ	-	電源有の場合 中絶名 2時間以内 2名 電源無の場合 中絶名 2時間以内 2名	運転員 2名 中絶名 2名 中絶名 2名	
	「風車によるRVSスプレィ」	「風車」	・ 可搬型代替排水ポンプ (前炉自動車) (保管場所：T.M.S.L.350以上) A-2 台数：13台 (容量：120m ³ /h、出力圧力：0.85MPa、1.4MPa)	防火水塔 腐水取水施設	-	電源有の場合 中絶名 2時間以内 11名 電源無の場合 中絶名 2時間以内 11名	運転員 11名 中絶名 11名 中絶名 11名	
	RVS(S/C)間：フィロタカベント設備使用	「RVS(S/C)間」	・ フィロタカベント設備 台数：1台	-	-	電源有の場合 中絶名 2時間以内 2名 電源無の場合 中絶名 2時間以内 2名	運転員 2名 中絶名 2名 中絶名 2名	
	RVS(D/W)間：フィロタカベント設備使用	「RVS(D/W)間」	・ フィロタカベント設備 台数：1台	-	-	電源有の場合 中絶名 2時間以内 2名 電源無の場合 中絶名 2時間以内 2名	運転員 2名 中絶名 2名 中絶名 2名	

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (6/11)

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る事項」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	
①-1 格納容器除熱 戦略	「非常時運転手順書」(巻体ベーン)、重大事故等対応要領	「格納容器」	・ 高圧熱除去ポンプ (容量：約1,600m ³ /h (1台当たり)、揚程：約85m、台数：2) ・ 常設低圧代替排水ポンプ (容量：約200m ³ /h (1台当たり)、揚程：約20m、台数：2)	・ オプレクシオン・チェンバ ・ 代替排水貯槽	-	中央操作 2時間以内 2名	当直運転員 (中絶) 1名 当直運転員 (中絶) 2名	
	「代替格納容器スプレィ冷却系 (常設)」による格納容器スプレィ	「代替格納容器スプレィ冷却系」	・ 可搬型代替排水大型ポンプ (容量：約1,320m ³ /h (1台当たり)、揚程：約14m、台数：3) (保管場所：西側保管場所、手動機置換) ・ 可搬型代替排水中型ポンプ (容量：約210m ³ /h (1台当たり)、揚程：約10m、台数：6) (保管場所：西側保管場所、手動機置換)	・ 代替排水貯槽 ・ 腐水取水貯槽	-	205分以内 (5-ケース運転車生 作で使用しない場合は 535分以内)	当直運転員 (中絶) 1名 重大事故等対応要員 8名	
	「代替格納容器スプレィ冷却系 (可搬型)」による格納容器スプレィ	「代替格納容器スプレィ冷却系」	・ 可搬型代替排水大型ポンプ (容量：約1,320m ³ /h (1台当たり)、揚程：約14m、台数：3) ・ 可搬型代替排水中型ポンプ (容量：約210m ³ /h (1台当たり)、揚程：約10m、台数：6) (保管場所：西側保管場所、手動機置換)	・ 代替排水貯槽 ・ 腐水取水貯槽	-	205分以内 (5-ケース運転車生 作で使用しない場合は 535分以内)	当直運転員 (中絶) 1名 重大事故等対応要員 11名	
	「風車による格納容器スプレィ」	「風車」	・ 代替格納冷却ポンプ (容量：約250m ³ /h (1台当たり)、揚程：約130m、台数：2) ・ ディーゼル駆動熱火ポンプ (容量：約165m ³ /h、揚程：90m、台数：1)	・ オプレクシオン・チェンバ	-	中央操作 58分以内	当直運転員 (中絶) 1名 当直運転員 (中絶) 2名	
	「腐水系による格納容器スプレィ」	「腐水系」	・ 排水移送ポンプ (容量：145.4m ³ /h (1台当たり)、揚程：85.4m、台数：2)	・ 排水貯留水タンク ・ 多目的タンク	-	111分以内	当直運転員 1名 中絶名 2名 重大事故等対応要員 6名	

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (5/14)

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る事項」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	
①-1 原子炉格納容器 除熱戦略	「緊急時運転手順書」(巻体ベーン)、AM(緊急時)要領	「格納容器」	・ 排水移送ポンプ (容量：約1,600m ³ /h (1台当たり)、揚程：約85m、台数：2) ・ 常設低圧代替排水ポンプ (容量：約200m ³ /h (1台当たり)、揚程：約20m、台数：2)	・ オプレクシオン・チェンバ ・ 代替排水貯槽	-	中央操作 2時間以内 2名	当直運転員 (中絶) 1名 当直運転員 (中絶) 2名	
	「代替格納容器スプレィ冷却系 (常設)」による格納容器スプレィ	「代替格納容器スプレィ冷却系」	・ 可搬型代替排水大型ポンプ (容量：約1,320m ³ /h (1台当たり)、揚程：約14m、台数：3) (保管場所：西側保管場所、手動機置換) ・ 可搬型代替排水中型ポンプ (容量：約210m ³ /h (1台当たり)、揚程：約10m、台数：6) (保管場所：西側保管場所、手動機置換)	・ 代替排水貯槽 ・ 腐水取水貯槽	-	205分以内 (5-ケース運転車生 作で使用しない場合は 535分以内)	当直運転員 (中絶) 1名 重大事故等対応要員 8名	
	「代替格納容器スプレィ冷却系 (可搬型)」による格納容器スプレィ	「代替格納容器スプレィ冷却系」	・ 可搬型代替排水大型ポンプ (容量：約1,320m ³ /h (1台当たり)、揚程：約14m、台数：3) ・ 可搬型代替排水中型ポンプ (容量：約210m ³ /h (1台当たり)、揚程：約10m、台数：6) (保管場所：西側保管場所、手動機置換)	・ 代替排水貯槽 ・ 腐水取水貯槽	-	205分以内 (5-ケース運転車生 作で使用しない場合は 535分以内)	当直運転員 (中絶) 1名 重大事故等対応要員 11名	
	「風車による格納容器スプレィ」	「風車」	・ 代替格納冷却ポンプ (容量：約250m ³ /h (1台当たり)、揚程：約130m、台数：2) ・ ディーゼル駆動熱火ポンプ (容量：約165m ³ /h、揚程：90m、台数：1)	・ オプレクシオン・チェンバ	-	中央操作 58分以内	当直運転員 (中絶) 1名 当直運転員 (中絶) 2名	
	「腐水系による格納容器スプレィ」	「腐水系」	・ 排水移送ポンプ (容量：145.4m ³ /h (1台当たり)、揚程：85.4m、台数：2)	・ 排水貯留水タンク ・ 多目的タンク	-	111分以内	当直運転員 1名 中絶名 2名 重大事故等対応要員 6名	

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

備考
・ 設備及び運用の相違
【柏崎6/7, 東海第二】
対応手段における対応設備及び運用の相違

表 1 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (7号炉の例) (6/14)

個別戦略	手順書等	技術的部材に 係る重要事項 の箇所項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
⑥-1 原子炉格納容器 除熱戦略	FCNS(S/C用)：副圧強化ライン使用]	(1.5) (1.6) (1.7) (1.8)	原子炉格納容器冷却水ポンプ 台数：6台 (容量：1800/h、揚程：35m) 原子炉格納容器冷却水ポンプ 台数：6台 (容量：1800/h、揚程：35m) 原子炉格納容器冷却水ポンプ 台数：6台 (容量：1800/h、揚程：35m)	-	-	空気の供給 運転者の場合 中継室 2名 運転者の場合 中継室 2名 運転者の場合 中継室 2名	運転員 2名 運転員 中継室 2名 運転員 中継室 2名
	FCNS(D/C用)：副圧強化ライン使用]	(1.5) (1.6) (1.7) (1.8)	原子炉格納容器冷却水ポンプ 台数：6台 (容量：1800/h、揚程：35m) 原子炉格納容器冷却水ポンプ 台数：6台 (容量：1800/h、揚程：35m) 原子炉格納容器冷却水ポンプ 台数：6台 (容量：1800/h、揚程：35m)	-	-	空気の供給 運転者の場合 中継室 2名 運転者の場合 中継室 2名	運転員 2名 運転員 中継室 2名 運転員 中継室 2名
	「代償Hによる補給冷却水確保」	(1.5) (1.6) (1.7) (1.8)	熱交換器ユニット (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：2台 (容量：2300/h、揚程：35m) 熱交換器ユニット (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：2台 (容量：2300/h、揚程：35m) 代償原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：4台 (容量：4200/h、揚程：35m) 代償原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：4台 (容量：4200/h、揚程：35m)	-	-	電源室の場合 中継室 2名 電源室の場合 中継室 2名 電源室の場合 中継室 2名	運転員 2名 運転員 中継室 2名 運転員 中継室 2名
	「代償Sによる補給冷却水確保」	(1.5) (1.6) (1.7) (1.8)	大型送水ポンプ車 (保管場所：E.L.50m、E.L.13~23m、E.L.1.5m) 配管数：3台 (容量：約1,800m ³ /h、吐出圧力：約1.2MPa) 熱交換器ユニット (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：2台 (容量：2300/h、揚程：35m) 熱交換器ユニット (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：2台 (容量：2300/h、揚程：35m) 代償原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：4台 (容量：4200/h、揚程：35m) 代償原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：4台 (容量：4200/h、揚程：35m)	-	-	電源室の場合 中継室 2名 電源室の場合 中継室 2名 電源室の場合 中継室 2名	運転員 2名 運転員 中継室 2名 運転員 中継室 2名

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

第 1 表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (6/14)

個別戦略	手順書等	技術的部材に 係る重要事項 の箇所項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
⑥-1 原子炉格納容器 除熱戦略	「原子炉格納容器冷却水ポンプによる除熱」	(1.5) (1.6) (1.7) (1.8)	大型送水ポンプ車 (保管場所：E.L.50m、E.L.13~23m、E.L.1.5m) 配管数：3台 (容量：約1,800m ³ /h、吐出圧力：約1.2MPa) 熱交換器ユニット (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：2台 (容量：2300/h、揚程：35m) 熱交換器ユニット (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：2台 (容量：2300/h、揚程：35m) 代償原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：4台 (容量：4200/h、揚程：35m) 代償原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：4台 (容量：4200/h、揚程：35m)	-	系統構成 原子炉格納容器冷却水ポンプによる除熱 原子炉格納容器冷却水ポンプによる除熱 副圧強化ラインの使用 大型送水ポンプ車による除熱 原子炉格納容器冷却水ポンプによる除熱	電源室の場合 (使用場所) 1時間 40分以内 7時間 30分以内 7時間 30分以内 7時間 30分以内 7時間 30分以内	中央制御室運転員 1名 緊急時作業員 15名 緊急時作業員 6名
	「大型送水ポンプ車による除熱」	(1.5) (1.6) (1.7)	大型送水ポンプ車 (保管場所：E.L.50m、E.L.13~23m、E.L.1.5m) 配管数：3台 (容量：約1,800m ³ /h、吐出圧力：約1.2MPa) 熱交換器ユニット (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：2台 (容量：2300/h、揚程：35m) 熱交換器ユニット (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：2台 (容量：2300/h、揚程：35m) 代償原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：4台 (容量：4200/h、揚程：35m) 代償原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：4台 (容量：4200/h、揚程：35m)	-	系統構成 大型送水ポンプ車による除熱	電源室の場合 (使用場所) 1時間 20分以内 7時間 30分以内	中央制御室運転員 1名 緊急時作業員 4名 緊急時作業員 6名
	「後部冷却水電圧低下時の原子炉格納容器内の スプレイ」	(1.5) (1.6) (1.7)	後部冷却水ポンプ (保管場所：E.L.50m、E.L.13~23m、E.L.1.5m) 配管数：3台 (容量：約1,800m ³ /h、吐出圧力：約1.2MPa) 熱交換器ユニット (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：2台 (容量：2300/h、揚程：35m) 熱交換器ユニット (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：2台 (容量：2300/h、揚程：35m) 代償原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：4台 (容量：4200/h、揚程：35m) 代償原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：4台 (容量：4200/h、揚程：35m)	-	サブプレッシャポンプ・チェンバ	中央制御室操作	中央制御室運転員 1名
	「後部冷却水電圧低下時の原子炉格納容器内の減圧 及び除熱」	(1.5) (1.6) (1.7)	後部冷却水ポンプ (保管場所：E.L.50m、E.L.13~23m、E.L.1.5m) 配管数：3台 (容量：約1,800m ³ /h、吐出圧力：約1.2MPa) 熱交換器ユニット (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：2台 (容量：2300/h、揚程：35m) 熱交換器ユニット (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：2台 (容量：2300/h、揚程：35m) 代償原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：4台 (容量：4200/h、揚程：35m) 代償原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.435m以上) 台数：4台 (容量：4200/h、揚程：35m)	-	サブプレッシャポンプ・チェンバ	中央制御室操作	中央制御室運転員 1名

注) 各手順書、各設備の保管場所・数量等については、今後の訓練、検討結果等によって見直す可能性がある。

・設備及び運用の相違
【柏崎 6/7】
対応手段における対応設備及び運用の相違
・記載表現の相違
【東海第二】
東海第二は、格納容器除熱戦略 (炉心損傷前) を対応手順書等及び設備一覧 (6/11) に記載

- ・記載表現の相違
- 【柏崎6/7】
柏崎6/7は、格納容器除熱戦略（炉心損傷前）を対応手順書等及び設備一覧（5/14）及び（6/14）に記載
- 【東海第二】
東海第二は、格納容器除熱戦略（炉心損傷前）を対応手順書等及び設備一覧（6/11）に記載

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧（7/14）

個別戦略	手順書等	格納容器上圧力調整装置等の設置項目	主な使用設備(設置場所、仕様等)	名称	備考	所要時間(目安)	必要人員(目安)
① 1号炉及び2号炉の格納容器内圧力調整(中～低圧) (7/14)	格納容器エアリフトシステムによる原子炉格納容器内の減圧及び保熱)	格納容器上圧力調整装置の設置項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1ベントエアリフトシステム(格納容器) ・ 配管数: 4基(設計流量: 約 9.5kg/s) ・ 第1ベントエアリフト装置(ボイラ付) ・ 配管数: 1基 ・ 電力消費: 約 100kW ・ 可搬式変形格納容器(設置場所: E.L.50m, E.L.5m) ・ 配管数: 2台(容量: 約 100m³/h(正常)) / 1台 ・ 可搬式変形格納容器(設置場所: E.L.40m, E.L.13~20m, E.L.5m) ・ 配管数: 2台(容量: 約 100m³/h(正常)) / 1台(5.50m) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1ベントエアリフトシステム(格納容器) ・ 可搬式変形格納容器(設置場所: E.L.50m, E.L.5m) ・ 第1ベントエアリフト装置(ボイラ付) ・ 可搬式変形格納容器(設置場所: E.L.40m, E.L.13~20m, E.L.5m) 	非常用コントロールシステムが使用不可な場合 格納容器ベント手動完了まで 約 45分以内	電源有の場合(復旧操作) 45分以内	中央制御室乗組員1名 現場乗組員2名
	減圧強化システムによる原子炉格納容器内の減圧及び保熱)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 減圧強化システム(格納容器) ・ 配管数: 1基 ・ 電力消費: 約 100kW ・ 可搬式変形格納容器(設置場所: E.L.50m, E.L.5m) ・ 配管数: 2台(容量: 約 100m³/h(正常)) / 1台 ・ 可搬式変形格納容器(設置場所: E.L.40m, E.L.13~20m, E.L.5m) ・ 配管数: 2台(容量: 約 100m³/h(正常)) / 1台(5.50m) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 減圧強化システム(格納容器) ・ 可搬式変形格納容器(設置場所: E.L.50m, E.L.5m) ・ 第1ベントエアリフトシステム(格納容器) ・ 可搬式変形格納容器(設置場所: E.L.40m, E.L.13~20m, E.L.5m) 	非常用コントロールシステムが使用不可な場合 格納容器ベント手動完了まで 約 45分以内	電源有の場合 45分以内 電源無の場合(復旧操作) 2時間以内	中央制御室乗組員1名 現場乗組員2名	

注: ① 1号炉、2号炉、各設備の設置場所、数値等については、今後の改訂、補訂結果等によって見直し可能である。

表1 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧(7号炉の例)(7/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主要な使用設備(保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間(目安)	必要人員(目安)
①-2 原子炉格納容器 除熱戦略	①-2 原子炉格納容器 除熱戦略	「非常時運転手順書Ⅲ(シビアアクシデント)下部注水」	「非常時運転手順書Ⅲ(シビアアクシデント)下部注水(淡水/海水)」	・脱水移送ポンプ 台数:3台(容量:150m ³ /h/台、揚程:10m)	・脱水移送ポンプ 台数:3台(容量:150m ³ /h/台、揚程:10m)	電源の有無 中継2名 現場4名 要員4名 要員2名	運転員 中継2名 現場4名 要員4名 要員2名
		「前火系によるベダスタル注水」	「前火系によるベダスタル注水(淡水/海水)」	・ディーゼル発電機用ポンプ 台数:1台(容量:177m ³ /h、揚程:7m)	ろ過水タンク	電源無しの場合 20分以内	運転員 中継2名 現場4名 要員4名 要員2名
		「SVCによる原子炉ウエル注水」	「SVCによる原子炉ウエル注水」	・サブシリンジポンプ(原子炉ウエル) 台数:1台(容量:250m ³ /h、揚程:9m)	・ろ過水タンク	電源有りの場合 20分以内	運転員 中継2名 現場4名 要員4名 要員2名
		「風車による原子炉ウエル注水」	「風車による原子炉ウエル注水」	・可搬型代替注水ポンプ(消防自動車)(E.S.S.L.43m以上) A-2 台数:13台(容量:120m ³ /h/84 m ³ /h、吐出圧力:0.8MPa/1.4MPa)	・可搬型代替注水ポンプ(消防自動車)(E.S.S.L.43m以上) A-2 台数:13台(容量:120m ³ /h/84 m ³ /h、吐出圧力:0.8MPa/1.4MPa)	電源有りの場合 20分以内	運転員 中継2名 現場4名 要員4名 要員2名
		「前火ポンプによる原子炉ウエル注水」	「前火ポンプによる原子炉ウエル注水」	・ディーゼル発電機用ポンプ 台数:1台(容量:177m ³ /h、揚程:7m)	ろ過水タンク	電源有りの場合 20分以内	運転員 中継2名 現場4名 要員4名 要員2名
		「風車によるRVSブレイ」	「風車によるRVSブレイ」	・可搬型代替注水ポンプ(消防自動車)(E.S.S.L.43m以上) A-2 台数:13台(容量:120m ³ /h/84 m ³ /h、吐出圧力:0.8MPa/1.4MPa)	・可搬型代替注水ポンプ(消防自動車)(E.S.S.L.43m以上) A-2 台数:13台(容量:120m ³ /h/84 m ³ /h、吐出圧力:0.8MPa/1.4MPa)	電源有りの場合 20分以内	運転員 中継2名 現場4名 要員4名 要員2名

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧(7号炉の例)(7/11)

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備(保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間(目安)	必要人員(目安)
①-2 格納容器除熱戦略	①-2 格納容器除熱戦略	「非常時運転手順書Ⅲ(シビアアクシデント)、非常時運転手順書Ⅱ(断水ベダスタル)」	・常設低圧代替注水ポンプ(容量:約200m ³ /h(1台あたり)、 揚程:約200m、台数:2)	・代替淡水貯槽	—	中央操作	当直運転員 (中継)2名
		「格納容器下部注水系(常設)」によるベダスタル注水	・可搬型代替注水大型ポンプ (容量:約1,320m ³ /h(1台あたり)、揚程:約140m、台数:3) (保管場所:西側保管場所、南側保管場所、予備機設備)	・代替淡水貯槽 ・西側淡水貯水設備 ・海	—	205分以内 (ホース運搬車を 使用しない場合は 55分以内)	当直運転員 (中継)1名 重大事故等対応要員 8名
		「消火系によるベダスタル注水」	・ディーゼル駆動消火ポンプ(容量:約201m ³ /h、揚程:90m、台数:1)	・ろ過水貯蔵タンク ・多目的タンク	—	54分以内	当直運転員 (中継)1名 当直運転員 (現場)2名
		「補給水系によるベダスタル注水」	・復水移送ポンプ(容量:145.4m ³ /h(1台あたり)、揚程:85.4m、台数:2)	・復水貯蔵タンク ・海	—	108分以内	当直運転員 (現場)2名 重大事故等対応要員 6名
①-2 格納容器除熱戦略	①-2 格納容器除熱戦略	「格納容器前部注水系(常設)」によるウエル注水	・常設低圧代替注水ポンプ(容量:約200m ³ /h(1台あたり)、 揚程:約200m、台数:2)	・代替淡水貯槽	—	中央操作	当直運転員 (中継)1名
		「格納容器前部注水系(可搬型)」によるウエル注水	・可搬型代替注水大型ポンプ (容量:約1,320m ³ /h(1台あたり)、揚程:約140m、台数:3) (保管場所:西側保管場所、南側保管場所、予備機設備)	・代替淡水貯槽 ・海	—	205分以内 (ホース運搬車を 使用しない場合は 55分以内)	当直運転員 (中継)1名 重大事故等対応要員 8名

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧(8号炉の例)(8/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主要な使用設備(保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間(目安)	必要人員(目安)	
①-2 原子炉格納容器 除熱戦略	①-2 原子炉格納容器 除熱戦略	「非常時運転手順書Ⅲ(シビアアクシデント)、AMC(原子炉格納容器下部注水)」によるベダスタル注水」	・低圧代替注水ポンプ 配線数:2台(容量:約200m ³ /h/台、揚程:約100m)	・低圧代替注水ポンプ	・代替淡水貯槽 ・海	電源有りの場合 30分以内	当直運転員1名 要員2名	
		「復水移送ポンプによる原子炉格納容器下部への注水」	・復水移送ポンプ 配線数:3台(容量:約85m ³ /h/台、揚程:約70m)	・復水移送ポンプ	—	電源有りの場合 中央制御室操作	電源有りの場合 中央制御室操作	当直運転員1名 中央制御室要員1名
		「消火系による原子炉格納容器下部への注水」	・ディーゼル駆動消火ポンプ 配線数:3台(容量:約170m ³ /h/台、揚程:約90m)	・ディーゼル駆動消火ポンプ	—	電源有りの場合 中央制御室操作	電源有りの場合 中央制御室操作	当直運転員1名 中央制御室要員1名
		「風車による原子炉格納容器下部への注水」	・可搬型代替注水ポンプ(消防自動車)(E.S.S.L.43m以上) 配線数:3台(容量:約120m ³ /h/台、吐出圧力:約0.8MPa)	・可搬型代替注水ポンプ(消防自動車)(E.S.S.L.43m以上) 配線数:3台(容量:約120m ³ /h/台、吐出圧力:約0.8MPa)	—	電源有りの場合 中央制御室操作	電源有りの場合 中央制御室操作	当直運転員1名 中央制御室要員1名
		「前火ポンプによる原子炉格納容器下部への注水」	・ディーゼル発電機用ポンプ 配線数:1台(容量:約177m ³ /h/台、揚程:約70m)	・ディーゼル発電機用ポンプ	—	電源有りの場合 中央制御室操作	電源有りの場合 中央制御室操作	当直運転員1名 中央制御室要員1名
①-2 原子炉格納容器 除熱戦略	①-2 原子炉格納容器 除熱戦略	「風車によるRVSブレイ」	・可搬型代替注水ポンプ(消防自動車)(E.S.S.L.43m以上) 配線数:3台(容量:約120m ³ /h/台、吐出圧力:約0.8MPa)	・可搬型代替注水ポンプ(消防自動車)(E.S.S.L.43m以上) 配線数:3台(容量:約120m ³ /h/台、吐出圧力:約0.8MPa)	—	電源有りの場合 中央制御室操作	当直運転員1名 中央制御室要員1名	
		「前火ポンプによる原子炉格納容器下部への注水」	・ディーゼル発電機用ポンプ 配線数:1台(容量:約177m ³ /h/台、揚程:約70m)	・ディーゼル発電機用ポンプ	—	電源有りの場合 中央制御室操作	電源有りの場合 中央制御室操作	当直運転員1名 中央制御室要員1名
		「風車による原子炉格納容器下部への注水」	・可搬型代替注水ポンプ(消防自動車)(E.S.S.L.43m以上) 配線数:3台(容量:約120m ³ /h/台、吐出圧力:約0.8MPa)	・可搬型代替注水ポンプ(消防自動車)(E.S.S.L.43m以上) 配線数:3台(容量:約120m ³ /h/台、吐出圧力:約0.8MPa)	—	電源有りの場合 中央制御室操作	電源有りの場合 中央制御室操作	当直運転員1名 中央制御室要員1名

注) 各手順書、各設備の保管場所・数量等については、今後の訓練、検討結果等によって見直す可能性がある。

備考
 ・設備及び運用の相違
 【柏崎6/7, 東海第二】
 対応手段における対応設備及び運用の相違

表 1 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (7号炉の例) (8/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査 に係る審査項目 の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
①-2 原子炉格納容器 除熱戦略	「直」による除熱		・ドライウェル冷却系母管送風機 ・冷却水ポンプ (容量: 150m ³ /h/台、揚程: 100m)	—	—	運転員 中核2名 現場2名 計4名	運転員 中核2名 現場2名 計4名
	「直」による除熱		・冷却水ポンプ (容量: 150m ³ /h/台、揚程: 100m)	—	—	運転員 中核2名 現場2名 計4名	運転員 中核2名 現場2名 計4名
①-2 原子炉格納容器 除熱戦略	「直」による除熱		・冷却水ポンプ (容量: 150m ³ /h/台、揚程: 100m)	—	—	運転員 中核2名 現場2名 計4名	運転員 中核2名 現場2名 計4名
	「直」による除熱		・冷却水ポンプ (容量: 150m ³ /h/台、揚程: 100m)	—	—	運転員 中核2名 現場2名 計4名	運転員 中核2名 現場2名 計4名
①-2 原子炉格納容器 除熱戦略	「直」による除熱		・冷却水ポンプ (容量: 150m ³ /h/台、揚程: 100m)	—	—	運転員 中核2名 現場2名 計4名	運転員 中核2名 現場2名 計4名
	「直」による除熱		・冷却水ポンプ (容量: 150m ³ /h/台、揚程: 100m)	—	—	運転員 中核2名 現場2名 計4名	運転員 中核2名 現場2名 計4名

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

第 1 表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (8/11)

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査 に係る審査項目 の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
①-2 格納容器除熱 戦略	「残留熱除去系 (格納容器スプレイ冷却系) による格納容器スプレイ」	(L.5)	・残留熱除去系ポンプ (容量: 約 1,600m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 85m、台数: 2)	・サブプレッジョン・チェンバ	—	205分以内 (ホース搬車を 使用しない場合は 8名)	当直運転員 (中核) 1名
	「代替格納容器スプレイ冷却系 (常設) による格納容器スプレイ」	(L.6)	・常設格納容器ポンプ (容量: 約 200m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 200m、台数: 2)	・代替格納容器ポンプ	—	205分以内 (ホース搬車を 使用しない場合は 8名)	当直運転員 (中核) 2名
①-2 格納容器除熱 戦略	「代替格納容器スプレイ冷却系による格納容器スプレイ」	(L.7)	・代替格納容器ポンプ (容量: 約 200m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 130m、台数: 2)	・サブプレッジョン・チェンバ	—	58分以内	当直運転員 (中核) 1名
	「消火系による格納容器スプレイ」	(L.8)	・ディーゼル駆動消火ポンプ (容量: 約 261m ³ /h、揚程: 90m、台数: 1)	・多目的タンク	—	11分以内	当直運転員 (中核) 2名
①-2 格納容器除熱 戦略	「消火系による格納容器スプレイ」	(L.9)	・消火ポンプ (容量: 145.4m ³ /h (1台当たり)、揚程: 85.4m、台数: 2)	・復水貯蔵タンク	—	205分以内 (ホース搬車を 使用しない場合は 8名)	当直運転員 (中核) 1名
	「格納容器圧力逃がし装置による格納容器スプレイ」	(L.10)	・可搬型代替格納容器ポンプ (容量: 約 140m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 100m、台数: 3)	・代替格納容器ポンプ	—	205分以内 (ホース搬車を 使用しない場合は 8名)	当直運転員 (中核) 1名
①-2 格納容器除熱 戦略	「格納容器圧力逃がし装置による格納容器スプレイ」	(L.11)	・可搬型代替格納容器ポンプ (容量: 約 100m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 100m、台数: 5)	・復水貯蔵タンク	—	205分以内 (ホース搬車を 使用しない場合は 8名)	当直運転員 (中核) 2名
	「格納容器圧力逃がし装置による格納容器スプレイ」	(L.12)	・格納容器圧力逃がし装置	—	—	55分以内	当直運転員 (中核) 2名

第 1 表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (9/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査 に係る審査項目 の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
①-2 原子炉格納容器 除熱戦略	「直」による除熱		・大型送水ポンプ (保管場所: E.L.5m, E.L.13~20m, E.L.8m) ・配管: 3台 (容量: 約 1,800m ³ /h/台、吐出圧力: 約 1.2MPa) ・配管: 2台 (吐出圧力: 約 0.8MPa)	・大型送水ポンプ (容量: 約 1,800m ³ /h/台、吐出圧力: 約 1.2MPa) ・配管: 2台 (吐出圧力: 約 0.8MPa)	—	205分以内 (ホース搬車を 使用しない場合は 8名)	当直運転員 (中核) 1名
	「直」による除熱		・大型送水ポンプ (保管場所: E.L.5m, E.L.13~20m, E.L.8m) ・配管: 3台 (容量: 約 1,800m ³ /h/台、吐出圧力: 約 1.2MPa) ・配管: 2台 (吐出圧力: 約 0.8MPa)	・大型送水ポンプ (容量: 約 1,800m ³ /h/台、吐出圧力: 約 1.2MPa) ・配管: 2台 (吐出圧力: 約 0.8MPa)	—	205分以内 (ホース搬車を 使用しない場合は 8名)	当直運転員 (中核) 1名
①-2 原子炉格納容器 除熱戦略	「直」による除熱		・大型送水ポンプ (保管場所: E.L.5m, E.L.13~20m, E.L.8m) ・配管: 3台 (容量: 約 1,800m ³ /h/台、吐出圧力: 約 1.2MPa) ・配管: 2台 (吐出圧力: 約 0.8MPa)	・大型送水ポンプ (容量: 約 1,800m ³ /h/台、吐出圧力: 約 1.2MPa) ・配管: 2台 (吐出圧力: 約 0.8MPa)	—	205分以内 (ホース搬車を 使用しない場合は 8名)	当直運転員 (中核) 1名
	「直」による除熱		・大型送水ポンプ (保管場所: E.L.5m, E.L.13~20m, E.L.8m) ・配管: 3台 (容量: 約 1,800m ³ /h/台、吐出圧力: 約 1.2MPa) ・配管: 2台 (吐出圧力: 約 0.8MPa)	・大型送水ポンプ (容量: 約 1,800m ³ /h/台、吐出圧力: 約 1.2MPa) ・配管: 2台 (吐出圧力: 約 0.8MPa)	—	205分以内 (ホース搬車を 使用しない場合は 8名)	当直運転員 (中核) 1名

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

備考
・設備及び運用の相違
【柏崎 6/7, 東海第二】
対応手段における対応設備及び運用の相違

表1 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (7号炉の例) (9/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る標準事項の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
⑥-2 原子炉格納容器 除熱戦略	「代替NSによる冷却水(温水/温水)」	(1.5) (1.6) (1.7) (1.8) (1.10)	・代替原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.+35m以上) 台数：4台 (容量：420m ³ /h/台、揚程：35m)	-	-	電源有の場合 中継操作 2名 電源無の場合 現場作業 中継操作 2名 2時間以内	運転員 2名 運転員 2名 運転員 2名 運転員 2名
	「多様なベント対応要領」	(1.5) (1.6) (1.7) (1.8)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所：T.M.S.L.+35m以上) A-2 台数：13台 (容量：120m ³ /h/台、吐出圧力：0.85MPa/1.4MPa) ・フィルタベント設備 台数：1台	防火水櫃 海水取水設備	-	現場操作 1時間30分以内	交代班員 3名
	「フィルタベント水位調整要領」	(1.5) (1.6) (1.7) (1.8)	・熱交換器ユニット (保管場所：T.M.S.L.+35m以上) 台数：2台 (容量：200m ³ /h/台、揚程：35m) ・代替原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.+35m以上) 台数：4台 (容量：420m ³ /h/台、揚程：35m) ・代替原子炉格納容器冷却水ポンプ (保管場所：T.M.S.L.+35m以上) 台数：4台 (容量：420m ³ /h/台、揚程：35m)	-	-	-	現場操作 1時間以内 現場操作 1時間以内
⑦ SFP注水戦略	「事故時運転操作手順書 (運転ベース) SFP水位制御」	(1.11)	・サブプレッションアール浄化系ポンプ 台数：1台 (容量：250m ³ /h、揚程：90m)	海水貯蔵槽 F1/F2/F3/F4/F5	-	電源有の場合 中継操作 2名 電源無の場合 現場作業 中継操作 2名 2時間以内	交代班員 2名
	「FVによるSFP注水」		・燃料プールの冷却系ポンプ 台数：2台 (容量：250m ³ /h/台、揚程：80m) ・燃料プールの冷却系ポンプ 台数：3台 (容量：95m ³ /h/台、揚程：125m)	燃料プール	-	電源有の場合 中継操作 2名 電源無の場合 現場作業 中継操作 2名 2時間以内	交代班員 2名
	「風車によるSFP注水」		・高圧冷却水ポンプ 台数：1台 (容量：100m ³ /h、吐出圧力約27t/h、揚程：100m) ・冷却水ポンプ 台数：3台 (容量：150m ³ /h/台、揚程：100m) ・ディーゼル駆動ポンプ 台数：1台 (容量：17m ³ /h、揚程：75m)	海水貯蔵槽 F1/F2/F3/F4/F5	-	電源有の場合 中継操作 2名 電源無の場合 現場作業 中継操作 2名 2時間以内	交代班員 2名
	「雨水ポンプによるSFP注水」		-	ろ過水タンク	-	電源有の場合 中継操作 2名 電源無の場合 現場作業 中継操作 2名 2時間以内	交代班員 2名

注) 本資料は、訓練等の支障により見直し可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (10/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る標準事項の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
「代替NSによる冷却水(温水/温水)」	「代替原子炉格納容器冷却水ポンプ」	(1.5) (1.6) (1.7) (1.8) (1.10)	・大流量冷却水ポンプ(保管場所：E.L.4m、E.L.13~25m、E.L.35m) 配線数：3台(容量：約1000m ³ /h/台、吐出圧力約0.8MPa)	-	非常用コントロールパネル印字盤が使用不可な場合	電源有の場合(現場操作) 25分以内	中央制御室運転員1名 現場運転員2名
		(1.5) (1.6) (1.7) (1.8) (1.10)	・可搬型代替注水ポンプ(消防自動車) A-2 台数：13台(容量：120m ³ /h/台、吐出圧力：0.85MPa/1.4MPa) ・フィルタベント設備 台数：1台		電源無の場合(現場作業) 40分以内	中央制御室運転員1名 現場運転員2名	
「フィルタベント水位調整要領」	「燃料プールの冷却系ポンプ」	(1.5) (1.6) (1.7) (1.8)	・熱交換器ユニット(保管場所：T.M.S.L.+35m以上) 台数：2台(容量：200m ³ /h/台、揚程：35m) ・代替原子炉格納容器冷却水ポンプ(保管場所：T.M.S.L.+35m以上) 台数：4台(容量：420m ³ /h/台、揚程：35m) ・代替原子炉格納容器冷却水ポンプ(保管場所：T.M.S.L.+35m以上) 台数：4台(容量：420m ³ /h/台、揚程：35m)	-	燃料格納容器冷却水ポンプ系(可搬型) 取扱口(雨)又は燃料格納容器冷却水ポンプ系(可搬型) 取扱口(雨)を使用する場合	現場操作 2時間10分以内	緊急時所要人員12名
		(1.5) (1.6) (1.7) (1.8)	・高圧冷却水ポンプ 台数：1台(容量：100m ³ /h、吐出圧力約27t/h、揚程：100m) ・冷却水ポンプ 台数：3台(容量：150m ³ /h/台、揚程：100m) ・ディーゼル駆動ポンプ 台数：1台(容量：17m ³ /h、揚程：75m)		燃料格納容器冷却水ポンプ系(可搬型) 取扱口(雨)を使用する場合	現場操作 3時間10分以内	緊急時所要人員12名
		(1.5) (1.6) (1.7) (1.8) (1.10)	・サブプレッションアール浄化系ポンプ 台数：1台(容量：250m ³ /h、揚程：90m)		燃料格納容器冷却水ポンプ系(可搬型) 取扱口(雨)を使用する場合	現場操作 45分以内	中央制御室運転員1名 現場運転員2名
「雨水ポンプによるSFP注水」	「雨水ポンプによるSFP注水」	(1.5) (1.6) (1.7) (1.8) (1.10)	・高圧冷却水ポンプ 台数：1台(容量：100m ³ /h、吐出圧力約27t/h、揚程：100m) ・冷却水ポンプ 台数：3台(容量：150m ³ /h/台、揚程：100m) ・ディーゼル駆動ポンプ 台数：1台(容量：17m ³ /h、揚程：75m)	ろ過水タンク	電源有の場合 45分以内	中央制御室運転員1名 現場運転員2名	
		(1.5) (1.6) (1.7) (1.8) (1.10)	・燃料プールの冷却系ポンプ 台数：2台(容量：250m ³ /h/台、揚程：80m) ・燃料プールの冷却系ポンプ 台数：3台(容量：95m ³ /h/台、揚程：125m)		電源有の場合(現場操作) 45分以内	中央制御室運転員1名 現場運転員2名	
		(1.5) (1.6) (1.7) (1.8) (1.10)	・可搬型代替注水ポンプ(消防自動車) A-2 台数：13台(容量：120m ³ /h/台、吐出圧力：0.85MPa/1.4MPa) ・フィルタベント設備 台数：1台		電源有の場合 10分以内	中央制御室運転員1名 現場運転員2名	
	「ろ過水タンクによるSFP注水」		-	ろ過水タンク	現場操作 6時間40分以内	中央制御室運転員1名 現場運転員2名	

注) 本資料は、訓練等の支障により見直し可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

- ・設備及び運用の相違
【柏崎6/7】
対応手段における対応設備及び運用の相違
- ・記載表現の相違
【柏崎6/7】
島根2号炉は、燃料プール注水戦略を対応手順書等及び設備一覧(11/14)に記載
- 【東海第二】
東海第二は、格納容器除熱戦略(炉心損傷後)について、対応手順書等及び設備一覧(7/11)及び(8/11)に記載

表1 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (7号炉の例) (10/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)		
⑦ SFP注水戦略	「消防隊によるSFP注水 (淡水/海水)」	(L11)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・1 台数: 2台 (容量: 1600ℓ/h/1200ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・2 台数: 12台 (容量: 1200ℓ/h/840ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa)	防火水槽 海水取水装置	—	現地操作 2時間以内	運転員 4名 復旧員 2名		
	「消防隊による海水 (淡水/海水)」	(L11)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・1 台数: 2台 (容量: 1600ℓ/h/1200ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・2 台数: 12台 (容量: 1200ℓ/h/840ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・海水船 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・ボート係留車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・大型化学高圧放水車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 台数: 2台 (放水能力: 200ℓ/h/台, 吐出圧力: 1.2MPa)	—	—	—	現地操作 1時間30分以内	運転員 2名 復旧員 2名	
⑧ 代替燃料プール注水戦略	「代替燃料プール注水 (注水ライン) を使用したSFP注水 (常設低圧代替注水ポンプ)」	(L11)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・1 台数: 2台 (容量: 1600ℓ/h/1200ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・2 台数: 12台 (容量: 1200ℓ/h/840ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・燃料プール (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・燃料ポンプ (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・燃料ポンプ (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・燃料ポンプ (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・燃料ポンプ (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・燃料ポンプ (保管場所: T.M.S.L. 35m以上)	(L11)	・燃料プール 燃料ポンプ	—	—	現地操作 2時間以内	復旧員 4名
	「代替燃料プール注水 (注水ライン) を使用したSFP注水 (可搬型代替注水ポンプ) または可搬型代替注水大型ポンプ)」	(L11)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・1 台数: 2台 (容量: 1600ℓ/h/1200ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・2 台数: 12台 (容量: 1200ℓ/h/840ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・大型化学高圧放水車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 台数: 2台 (放水能力: 200ℓ/h/台, 吐出圧力: 1.2MPa)	—	—	—	復旧員 2名~4名		
⑨ 代替燃料プール注水戦略	「消防隊による海水 (淡水/海水)」	(L11)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・1 台数: 2台 (容量: 1600ℓ/h/1200ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・2 台数: 12台 (容量: 1200ℓ/h/840ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・海水船 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・ボート係留車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・大型化学高圧放水車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 台数: 2台 (放水能力: 200ℓ/h/台, 吐出圧力: 1.2MPa)	—	—	—	復旧員 2名		
	「代替燃料プール注水 (注水ライン) を使用したSFP注水 (常設低圧代替注水ポンプ) を使用したSFP注水 (常設低圧代替注水ポンプ)」	(L11)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・1 台数: 2台 (容量: 1600ℓ/h/1200ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・2 台数: 12台 (容量: 1200ℓ/h/840ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・大型化学高圧放水車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 台数: 2台 (放水能力: 200ℓ/h/台, 吐出圧力: 1.2MPa)	—	—	—	復旧員 2名		

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (9/11)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
⑩ 代替燃料プール注水戦略	「代替燃料プール注水 (注水ライン) を使用したSFP注水 (常設低圧代替注水ポンプ)」	(L11)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・1 台数: 2台 (容量: 1600ℓ/h/1200ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・2 台数: 12台 (容量: 1200ℓ/h/840ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・大型化学高圧放水車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 台数: 2台 (放水能力: 200ℓ/h/台, 吐出圧力: 1.2MPa)	—	—	—	復旧員 2名
	「代替燃料プール注水 (注水ライン) を使用したSFP注水 (可搬型代替注水ポンプ) または可搬型代替注水大型ポンプ)」	(L11)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・1 台数: 2台 (容量: 1600ℓ/h/1200ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・2 台数: 12台 (容量: 1200ℓ/h/840ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・大型化学高圧放水車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 台数: 2台 (放水能力: 200ℓ/h/台, 吐出圧力: 1.2MPa)	—	—	—	復旧員 2名
⑪ 代替燃料プール注水戦略	「代替燃料プール注水 (注水ライン) を使用したSFP注水 (常設低圧代替注水ポンプ) を使用したSFP注水 (常設低圧代替注水ポンプ)」	(L11)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・1 台数: 2台 (容量: 1600ℓ/h/1200ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・2 台数: 12台 (容量: 1200ℓ/h/840ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・大型化学高圧放水車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 台数: 2台 (放水能力: 200ℓ/h/台, 吐出圧力: 1.2MPa)	—	—	—	復旧員 2名
	「代替燃料プール注水 (注水ライン) を使用したSFP注水 (可搬型代替注水ポンプ) または可搬型代替注水大型ポンプ)」	(L11)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・1 台数: 2台 (容量: 1600ℓ/h/1200ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・2 台数: 12台 (容量: 1200ℓ/h/840ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・大型化学高圧放水車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 台数: 2台 (放水能力: 200ℓ/h/台, 吐出圧力: 1.2MPa)	—	—	—	復旧員 2名

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (11/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
⑫ 代替燃料プール注水戦略	「代替燃料プール注水 (注水ライン) を使用したSFP注水 (常設低圧代替注水ポンプ) を使用したSFP注水 (常設低圧代替注水ポンプ)」	(L11)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・1 台数: 2台 (容量: 1600ℓ/h/1200ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・2 台数: 12台 (容量: 1200ℓ/h/840ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・大型化学高圧放水車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 台数: 2台 (放水能力: 200ℓ/h/台, 吐出圧力: 1.2MPa)	—	—	—	復旧員 2名
	「代替燃料プール注水 (注水ライン) を使用したSFP注水 (可搬型代替注水ポンプ) または可搬型代替注水大型ポンプ)」	(L11)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・1 台数: 2台 (容量: 1600ℓ/h/1200ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・2 台数: 12台 (容量: 1200ℓ/h/840ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・大型化学高圧放水車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 台数: 2台 (放水能力: 200ℓ/h/台, 吐出圧力: 1.2MPa)	—	—	—	復旧員 2名
⑬ 代替燃料プール注水戦略	「代替燃料プール注水 (注水ライン) を使用したSFP注水 (常設低圧代替注水ポンプ) を使用したSFP注水 (常設低圧代替注水ポンプ)」	(L11)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・1 台数: 2台 (容量: 1600ℓ/h/1200ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・2 台数: 12台 (容量: 1200ℓ/h/840ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・大型化学高圧放水車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 台数: 2台 (放水能力: 200ℓ/h/台, 吐出圧力: 1.2MPa)	—	—	—	復旧員 2名
	「代替燃料プール注水 (注水ライン) を使用したSFP注水 (可搬型代替注水ポンプ) または可搬型代替注水大型ポンプ)」	(L11)	・可搬型代替注水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) ・1 台数: 2台 (容量: 1600ℓ/h/1200ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・2 台数: 12台 (容量: 1200ℓ/h/840ℓ/h, 吐出圧力: 0.85MPa/1.4MPa) ・大型化学高圧放水車 (保管場所: T.M.S.L. 35m以上) 台数: 2台 (放水能力: 200ℓ/h/台, 吐出圧力: 1.2MPa)	—	—	—	復旧員 2名

注) 各種機器、各種機器の保管場所、数量等については、今後の訓練、移行計画等によって見直し可能である。

備考

- ・設備及び運用の相違
- 【柏崎6/7, 東海第二】
対応手段における対応設備及び運用の相違
- ・記載表現の相違
- 【柏崎6/7】
柏崎6/7は、放射性物質拡散抑制戦略について、対応手順書等及び設備一覧(12/14)に記載
- 【東海第二】
東海第二は、燃料プール除熱戦略及び放射性物質拡散抑制戦略について、対応手順書等及び設備一覧(10/11)に記載

表1 個別戦略プロセスにおける対応手順書等及び設備一覧 (7号炉の例) (11/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査 基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	
⑤ 使用済燃料冷却 戦略	「FCによるSFP注水」	(L-11)	「燃料プール冷却浄化ポンプ」 台数：2台 (容量：250m ³ /h/台、揚程：80m)	燃料プール	-	電源有の場合 1時間以内 電源無の場合 中機2名 緊急昇降機等 2名 放射線防護 2名 放射線測定 2名 電源有の場合 2時間以内 電源無の場合 2時間以内	運転員 2名 中機2名 運転員 2名 中機2名 運転員 2名 中機2名 運転員 2名 中機2名	
	「BによるSFP注水」		「放射性廃棄物処理ポンプ」 台数：1台 (容量：954m ³ /h/台、揚程：150m)	-	-	電源有の場合 1時間以内 電源無の場合 2時間以内	運転員 2名 中機2名	
	「HVCによるSFP注水」		「高圧冷却ポンプ」 台数：1台 (容量：1300m ³ /h/台、揚程：120m)	-	-	-	電源有の場合 2時間以内 電源無の場合 2時間以内	運転員 2名 中機2名
	「LによるSFP注水」		「LによるSFP注水」 台数：1台 (容量：177m ³ /h/台、揚程：70m)	-	-	-	電源有の場合 1時間以内 電源無の場合 2時間以内	運転員 2名 中機2名
	「前大ポンプによるSFP注水」		「前大ポンプによるSFP注水」 台数：1台 (容量：1300m ³ /h/台、揚程：120m)	-	-	-	電源有の場合 2時間以内 電源無の場合 2時間以内	運転員 2名 中機2名
	「BによるSFP注水」		「BによるSFP注水」 台数：1台 (容量：1300m ³ /h/台、揚程：120m)	-	-	-	電源有の場合 2時間以内 電源無の場合 2時間以内	運転員 2名 中機2名
	「代用品による補給冷却水確保」		「代用品による補給冷却水確保」 台数：1台 (容量：1300m ³ /h/台、揚程：120m)	-	-	-	電源有の場合 2時間以内 電源無の場合 2時間以内	運転員 2名 中機2名
	「代用品による補給冷却水確保」		「代用品による補給冷却水確保」 台数：1台 (容量：1300m ³ /h/台、揚程：120m)	-	-	-	電源有の場合 2時間以内 電源無の場合 2時間以内	運転員 2名 中機2名
	「代用品による補給冷却水確保」		「代用品による補給冷却水確保」 台数：1台 (容量：1300m ³ /h/台、揚程：120m)	-	-	-	電源有の場合 2時間以内 電源無の場合 2時間以内	運転員 2名 中機2名
	「代用品による補給冷却水確保」		「代用品による補給冷却水確保」 台数：1台 (容量：1300m ³ /h/台、揚程：120m)	-	-	-	電源有の場合 2時間以内 電源無の場合 2時間以内	運転員 2名 中機2名

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

第1表 個別戦略プロセスにおける対応手順書等及び設備一覧 (10/11)

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査 基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)		
⑦ 使用済燃料プー ル注水戦略	「代用品による補給冷却水確保」	(L-11) (L-12) (L-13)	「可搬型代替注水大型ポンプ」 (容量：約1,350m ³ /h (1台当たり)、揚程：約140m、台数：3) (保管場所：西側保管場所、南側保管場所、予備機置場)	・代替冷却水設備 ・原水冷却水設備 ・海	-	205分以内 (ホース運搬車 を使用しない場 合は535分以内)	当番運転員 (中機) 1名 重大事故等対応要員 9名		
	「サイフォンブレーク」		「可搬型代替注水大型ポンプ」 (容量：約1,350m ³ /h、揚程：約135m、台数：2) (保管場所：西側保管場所、南側保管場所)	・海	-	210分 21分	重大事故等対応要員 8名		
	「放射線防護設備」		「放射線防護設備」 台数：1台 (容量：1300m ³ /h/台、揚程：120m)	-	-	-	-	-	
	「ライナーの補修」		「ライナーの補修」	-	-	-	-	-	
	⑧ 使用済燃料プー ル注水戦略		⑧ 使用済燃料プー ル注水戦略	⑧ 使用済燃料プー ル注水戦略	⑧ 使用済燃料プー ル注水戦略	⑧ 使用済燃料プー ル注水戦略	⑧ 使用済燃料プー ル注水戦略	⑧ 使用済燃料プー ル注水戦略	⑧ 使用済燃料プー ル注水戦略
	「可搬型代替注水大型ポンプ」 (容量：約1,350m ³ /h、揚程：約135m、台数：2) (保管場所：西側保管場所、南側保管場所)		・海	-	-	-	-	-	
	「可搬型代替注水大型ポンプ」 (容量：約1,350m ³ /h、揚程：約135m、台数：2) (保管場所：西側保管場所、南側保管場所)		・海	-	-	-	-	-	
	「可搬型代替注水大型ポンプ」 (容量：約1,350m ³ /h、揚程：約135m、台数：2) (保管場所：西側保管場所、南側保管場所)		・海	-	-	-	-	-	
	「可搬型代替注水大型ポンプ」 (容量：約1,350m ³ /h、揚程：約135m、台数：2) (保管場所：西側保管場所、南側保管場所)		・海	-	-	-	-	-	
	「可搬型代替注水大型ポンプ」 (容量：約1,350m ³ /h、揚程：約135m、台数：2) (保管場所：西側保管場所、南側保管場所)		・海	-	-	-	-	-	

・記載表現の相違
【柏崎6/7】
島根2号炉は、燃料プー
ル除熱戦略について、
対応手順書等及び設備
一覧(11/14)に記載
【東海第二】
島根2号炉は、燃料プー
ル注水戦略、燃料プー
ル除熱戦略及び放射性
物質拡散抑制戦略につ
いて、対応手順書等及び
設備一覧(11/14)に記
載

表1 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧(7号炉の例)(12/14)

個別戦略	手順書等	個別戦略に 係る装置等 の装置項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
⑥ 使用済燃料除熱 戦略	「代替機による補機冷却水確保」	(L.11)	・ 熱交換器ユニット (保管場所: T.M.S.L.・35m以上) 台数: 2台 (稼働機数: 2300) ・ 代替原子炉用機冷却水ポンプ (保管場所: T.M.S.L.・35m以上) 台数: 4台 (容量: 1200/台、揚程: 125m) ・ 代替原子炉用機冷却水ポンプ (保管場所: T.M.S.L.・35m以上) 台数: 4台 (容量: 420/台、揚程: 125m)	-	-	取替操作 7時間以内	復旧班員 16名
	「代替機による補機冷却水確保」		・ 冷却水ポンプ (保管場所: T.M.S.L.・35m以上) 台数: 5台 ・ ホース搬送車 (保管場所: T.M.S.L.・35m以上) 台数: 5台	-	-	取替操作 7時間以内	復旧班員 16名
⑦ 放射性物質拡散 抑制のための戦略	① 高圧水ポンプの停止手続 「放射性物質放出抑制への対策」(冷却水/補 水)	(L.12)	・ 冷却水ポンプ (保管場所: T.M.S.L.・35m以上) 台数: 5台 (容量: 900m ³ /分、吐出圧力: 0.9MPa) ・ 冷却水ポンプ (保管場所: T.M.S.L.・35m以上) 台数: 5台 ・ ホース搬送車 (保管場所: T.M.S.L.・35m以上) 台数: 5台	海水取水設備	-	取替操作 3時間以内	復旧班員 8名
	「海岸への放出抑制 (汚染防止機設置)」		・ 冷却水ポンプ (保管場所: T.M.S.L.・35m以上) 台数: 5台 (容量: 900m ³ /分、吐出圧力: 0.9MPa) ・ 冷却水ポンプ (保管場所: T.M.S.L.・35m以上) 台数: 5台 ・ ホース搬送車 (保管場所: T.M.S.L.・35m以上) 台数: 5台	-	-	取替操作 3時間以内	復旧班員 8名
⑧ 電源確保戦略	「海岸への放出抑制 (放射性物質管理対策)」		・ 放射性物質管理対策 (保管場所: T.M.S.L.・35m以上) 台数: 1000以上	-	-	取替操作 3時間以内	復旧班員 4名
	② 緊急時電源確保 (保安電源/復旧電源)		・ 非常用ディーゼル発電機 台数: 2台 (容量: 6250kVA/台、電圧: 6.9kV) ・ 非常用ディーゼル発電機 台数: 2台 (容量: 6250kVA/台、電圧: 6.9kV) ・ 非常用ディーゼル発電機 台数: 2台 (容量: 6250kVA/台、電圧: 6.9kV)	-	-	中継操作	運転員 2名
	「他設備からの受電確保」		・ 非常用ディーゼル発電機 台数: 2台 (容量: 6250kVA/台、電圧: 6.9kV) ・ 非常用ディーゼル発電機 台数: 2台 (容量: 6250kVA/台、電圧: 6.9kV)	-	-	中継操作	運転員 2名
	「発電機子機へ切り替え」		・ 非常用ディーゼル発電機 台数: 2台 (容量: 6250kVA/台、電圧: 6.9kV) ・ 非常用ディーゼル発電機 台数: 2台 (容量: 6250kVA/台、電圧: 6.9kV)	-	-	中継操作	運転員 2名
	「DG (A) (B)による緊急用(C)への送電」		・ 非常用ディーゼル発電機 台数: 2台 (容量: 6250kVA/台、電圧: 6.9kV) ・ 非常用ディーゼル発電機 台数: 2台 (容量: 6250kVA/台、電圧: 6.9kV)	-	-	中継操作	運転員 2名

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017.12.20版)

東海第二発電所 (2018.9.18版)

島根原子力発電所 2号炉

備考

・ 記載表現の相違
【柏崎6/7】
島根2号炉は、燃料プ
ール除熱戦略、放射性物
質拡散抑制戦略及び電
源確保戦略について、対
応手順書等及び設備一
覧(11/14)、(12/14)
及び(13/14)に記載

表1 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (7号炉の例) (13/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
④ 電源確保戦略	「直流125V充電装置B受電」	「直流125V充電装置B受電」	・直流125V充電装置B	-	-	現場操作 2時間以内	運転員 中隊2名 現場2名
	「直流125V充電装置A受電」	「直流125V充電装置A受電」	・直流125V充電装置A	-	-	現場操作 2時間以内	運転員 中隊2名 現場2名
	「400V直流125V充電装置受電」	「400V直流125V充電装置受電」	・400V直流125V充電装置	-	-	現場操作 2時間30分以内	運転員 中隊2名 現場2名
	「中隊監視計器監視目 (C系)」	「中隊監視計器監視目 (C系)」	・M/CCTC-1-7 (バイタル、O/C、計測用電源)	-	-	現場操作 1時間以内	運転員 中隊2名 現場2名
④ 電源確保戦略	「中隊監視計器監視目 (D系)」	「中隊監視計器監視目 (D系)」	・M/CCTC-1-8 (原子炉冷却系統用電源) 受電にて受電できない場合 ・M/CCTC-1-7 (バイタル、O/C、計測用電源)	-	-	現場操作 1時間30分以内	運転員 中隊2名 現場2名
	④ 各種安全システム対応要項	「各号炉D/GCによる緊急用M/C受電から番号印への送電」	・非常用アイゼン発電機 台数：3台 (容量：620kVA/台、電圧：6.9kV) ・緊急用M/C自機	-	-	当該号炉運 転員 中隊2名 現場2名 継ぎ足運転 員	当該号炉運 転員 中隊2名 現場2名 継ぎ足運転 員
		「第二G/Gによる緊急M/C受電」	・第二G/Gによる緊急用電源 (保管場所：T.M.S.L. 330)	-	-	現場操作 2時間以内	運転員 中隊2名 現場4名 現場班員 6名
		「電源車による緊急M/C受電」	・電源車 (保管場所：T.M.S.L. 430以上) 台数：9台 (容量：500kVA/台、電圧：6.9kV) ・M/C/C、70時機	-	-	現場操作 2時間以内	運転員 中隊2名 現場2名 継ぎ足運 転員 6名
		「電源車による500V/CCTC-1、D-1受電」	・電源車 (保管場所：T.M.S.L. 430以上) 台数：9台 (容量：500kVA/台、電圧：6.9kV) ・P/C/C、70時機	-	-	現場操作 7時間以内	運転員 中隊2名 現場2名 現場班員

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (11/11)

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
④ 電源確保戦略	④ 非常時運転手順書II (継続ベース)、非常時運転手順書II (停止時継続ベース)、重大事故等対策要項	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目					
	「常設代替交流電源設備による緊急用M/C及び非常用M/C受電 (中央制御室からの起動)」		・常設代替高圧電源装置 (台数：6)	-	-	92分以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現場) 2名
	「常設代替交流電源設備による緊急用M/C及び非常用M/C受電 (現場からの起動)」		・常設代替高圧電源装置 (台数：6)	-	-	88分以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現場) 2名 重大事故等対応要員 2名
	「可搬型代替交流電源設備による非常用P/C受電」		・可搬型代替低圧電源車 (台数：5)	-	-	180分以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現場) 2名 重大事故等対応要員 6名
	「可搬型代替交流電源設備による緊急用P/C受電」		・可搬型代替低圧電源車 (台数：5)	-	-	180分以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現場) 2名 重大事故等対応要員 6名
④ 電源確保戦略	「常設代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線受電」	(1.14)	・常設代替直流電源設備	-	-	操作不要	-
	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線電又は直流125V主母線電2A・2B受電」	(1.14)	・可搬型代替低圧電源車 (台数：5) ・可搬型整流器	-	-	250分以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現場) 2名 重大事故等対応要員 6名

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (12/14)

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
④ 電源確保戦略	④ 非常時運転手順書II (継続ベース)、AN設備等維持要項、原子炉冷却系統要項	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目					
	「M/C D受電」		・M/C D受電の場合 (中央制御室からの起動) ・M/C C受電の場合 (中央制御室からの起動)	-	-	60分以内 1時間10分以内	中央制御室運転員1名 現場班員2名
	「M/C D受電」		・M/C D受電の場合 (現場からの起動) ・M/C C受電の場合 (現場からの起動)	-	-	1時間5分以内 1時間10分以内	中央制御室運転員1名 緊急時班員5名
	「M/C C受電」		・M/C C受電の場合 (現場からの起動)	-	-	10分以内	中央制御室運転員1名
	「緊急用M/C受電」		・緊急用M/C受電	-	-	35分以内	中央制御室運転員1名 緊急時班員2名
④ 電源確保戦略	「高圧電源車使用手順書 (E.L06、E.L13-23a、E.L.K.06)」	(1.14)	・高圧電源車 (保管場所：E.L06、E.L13-23a、E.L.K.06) 台数：7台 (容量：1000kVA/台、電圧：6.9kV) ・M/C C系 ・緊急用M/C受電	-	-	1時間30分以内 4時間以内	中央制御室運転員1名 緊急時班員5名
	「高圧電源車使用手順書 (E.L06、E.L13-23a、E.L.K.06)」	(1.14)	・高圧電源車 (保管場所：E.L06、E.L13-23a、E.L.K.06) 台数：7台 (容量：1000kVA/台、電圧：6.9kV) ・M/C C系 ・緊急用M/C受電	-	-	1時間30分以内 4時間以内	中央制御室運転員1名 緊急時班員5名
	「高圧電源車使用手順書 (E.L06、E.L13-23a、E.L.K.06)」	(1.14)	・高圧電源車 (保管場所：E.L06、E.L13-23a、E.L.K.06) 台数：7台 (容量：1000kVA/台、電圧：6.9kV) ・M/C C系 ・緊急用M/C受電	-	-	1時間30分以内 4時間以内	中央制御室運転員1名 緊急時班員5名
	「高圧電源車使用手順書 (E.L06、E.L13-23a、E.L.K.06)」	(1.14)	・高圧電源車 (保管場所：E.L06、E.L13-23a、E.L.K.06) 台数：7台 (容量：1000kVA/台、電圧：6.9kV) ・M/C C系 ・緊急用M/C受電	-	-	1時間30分以内 4時間以内	中央制御室運転員1名 緊急時班員5名

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

備考
・設備及び運用の相違
【柏崎6/7, 東海第二】
対応手段における対応設備及び運用の相違

表1 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (7号炉の例) (14/14)

個別戦略	手順書等	主要な使用設備 (保管場所, 仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
④ 電源確保戦略	「可搬型直流電源設備による給電」 「可搬型直流電源設備による給電」 「可搬型直流電源設備による給電」	(1.14) ・可搬型直流電源設備 (保管場所: T.M.S.L.+35m以上) 台数: 4台 (容量: 約400kVA, 電圧: DC125V)	-	-	現地操作 9時間以内	運転員 中核2名 現場作業員 4名
④ 人命救助戦略	○緊急班ガイド ○緊急班ガイド	(2.1) -	-	-	-	-
④ 多様なハザード対応戦略	「消防車によるCSFへの対応 (除水/排水)」 「消防車によるCSFへの対応 (除水/排水)」 「消防車による防火水噴への滅火確認」	(1.13) ・可搬型代替圧水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L.+35m以上) A-2: 台数: 13台 (容量: 120t/h/94 m ³ /h, 吐出圧力: 0.83MPa/1.4MPa) ・可搬型代替圧水ポンプ (消防自動車) (保管場所: T.M.S.L.+35m以上) A-2: 台数: 13台 (容量: 120t/h/94 m ³ /h, 吐出圧力: 0.83MPa/1.4MPa)	防火水樽 排水放水箇所 備水取水箇所	-	現地操作 3時間以内 現地操作 3時間以内	復旧班員 4名 復旧班員 4名
④ 多様なハザード対応戦略	「非常用(0)転送タンクからタンクローリーへの給電」 「非常用(0)転送タンクからタンクローリーへの給電」 「地下転送タンクからローリーへの給電」 「タンクローリーから各機器等への給電」	(2.1) ・タンクローリー (保管場所: T.M.S.L.+35m以上) 台数: 4台 (容量: 1t/台), 台数: 1台 (容量: 10t/台) ・タンクローリー (保管場所: T.M.S.L.+35m以上) 台数: 4台 (容量: 1t/台), 台数: 1台 (容量: 10t/台) ・タンクローリー (保管場所: T.M.S.L.+35m以上) 台数: 1台 (容量: 1t/台), 台数: 1台 (容量: 10t/台)	-	機器操作 機器操作 機器操作 機器操作	2時間以内 30分以内 30分以内 機器操作 機器操作 機器操作	復旧班員 2名 復旧班員 2名 復旧班員 2名

注) 本資料は、訓練等の実績により見直す可能性があり、使用設備、所要時間、必要人員等は最終的に各手順書に反映する。

- ・設備及び運用の相違
【柏崎 6/7】
対応手段における対応設備及び運用の相違
- ・記載表現の相違
【柏崎 6/7】
島根 2号炉は、水源確保戦略及び燃料確保戦略について、対応手順書等及び設備一覧 (14/14) に記載

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (13/14)

個別戦略	手順書等	主要な使用設備 (保管場所, 仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)
「高圧発電機によるS.A.ロードセンター及びS.A.ロードセンター」		・高圧発電機 (保管場所: E.L.5m, E.L.13~25m, E.L.5.5m) ・M/C 2基 ・M/G 2基 ・S.A.ロードセンター	原子力発電所内の高圧発電機系統 フラグ設備に接続する フラグ設備に接続する場合 ガスタービン発電機 (緊急用メタタフ)の緊急用メタタフ ガスタービン発電機 (S.A.)及びS.A.M. 110V系電源による B-110V系電源からB-110V系電源 連 (S.A.)受電回路を介してB-110V系電源 に供給する A-110V系電源、中央制御室 B-110V系電源 200V系電源 (R.C.C.)及び中央制御室 電源計測装置D系受電回路による	原子力発電所内の高圧発電機系統 フラグ設備に接続する フラグ設備に接続する場合 ガスタービン発電機 (緊急用メタタフ)の緊急用メタタフ ガスタービン発電機 (S.A.)及びS.A.M. 110V系電源による B-110V系電源からB-110V系電源 連 (S.A.)受電回路を介してB-110V系電源 に供給する A-110V系電源、中央制御室 B-110V系電源 200V系電源 (R.C.C.)及び中央制御室 電源計測装置D系受電回路による	4時間 30分以内 4時間 30分以内 4時間 30分以内 (操作不要) 30分以内 30分以内 30分以内	中央制御室班員1名 班員3名 班員3名 班員2名 班員2名 班員2名 班員2名
「可搬型直流電源設備による給電」		・高圧発電機 (保管場所: E.L.5m, E.L.13~25m, E.L.5.5m) ・B-110V系電源 (S.A.) ・S.A.M. 110V系電源 (S.A.) ・200V系電源 (R.C.C.) ・B-110V系電源 (S.A.) ・S.A.M. 110V系電源 (S.A.) ・200V系電源 (R.C.C.)	-	原子力発電所内の高圧発電機系統 フラグ設備に接続する場合 ガスタービン発電機 (緊急用メタタフ)の緊急用メタタフ ガスタービン発電機 (S.A.)及びS.A.M. 110V系電源による B-110V系電源からB-110V系電源 連 (S.A.)受電回路を介してB-110V系電源 に供給する A-110V系電源、中央制御室 B-110V系電源 200V系電源 (R.C.C.)及び中央制御室 電源計測装置D系受電回路による	6時間 15分以内 6時間 15分以内 6時間 15分以内	中央制御室班員1名 班員3名 班員3名 班員2名 班員2名
「可搬型直流電源設備による給電」		・高圧発電機 (保管場所: E.L.5m, E.L.13~25m, E.L.5.5m) ・B-110V系電源 (S.A.) ・S.A.M. 110V系電源 (S.A.) ・200V系電源 (R.C.C.)	-	原子力発電所内の高圧発電機系統 フラグ設備に接続する場合 ガスタービン発電機 (緊急用メタタフ)の緊急用メタタフ ガスタービン発電機 (S.A.)及びS.A.M. 110V系電源による B-110V系電源からB-110V系電源 連 (S.A.)受電回路を介してB-110V系電源 に供給する A-110V系電源、中央制御室 B-110V系電源 200V系電源 (R.C.C.)及び中央制御室 電源計測装置D系受電回路による	6時間 15分以内 6時間 15分以内	中央制御室班員1名 班員3名 班員3名
「可搬型直流電源設備による給電」		・高圧発電機 (保管場所: E.L.5m, E.L.13~25m, E.L.5.5m) ・B-110V系電源 (S.A.) ・S.A.M. 110V系電源 (S.A.) ・200V系電源 (R.C.C.)	-	原子力発電所内の高圧発電機系統 フラグ設備に接続する場合 ガスタービン発電機 (緊急用メタタフ)の緊急用メタタフ ガスタービン発電機 (S.A.)及びS.A.M. 110V系電源による B-110V系電源からB-110V系電源 連 (S.A.)受電回路を介してB-110V系電源 に供給する A-110V系電源、中央制御室 B-110V系電源 200V系電源 (R.C.C.)及び中央制御室 電源計測装置D系受電回路による	6時間 15分以内 6時間 15分以内	中央制御室班員1名 班員3名 班員3名
「可搬型直流電源設備による給電」		・高圧発電機 (保管場所: E.L.5m, E.L.13~25m, E.L.5.5m) ・B-110V系電源 (S.A.) ・S.A.M. 110V系電源 (S.A.) ・200V系電源 (R.C.C.)	-	原子力発電所内の高圧発電機系統 フラグ設備に接続する場合 ガスタービン発電機 (緊急用メタタフ)の緊急用メタタフ ガスタービン発電機 (S.A.)及びS.A.M. 110V系電源による B-110V系電源からB-110V系電源 連 (S.A.)受電回路を介してB-110V系電源 に供給する A-110V系電源、中央制御室 B-110V系電源 200V系電源 (R.C.C.)及び中央制御室 電源計測装置D系受電回路による	6時間 15分以内 6時間 15分以内	中央制御室班員1名 班員3名 班員3名

(注)各手順、各設備の保管場所、数量等については、今後の訓練、検討結果等によって見直す可能性がある。

・記載表現の相違
【柏崎 6/7】
 柏崎 6/7 は、水源確保戦略及び燃料確保戦略について、対応手順書等及び設備一覧 (14/14) に記載

第1表 個別戦略フローにおける対応手順書等及び設備一覧 (14/14)

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る重要事項の取組項目	主な使用設備(保管場所、日誌等)	水源	備考	所要時間(目安)	必要人員(目安)
①原子力発電所管理業務 「大飯送水車」による補給	「大飯送水車」は大飯送水ポンプ車による補給	(L.13)	・大飯送水車(保管場所: E.L.14a, E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 3台(容量: 約1500kVA/台, 吐出圧力: 約0.83MPa)	・取水ポンプ 1. 取水ポンプ 2. 取水ポンプ 3. 取水ポンプ 4. 取水ポンプ 5. 取水ポンプ	・大飯送水車(保管場所: E.L.14a, E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 3台(容量: 約1500kVA/台, 吐出圧力: 約0.83MPa) ・大飯送水車(保管場所: E.L.14a, E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 3台(容量: 約1500kVA/台, 吐出圧力: 約0.83MPa)	・電機操作 2時間 30分以内 1時間 10分以内 1時間 10分以内	・中央制御室乗組員 1名 緊急時作業員 12名
			・大飯送水ポンプ車(保管場所: E.L.5a, E.L.12~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 3台(容量: 約1500kVA/台, 吐出圧力: 約1.1MPa) ・大飯送水車(保管場所: E.L.5a, E.L.14a, E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 5台(容量: 約1500kVA/台, 吐出圧力: 約0.83MPa)	・大飯送水ポンプ車(保管場所: E.L.5a, E.L.12~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 3台(容量: 約1500kVA/台, 吐出圧力: 約1.1MPa) ・大飯送水車(保管場所: E.L.5a, E.L.14a, E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 5台(容量: 約1500kVA/台, 吐出圧力: 約0.83MPa)	・電機操作 1時間 20分以内 2時間 30分以内 3時間 40分以内 2時間 10分以内 3時間 10分以内	・中央制御室乗組員 1名 緊急時作業員 12名	
			・大飯送水ポンプ車(保管場所: E.L.5a, E.L.12~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 3台(容量: 約1500kVA/台, 吐出圧力: 約1.1MPa) ・大飯送水車(保管場所: E.L.5a, E.L.14a, E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 5台(容量: 約1500kVA/台, 吐出圧力: 約0.83MPa)	・大飯送水ポンプ車(保管場所: E.L.5a, E.L.12~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 3台(容量: 約1500kVA/台, 吐出圧力: 約1.1MPa) ・大飯送水車(保管場所: E.L.5a, E.L.14a, E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 5台(容量: 約1500kVA/台, 吐出圧力: 約0.83MPa)	・電機操作 2時間 10分以内 2時間 10分以内 2時間 10分以内	・中央制御室乗組員 1名 緊急時作業員 12名	
②原子力発電所管理業務 「タンクローリー」による補給	「タンクローリー」はタンクローリーによる補給	(L.14)	・タンクローリー(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 2台(容量: 約1500kVA/台) ・ガスタービン発電機(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 1台(容量: 約1500kVA/台) ・非常用ディーゼル発電機(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 2台(容量: 約1500kVA/台) ・タンクローリー(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 1台(容量: 約1500kVA/台)	・タンクローリー(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 2台(容量: 約1500kVA/台) ・ガスタービン発電機(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 1台(容量: 約1500kVA/台) ・非常用ディーゼル発電機(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 2台(容量: 約1500kVA/台) ・タンクローリー(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 1台(容量: 約1500kVA/台)	・大飯送水車(保管場所: E.L.14a, E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 3台(容量: 約1500kVA/台, 吐出圧力: 約0.83MPa) ・大飯送水車(保管場所: E.L.14a, E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 3台(容量: 約1500kVA/台, 吐出圧力: 約0.83MPa)	・電機操作 1時間 30分以内 2時間 30分以内	・中央制御室乗組員 2名 緊急時作業員 12名
			・タンクローリー(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 2台(容量: 約1500kVA/台) ・ガスタービン発電機(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 1台(容量: 約1500kVA/台) ・非常用ディーゼル発電機(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 2台(容量: 約1500kVA/台) ・タンクローリー(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 1台(容量: 約1500kVA/台)	・タンクローリー(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 2台(容量: 約1500kVA/台) ・ガスタービン発電機(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 1台(容量: 約1500kVA/台) ・非常用ディーゼル発電機(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 2台(容量: 約1500kVA/台) ・タンクローリー(保管場所: E.L.13~23a, E.L.8, 5a) 配線数: 1台(容量: 約1500kVA/台)	・電機操作 2時間 30分以内 2時間 30分以内	・中央制御室乗組員 2名 緊急時作業員 12名	

注: 各手順、各設備の保管場所・数量等については、今後の訓練、検討結果等によって見直し可能である。

柏崎刈羽原子力発電所 6/7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>1. 柏崎刈羽原子力発電所マニュアル体系大規模損壊関連体系図</p> <p>大規模損壊発生時に必要となる手順書類について、発電所のQMS文書体系上の位置づけを図1に示す。</p> <p>図1 QMS 文書体系上の手順書の位置づけ</p>			<p>・記載表現の相違 【柏崎 6/7】 島根 2号炉は、QMS 手順とその概要について、添付資料 2.1.12 第 1 図に記載</p>

柏崎刈羽原子力発電所 6/7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>2. 大規模損壊発生時の対応手順書体系図</p> <p>発電所対策本部で使用する対応フローに従った措置を講じるため、以下の手順書を用いて対応を行う。また、手順書の体系図を図2に、手順書のリストを表2に示す。</p> <p>(1) 発電所対策本部で使用する手順書</p> <p>① 緊急時対策本部運営要領</p> <p>重大事故、大規模損壊等が発生した場合、又はそのおそれがある場合に、緊急事態に関する発電所対策本部の責任と権限及び実施事項を定めた要領。</p> <p>また、発電所対策本部の運営及び各機能組織が実施する事項については、本要領の下位に紐づく各機能組織のガイドとして定める。</p> <p>② アクシデントマネジメントの手引き (AMG)</p> <p>プラントで発生した事故・故障等が拡大し、炉心損傷に至った際に、事故の進展防止、影響緩和のために実施すべき措置を判断、選択するための情報を定めた要領で、技術支援組織が使用する。炉心が損傷し、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器の健全性を脅かす可能性のあるシビアアクシデント事象に適用する。</p> <p>③ 多様なハザード対応手順 (EHP)</p> <p>自然現象や大規模損壊等により、多数の恒設の電源設備・注水設備等が使用できない場合に、運転員のプラント対応に必要な支援を行うため、可搬設備等によるプラント対応支援を定めた手順書で、実施組織（運転員以外）が使用する。</p> <p>(2) 運転員が使用する手順書</p> <p>① 警報発生時操作手順書</p> <p>中央制御室及び現場制御盤に警報が発生した際に、警報発生原因の除去あるいはプラントを安全な状態に維持するために必要な操作を定めた手順書。</p> <p>② 事故時運転操作手順書（事象ベース）(AOP)</p> <p>単一の故障等で発生する可能性のある異常又は事故が発生した際に、事故の進展を防止するために必要な対応操作を定めた手順書。</p> <p>③ 事故時運転操作手順書（徴候ベース）(EOP)</p> <p>事故の起因事象を問わず、AOPでは対処できない複数の設備の故障等による異常又は事故が発生した際に、重大事故への進展を防止するために必要な対応操作を定めた手順書。</p>			<p>・記載表現の相違</p> <p>【柏崎 6/7】</p> <p>島根 2号炉は、QMS 手順とその概要について、添付資料 2.1.12 第 1 図に記載</p>

柏崎刈羽原子力発電所 6/7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>④事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) (SOP) EOPで対応する状態から更に事象が進展し炉心損傷に至った際に、事故の拡大を防止し影響を緩和するために必要な対応操作を定めた手順書。</p> <p>⑤事故時運転操作手順書 (停止時徴候ベース) (停止時 EOP) 発電用原子炉が停止中の場合において、プラントの異常状態を検知する対応、異常状態発生の防止に関する対応及び異常事象が発生した場合の対応操作に関する事項を定めた手順書。</p> <p>⑥AM 設備別操作手順書 自然現象や大規模損壊等により、多数の恒設の電源設備・注水設備等が使用できない場合に、実施組織 (運転員以外) の支援を受けて行う可搬型設備等による事故対応操作のうち、主に建屋内設備の操作内容を定めた手順書。</p> <p>(3) 発電所対策本部及び運転員が使用する手順書</p> <p>①火災防護計画 発電所の火災防護に係る全ての活動に適用され、設計基準対象施設、並びに重大事故等対処施設の火災防護対策を定め、万一火災が発生したとしても、プラントの安全停止能力を確保すること、発電所職員や環境への放射線の影響を防止することを目的に定めた業務文書。</p>			

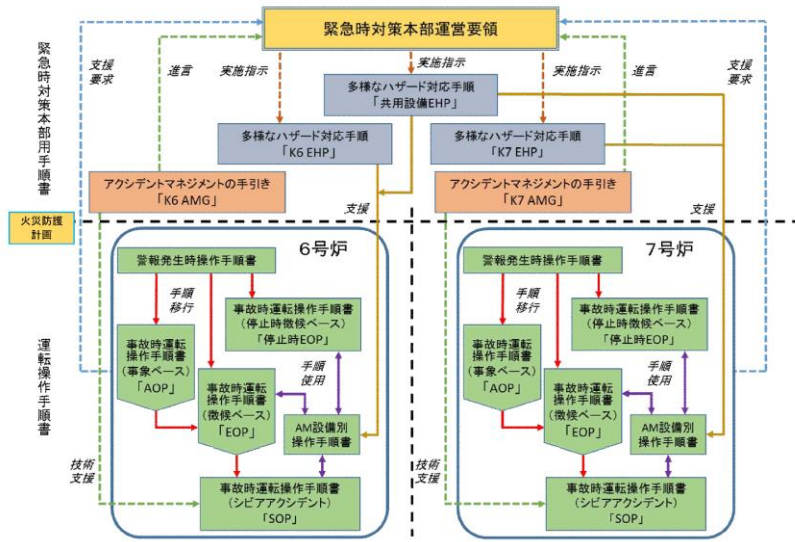
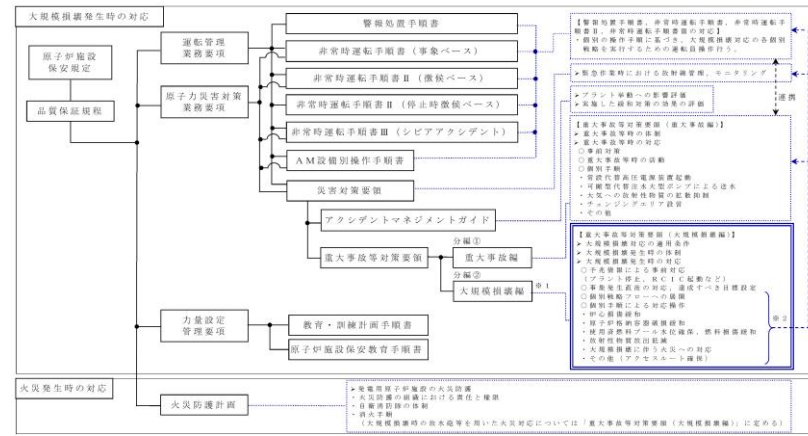
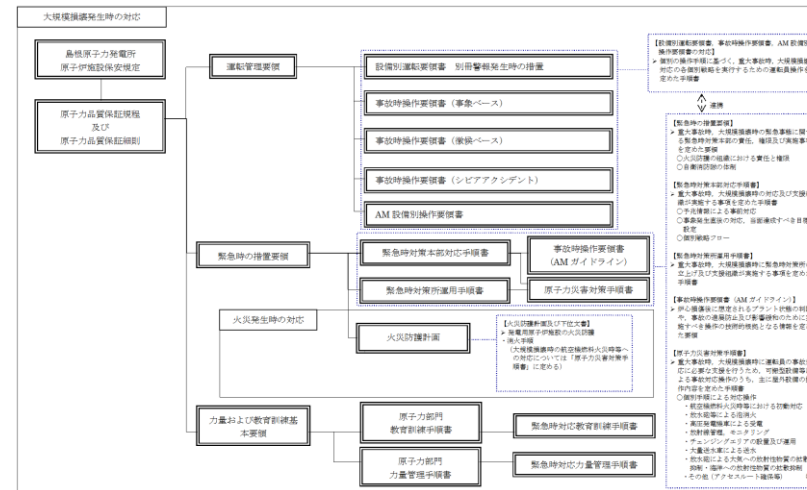


図2 大規模損壊発生時の対応手順書体系図



- ※1 原子力防災管理者又は発電長が適用条件を判断した場合に、重大事故等対策要領（大規模損壊編）を用いた緩和措置を講じる。
- ※2 個別戦略フローへの展開…使用可能な設備を加味し、初動対応フローに基づき事象進展に応じた対応を選定。個別手順による対応操作…上記により決定した対応操作に必要な各手順を用いて実施。

第1図 大規模損壊発生時の対応手順書体系図



第1図 大規模損壊発生時の対応手順書体系図

・手順書構成の相違
【柏崎6/7, 東海第二】
 島根2号炉は、停止時
 徴候ベースの内容を事
 故時操作要領書(徴候ベ
 ース)に合わせて記載し
 制定

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考				
<p style="text-align: center;"><u>表 2 大規模損壊発生時の対応手順書リスト(1/6)</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">緊急時対策本部運営要領</td> </tr> <tr> <td> 計画班手順 保安班手順 号機班手順 復旧班手順 通報班手順 立地・広報班手順 資材班手順 総務班手順 大規模損壊発生時対応手順 </td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">アクシデントマネジメントの手引き (AMG) ※6号及び7号炉ともに構成は同じ</td> </tr> <tr> <td> 確認ガイド [確認ガイドー1] : 炉心損傷の確認ガイド [確認ガイドー2] : 損傷炉心の冷却性確認ガイド [確認ガイドー3] : 原子炉圧力容器破損の確認ガイド [確認ガイドー4] : 格納容器モニタの確認ガイド 確認ガイドー4. 1 格納容器内のパラメータの確認ガイド 確認ガイドー4. 2 格納容器健全性の確認ガイド 操作ガイド [操作ガイドー1] : 損傷炉心への注水操作ガイド [操作ガイドー2] : 原子炉減圧操作ガイド (注水手段がある場合) [操作ガイドー3] : 原子炉減圧操作ガイド (注水手段がない場合) [操作ガイドー4] : 機器復旧後の切り替え操作ガイド [操作ガイドー5] : (原子炉圧力容器破損後の) 原子炉への注水操作ガイド [操作ガイドー6] : 下部D/Wへの注水操作ガイド [操作ガイドー7] : 格納容器からの除熱操作ガイド [操作ガイドー8] : 耐圧強化格納容器ベント操作ガイド [操作ガイドー9] : 格納容器負圧抑制操作ガイド [操作ガイドー10] : 可燃性ガス濃度制御系 (FCS) 操作ガイド [操作ガイドー11] : 原子炉ウェルへの注水操作ガイド </td> </tr> </table>	緊急時対策本部運営要領	計画班手順 保安班手順 号機班手順 復旧班手順 通報班手順 立地・広報班手順 資材班手順 総務班手順 大規模損壊発生時対応手順	アクシデントマネジメントの手引き (AMG) ※6号及び7号炉ともに構成は同じ	確認ガイド [確認ガイドー1] : 炉心損傷の確認ガイド [確認ガイドー2] : 損傷炉心の冷却性確認ガイド [確認ガイドー3] : 原子炉圧力容器破損の確認ガイド [確認ガイドー4] : 格納容器モニタの確認ガイド 確認ガイドー4. 1 格納容器内のパラメータの確認ガイド 確認ガイドー4. 2 格納容器健全性の確認ガイド 操作ガイド [操作ガイドー1] : 損傷炉心への注水操作ガイド [操作ガイドー2] : 原子炉減圧操作ガイド (注水手段がある場合) [操作ガイドー3] : 原子炉減圧操作ガイド (注水手段がない場合) [操作ガイドー4] : 機器復旧後の切り替え操作ガイド [操作ガイドー5] : (原子炉圧力容器破損後の) 原子炉への注水操作ガイド [操作ガイドー6] : 下部D/Wへの注水操作ガイド [操作ガイドー7] : 格納容器からの除熱操作ガイド [操作ガイドー8] : 耐圧強化格納容器ベント操作ガイド [操作ガイドー9] : 格納容器負圧抑制操作ガイド [操作ガイドー10] : 可燃性ガス濃度制御系 (FCS) 操作ガイド [操作ガイドー11] : 原子炉ウェルへの注水操作ガイド			<p>・記載表現の相違 【柏崎 6/7】 島根 2号炉は, 対応手順書一覧を添付資料 2.1.12 第1表に記載</p>
緊急時対策本部運営要領							
計画班手順 保安班手順 号機班手順 復旧班手順 通報班手順 立地・広報班手順 資材班手順 総務班手順 大規模損壊発生時対応手順							
アクシデントマネジメントの手引き (AMG) ※6号及び7号炉ともに構成は同じ							
確認ガイド [確認ガイドー1] : 炉心損傷の確認ガイド [確認ガイドー2] : 損傷炉心の冷却性確認ガイド [確認ガイドー3] : 原子炉圧力容器破損の確認ガイド [確認ガイドー4] : 格納容器モニタの確認ガイド 確認ガイドー4. 1 格納容器内のパラメータの確認ガイド 確認ガイドー4. 2 格納容器健全性の確認ガイド 操作ガイド [操作ガイドー1] : 損傷炉心への注水操作ガイド [操作ガイドー2] : 原子炉減圧操作ガイド (注水手段がある場合) [操作ガイドー3] : 原子炉減圧操作ガイド (注水手段がない場合) [操作ガイドー4] : 機器復旧後の切り替え操作ガイド [操作ガイドー5] : (原子炉圧力容器破損後の) 原子炉への注水操作ガイド [操作ガイドー6] : 下部D/Wへの注水操作ガイド [操作ガイドー7] : 格納容器からの除熱操作ガイド [操作ガイドー8] : 耐圧強化格納容器ベント操作ガイド [操作ガイドー9] : 格納容器負圧抑制操作ガイド [操作ガイドー10] : 可燃性ガス濃度制御系 (FCS) 操作ガイド [操作ガイドー11] : 原子炉ウェルへの注水操作ガイド							

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考		
<p data-bbox="255 212 825 243">表 2 大規模損壊発生時の対応手順書リスト(2/6)</p> <table border="1" data-bbox="181 268 902 758"> <thead> <tr> <th data-bbox="181 268 902 296">6号炉 多様なハザード対応手順 (K6 EHP)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="181 296 902 758"> <p data-bbox="181 302 736 751"> 電源車による P/C 6C-1 及び P/C 6D-1 受電 号炉間電力融通ケーブルによる電力融通 (仮称) 可搬型直流電源装置による直流 125V 主母線盤 6A 受電 直流給電車による直流 125V 主母線盤 6A 受電 電源車による AM 用 MCC 受電 RCIC 現場起動後の排水 フィルタベント水位調整 (仮称) フィルタベント停止後の N2 バージ手順 熱交換器ユニットによる補機冷却水確保 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) による補機冷却水確保 代替 R S W による補機冷却水確保 消防車による送水 水素対策 (トップベント) 消防車による CSP への補給 (淡水/海水) 消防車による防火水槽への海水補給 放射性物質放出箇所へのスプレイ (淡水/海水) 海水取水ポンプによる防火水槽への海水補給 内部溢水 </p> </td> </tr> </tbody> </table>	6号炉 多様なハザード対応手順 (K6 EHP)	<p data-bbox="181 302 736 751"> 電源車による P/C 6C-1 及び P/C 6D-1 受電 号炉間電力融通ケーブルによる電力融通 (仮称) 可搬型直流電源装置による直流 125V 主母線盤 6A 受電 直流給電車による直流 125V 主母線盤 6A 受電 電源車による AM 用 MCC 受電 RCIC 現場起動後の排水 フィルタベント水位調整 (仮称) フィルタベント停止後の N2 バージ手順 熱交換器ユニットによる補機冷却水確保 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) による補機冷却水確保 代替 R S W による補機冷却水確保 消防車による送水 水素対策 (トップベント) 消防車による CSP への補給 (淡水/海水) 消防車による防火水槽への海水補給 放射性物質放出箇所へのスプレイ (淡水/海水) 海水取水ポンプによる防火水槽への海水補給 内部溢水 </p>			
6号炉 多様なハザード対応手順 (K6 EHP)					
<p data-bbox="181 302 736 751"> 電源車による P/C 6C-1 及び P/C 6D-1 受電 号炉間電力融通ケーブルによる電力融通 (仮称) 可搬型直流電源装置による直流 125V 主母線盤 6A 受電 直流給電車による直流 125V 主母線盤 6A 受電 電源車による AM 用 MCC 受電 RCIC 現場起動後の排水 フィルタベント水位調整 (仮称) フィルタベント停止後の N2 バージ手順 熱交換器ユニットによる補機冷却水確保 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) による補機冷却水確保 代替 R S W による補機冷却水確保 消防車による送水 水素対策 (トップベント) 消防車による CSP への補給 (淡水/海水) 消防車による防火水槽への海水補給 放射性物質放出箇所へのスプレイ (淡水/海水) 海水取水ポンプによる防火水槽への海水補給 内部溢水 </p>					

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考		
<p data-bbox="255 212 825 239">表 2 大規模損壊発生時の対応手順書リスト(3/6)</p> <table border="1" data-bbox="186 275 893 751"> <thead> <tr> <th data-bbox="186 275 893 302">7号炉 多様なハザード対応手順 (K7 EHP)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="186 302 893 751"> 電源車による P/C 7C-1 及び P/C 7D-1 受電 号炉間電力融通ケーブルによる電力融通 (仮称) 可搬型直流電源装置による直流 125V 主母線盤 7A 受電 直流給電車による直流 125V 主母線盤 7A 受電 電源車による AM 用 MCC 受電 RCIC 現場起動後の排水 フィルタベント水位調整 (仮称) フィルタベント停止後の N2 パージ手順 熱交換器ユニットによる補機冷却水確保 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) による補機冷却水確保 代替 RSW ポンプによる補機冷却水確保 消防車による送水 水素対策 (トップベント) 消防車による CSP への補給 (淡水/海水) 消防車による防火水槽への海水補給 放射性物質放出箇所へのスプレイ (淡水/海水) 海水取水ポンプによる防火水槽への海水補給 内部溢水 </td> </tr> </tbody> </table>	7号炉 多様なハザード対応手順 (K7 EHP)	電源車による P/C 7C-1 及び P/C 7D-1 受電 号炉間電力融通ケーブルによる電力融通 (仮称) 可搬型直流電源装置による直流 125V 主母線盤 7A 受電 直流給電車による直流 125V 主母線盤 7A 受電 電源車による AM 用 MCC 受電 RCIC 現場起動後の排水 フィルタベント水位調整 (仮称) フィルタベント停止後の N2 パージ手順 熱交換器ユニットによる補機冷却水確保 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) による補機冷却水確保 代替 RSW ポンプによる補機冷却水確保 消防車による送水 水素対策 (トップベント) 消防車による CSP への補給 (淡水/海水) 消防車による防火水槽への海水補給 放射性物質放出箇所へのスプレイ (淡水/海水) 海水取水ポンプによる防火水槽への海水補給 内部溢水			
7号炉 多様なハザード対応手順 (K7 EHP)					
電源車による P/C 7C-1 及び P/C 7D-1 受電 号炉間電力融通ケーブルによる電力融通 (仮称) 可搬型直流電源装置による直流 125V 主母線盤 7A 受電 直流給電車による直流 125V 主母線盤 7A 受電 電源車による AM 用 MCC 受電 RCIC 現場起動後の排水 フィルタベント水位調整 (仮称) フィルタベント停止後の N2 パージ手順 熱交換器ユニットによる補機冷却水確保 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) による補機冷却水確保 代替 RSW ポンプによる補機冷却水確保 消防車による送水 水素対策 (トップベント) 消防車による CSP への補給 (淡水/海水) 消防車による防火水槽への海水補給 放射性物質放出箇所へのスプレイ (淡水/海水) 海水取水ポンプによる防火水槽への海水補給 内部溢水					

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考						
<p align="center">表 2 大規模損壊発生時の対応手順書リスト(4/6)</p> <table border="1" data-bbox="184 262 911 726"> <tr> <td align="center">(共通) 多様なハザード対応手順 (共用設備 EHP)</td> </tr> <tr> <td> 第二GTGによる緊急用M/C受電 電源車による緊急用M/C受電 各号機D/G(A)による緊急用M/C受電から各号機への送電 泡消火剤による消火及び延焼防止 (仮称) 純水移送ポンプ電源確保 電源車によるK3代替緊急時対策所への給電 貯水池から防火水槽への補給 貯水池から淡水タンクへの補給 淡水タンクから防火水槽への補給 軽油タンクからタンクローリーへの給油 タンクローリーから各機器等への給油 状況確認とアクセスルート確保 段差復旧・陥没箇所復旧 がれき除去 除灰手順 (道路部) フィルタ清掃・交換手順 (仮称) 海洋への放出抑制 (仮称) </td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="184 758 911 940"> <tr> <td align="center">6号炉 警報発生時操作手順書</td> </tr> <tr> <td> 重要警報編 系統別一括警報 H11-P703 編 系統別一括警報 H11-P704(L) 編 系統別一括警報 H11-P704(R) 編 系統別一括警報 H11-P705 編 廃棄物処理系編 </td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="184 972 911 1129"> <tr> <td align="center">7号炉 警報発生時操作手順書</td> </tr> <tr> <td> 重要警報編 系統別一括警報 H11-P703 編 系統別一括警報 H11-P704(L) 編 系統別一括警報 H11-P704(R) 編 系統別一括警報 H11-P705 編 </td> </tr> </table>	(共通) 多様なハザード対応手順 (共用設備 EHP)	第二GTGによる緊急用M/C受電 電源車による緊急用M/C受電 各号機D/G(A)による緊急用M/C受電から各号機への送電 泡消火剤による消火及び延焼防止 (仮称) 純水移送ポンプ電源確保 電源車によるK3代替緊急時対策所への給電 貯水池から防火水槽への補給 貯水池から淡水タンクへの補給 淡水タンクから防火水槽への補給 軽油タンクからタンクローリーへの給油 タンクローリーから各機器等への給油 状況確認とアクセスルート確保 段差復旧・陥没箇所復旧 がれき除去 除灰手順 (道路部) フィルタ清掃・交換手順 (仮称) 海洋への放出抑制 (仮称)	6号炉 警報発生時操作手順書	重要警報編 系統別一括警報 H11-P703 編 系統別一括警報 H11-P704(L) 編 系統別一括警報 H11-P704(R) 編 系統別一括警報 H11-P705 編 廃棄物処理系編	7号炉 警報発生時操作手順書	重要警報編 系統別一括警報 H11-P703 編 系統別一括警報 H11-P704(L) 編 系統別一括警報 H11-P704(R) 編 系統別一括警報 H11-P705 編			
(共通) 多様なハザード対応手順 (共用設備 EHP)									
第二GTGによる緊急用M/C受電 電源車による緊急用M/C受電 各号機D/G(A)による緊急用M/C受電から各号機への送電 泡消火剤による消火及び延焼防止 (仮称) 純水移送ポンプ電源確保 電源車によるK3代替緊急時対策所への給電 貯水池から防火水槽への補給 貯水池から淡水タンクへの補給 淡水タンクから防火水槽への補給 軽油タンクからタンクローリーへの給油 タンクローリーから各機器等への給油 状況確認とアクセスルート確保 段差復旧・陥没箇所復旧 がれき除去 除灰手順 (道路部) フィルタ清掃・交換手順 (仮称) 海洋への放出抑制 (仮称)									
6号炉 警報発生時操作手順書									
重要警報編 系統別一括警報 H11-P703 編 系統別一括警報 H11-P704(L) 編 系統別一括警報 H11-P704(R) 編 系統別一括警報 H11-P705 編 廃棄物処理系編									
7号炉 警報発生時操作手順書									
重要警報編 系統別一括警報 H11-P703 編 系統別一括警報 H11-P704(L) 編 系統別一括警報 H11-P704(R) 編 系統別一括警報 H11-P705 編									

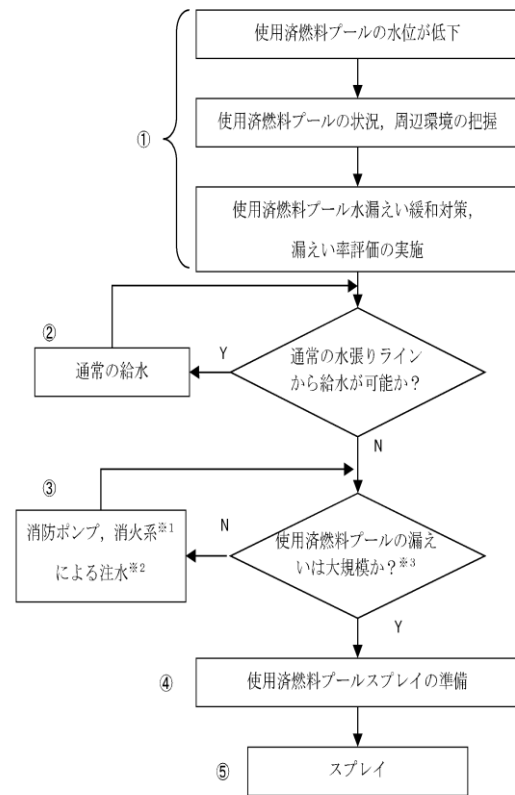
柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考									
<p align="center">表 2 大規模損壊発生時の対応手順書リスト(5/6)</p> <table border="1" data-bbox="181 281 902 390"> <tr> <td>事故時運転操作手順書(事象ベース)(AOP) ※6号及び7号炉ともに構成は同じ</td> </tr> <tr> <td>原子炉編 タービン・電気編 火災編</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="181 422 902 604"> <tr> <td>事故時運転操作手順書(徴候ベース)(EOP) ※6号及び7号炉ともに構成は同じ</td> </tr> <tr> <td>原子炉制御 格納容器制御 原子炉建屋制御 使用済燃料プール制御 不測事態 EOP/SOP インターフェース(ES/I)</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="181 636 902 919"> <tr> <td>事故時運転操作手順書(シリアクティヴ)(SOP) ※6号及び7号炉ともに構成は同じ</td> </tr> <tr> <td>AM 操作方針の全体流れ図 注水-1 「損傷炉心への注水」 注水-2 「長期の原子炉水位の確保」 注水-3a 「RPV 破損前の下部 D/W 注水」 注水-3b 「RPV 破損後の下部 D/W 注水」 注水-4 「長期の RPV 破損後の注水」 除熱-1 「損傷炉心冷却後の除熱」 除熱-2 「RPV 破損後の除熱」 放出 「PCV 破損防止」 水素 「R/B 水素爆発防止」</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="181 951 902 1188"> <tr> <td>事故時運転操作手順書(停止時徴候ベース)(停止時 EOP)</td> </tr> <tr> <td align="center">※6号及び7号炉ともに構成は同じ</td> </tr> <tr> <td>「停止時反応度制御」(RC/Q) 「RPV ヘッドオン/プールゲート閉/PCV 閉鎖」時 SFP 原子炉水位・温度制御 「RPV ヘッドオン/プールゲート閉/PCV 開放」時 SFP 原子炉水位・温度制御 「RPV ヘッドオフ/プールゲート閉/PCV 開放」時 SFP 原子炉水位・温度制御 「RPV ヘッドオフ/プールゲート開/PCV 開放」時 SFP 原子炉水位・温度制御 「RPV ヘッドオフ直後・ヘッドオン直前」時原子炉水位・温度制御 「交流/直流電源供給回路」(PS/R)</td> </tr> </table>	事故時運転操作手順書(事象ベース)(AOP) ※6号及び7号炉ともに構成は同じ	原子炉編 タービン・電気編 火災編	事故時運転操作手順書(徴候ベース)(EOP) ※6号及び7号炉ともに構成は同じ	原子炉制御 格納容器制御 原子炉建屋制御 使用済燃料プール制御 不測事態 EOP/SOP インターフェース(ES/I)	事故時運転操作手順書(シリアクティヴ)(SOP) ※6号及び7号炉ともに構成は同じ	AM 操作方針の全体流れ図 注水-1 「損傷炉心への注水」 注水-2 「長期の原子炉水位の確保」 注水-3a 「RPV 破損前の下部 D/W 注水」 注水-3b 「RPV 破損後の下部 D/W 注水」 注水-4 「長期の RPV 破損後の注水」 除熱-1 「損傷炉心冷却後の除熱」 除熱-2 「RPV 破損後の除熱」 放出 「PCV 破損防止」 水素 「R/B 水素爆発防止」	事故時運転操作手順書(停止時徴候ベース)(停止時 EOP)	※6号及び7号炉ともに構成は同じ	「停止時反応度制御」(RC/Q) 「RPV ヘッドオン/プールゲート閉/PCV 閉鎖」時 SFP 原子炉水位・温度制御 「RPV ヘッドオン/プールゲート閉/PCV 開放」時 SFP 原子炉水位・温度制御 「RPV ヘッドオフ/プールゲート閉/PCV 開放」時 SFP 原子炉水位・温度制御 「RPV ヘッドオフ/プールゲート開/PCV 開放」時 SFP 原子炉水位・温度制御 「RPV ヘッドオフ直後・ヘッドオン直前」時原子炉水位・温度制御 「交流/直流電源供給回路」(PS/R)			
事故時運転操作手順書(事象ベース)(AOP) ※6号及び7号炉ともに構成は同じ												
原子炉編 タービン・電気編 火災編												
事故時運転操作手順書(徴候ベース)(EOP) ※6号及び7号炉ともに構成は同じ												
原子炉制御 格納容器制御 原子炉建屋制御 使用済燃料プール制御 不測事態 EOP/SOP インターフェース(ES/I)												
事故時運転操作手順書(シリアクティヴ)(SOP) ※6号及び7号炉ともに構成は同じ												
AM 操作方針の全体流れ図 注水-1 「損傷炉心への注水」 注水-2 「長期の原子炉水位の確保」 注水-3a 「RPV 破損前の下部 D/W 注水」 注水-3b 「RPV 破損後の下部 D/W 注水」 注水-4 「長期の RPV 破損後の注水」 除熱-1 「損傷炉心冷却後の除熱」 除熱-2 「RPV 破損後の除熱」 放出 「PCV 破損防止」 水素 「R/B 水素爆発防止」												
事故時運転操作手順書(停止時徴候ベース)(停止時 EOP)												
※6号及び7号炉ともに構成は同じ												
「停止時反応度制御」(RC/Q) 「RPV ヘッドオン/プールゲート閉/PCV 閉鎖」時 SFP 原子炉水位・温度制御 「RPV ヘッドオン/プールゲート閉/PCV 開放」時 SFP 原子炉水位・温度制御 「RPV ヘッドオフ/プールゲート閉/PCV 開放」時 SFP 原子炉水位・温度制御 「RPV ヘッドオフ/プールゲート開/PCV 開放」時 SFP 原子炉水位・温度制御 「RPV ヘッドオフ直後・ヘッドオン直前」時原子炉水位・温度制御 「交流/直流電源供給回路」(PS/R)												

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考				
<p style="text-align: center;"><u>表 2 大規模損壊発生時の対応手順書リスト(6/6)</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">AM 設備別操作手順書※6号及び7号炉ともに構成は同じ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ①電源確保戦略 ②反応度制御戦略 ③Rx 注水戦略 ④圧力制御戦略 ⑤格納容器スプレイ戦略 ⑥格納容器水素・酸素制御戦略 ⑦SFP 注水, ウェル注水, SFP 監視戦略 ⑧代替除熱戦略 ⑨原子炉除熱戦略 ⑩格納容器除熱戦略 ⑪SFP 除熱戦略 ⑫水源確保戦略 ⑬代替計器戦略 ⑭その他戦略 ⑮中央制御室居住性確保戦略 ⑯下部 D/W 注水戦略 </td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">火災防護計画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・発電関連設備の火災防護対策 ・中央制御室盤内の火災防護対策 ・原子炉格納容器内の火災防護対策 ・重大事故等対処設備並びにこれらが設置されている火災区域に対する火災防護対策 ・その他の区域の火災防護対策 ・火災鎮火後の処置 </td> </tr> </tbody> </table>	AM 設備別操作手順書※6号及び7号炉ともに構成は同じ	<ul style="list-style-type: none"> ①電源確保戦略 ②反応度制御戦略 ③Rx 注水戦略 ④圧力制御戦略 ⑤格納容器スプレイ戦略 ⑥格納容器水素・酸素制御戦略 ⑦SFP 注水, ウェル注水, SFP 監視戦略 ⑧代替除熱戦略 ⑨原子炉除熱戦略 ⑩格納容器除熱戦略 ⑪SFP 除熱戦略 ⑫水源確保戦略 ⑬代替計器戦略 ⑭その他戦略 ⑮中央制御室居住性確保戦略 ⑯下部 D/W 注水戦略 	火災防護計画	<ul style="list-style-type: none"> ・発電関連設備の火災防護対策 ・中央制御室盤内の火災防護対策 ・原子炉格納容器内の火災防護対策 ・重大事故等対処設備並びにこれらが設置されている火災区域に対する火災防護対策 ・その他の区域の火災防護対策 ・火災鎮火後の処置 			
AM 設備別操作手順書※6号及び7号炉ともに構成は同じ							
<ul style="list-style-type: none"> ①電源確保戦略 ②反応度制御戦略 ③Rx 注水戦略 ④圧力制御戦略 ⑤格納容器スプレイ戦略 ⑥格納容器水素・酸素制御戦略 ⑦SFP 注水, ウェル注水, SFP 監視戦略 ⑧代替除熱戦略 ⑨原子炉除熱戦略 ⑩格納容器除熱戦略 ⑪SFP 除熱戦略 ⑫水源確保戦略 ⑬代替計器戦略 ⑭その他戦略 ⑮中央制御室居住性確保戦略 ⑯下部 D/W 注水戦略 							
火災防護計画							
<ul style="list-style-type: none"> ・発電関連設備の火災防護対策 ・中央制御室盤内の火災防護対策 ・原子炉格納容器内の火災防護対策 ・重大事故等対処設備並びにこれらが設置されている火災区域に対する火災防護対策 ・その他の区域の火災防護対策 ・火災鎮火後の処置 							

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p style="text-align: right;">添付資料 2. 1. 13</p> <p style="text-align: center;">使用済燃料プール大規模漏えい時の対応について</p> <p>1. 使用済燃料プールにおける事故対応 使用済燃料プールに大規模漏えいが発生した場合における、使用済燃料プールの優先順位に従った事故対応例について以下に示す。</p> <p>(1) 使用済燃料プールの漏えい緩和のための操作を実施するにあたり、最も重要な判断は使用済燃料プール（原子炉建屋）へのアクセス可否となる。これは現場の被害状態（火災の発生状況、線量等）に依存する。</p> <p>(2) 使用済燃料プールへアクセス可能な場合には、準備から注水するまでの時間が比較的短い恒設設備（復水補給水系）を用いた内部からの使用済燃料プール注水を行う。</p> <p>(3) (2)の操作により使用済燃料プール水位の維持ができない場合、可搬型代替注水ポンプを用いた注水、消火系を用いた注水、サブプレッションプール浄化系を用いた注水を順次試みる。</p> <p>(4) (3)による使用済燃料プールへの注水を行っても水位が維持できない場合、原子炉建屋内部からのスプレーが可能であれば、可搬型代替注水ポンプを既設の接続口に連結し、常設スプレーヘッドによるスプレーを行い、困難な場合は可搬型スプレーヘッドを用いたスプレーを行う。</p>	<p style="text-align: right;">添付資料 2. 1. 12</p> <p style="text-align: center;">使用済燃料プール大規模漏えい時の対応について</p> <p>1. 使用済燃料プールにおける事故対応 使用済燃料プールに大規模漏えいが発生した場合における、優先順位に従った事故対応例について以下に示す。</p> <p>(1) 使用済燃料プールからの漏えいが発生した場合は、中央制御室から操作が可能であり、速やかな操作が可能である常設低圧代替注水系ポンプによる代替燃料プール注水系（注水ライン）を使用した使用済燃料プール注水を行う。</p> <p>(2) (1)による使用済燃料プール注水を行えない場合、使用済燃料プールへのアクセスが可能であれば、準備から注水開始までの時間が比較的短い恒設設備（消火系）による使用済燃料プール注水を行う。なお、消火系による使用済燃料プールへの注水は、消火系による消火を必要とする火災が発生していないことが確認できた場合に実施する。</p> <p>(3) (2)による使用済燃料プールへの注水が行えない場合、可搬型代替注水大型ポンプ又は可搬型代替注水中型ポンプによる代替燃料プール注水系（注水ライン）を使用した使用済燃料プール注水を行う。</p> <p>(4) (1), (2), (3)による使用済燃料プール注水により、使用済燃料プール水位の維持ができない場合、常設低圧代替注水系ポンプによる代替燃料プール注水系（常設スプレーヘッド）を使用した使用済燃料プールのスプレーを行う。</p>	<p style="text-align: right;">添付資料 2. 1. 13</p> <p style="text-align: center;">燃料プール大規模漏えい時の対応について</p> <p>1. 燃料プールにおける事故対応 燃料プールに大規模な漏えいが発生した場合における、燃料プールの優先順位に従った事故対応例について以下に示す。</p> <p>(1) 燃料プールからの漏えいが発生した場合は、中央制御室から操作が可能であり、速やかな操作が可能である燃料プール補給水系、復水輸送系、消火系又は残留熱除去系による燃料プールへの注水を行う。なお、消火系による燃料プールへの注水は、消火系による消火を必要とする火災が発生していないことが確認できた場合に実施する。</p> <p>(2) (1)による燃料プールへの注水が行えない場合、大量送水車による燃料プールのスプレー系（常設スプレーヘッド）を使用した燃料プールへの注水又はスプレーを行う。</p> <p>(3) (2)による燃料プールへの注水又はスプレーが行えない場合、燃料プールへのアクセスが可能であれば、大量送水車による燃料プールのスプレー系（可搬型スプレーノズル）を使用した燃料プールへの注水又はスプレーを行う。</p>	<p>・設備の相違 【東海第二】 東海第二は、常設低圧代替注水系ポンプによる代替燃料プール注水系を使用した使用済燃料プールへの注水及びスプレー設備を整備</p> <p>・設備の相違 【柏崎 6/7】 島根 2号炉は、柏崎 6/7 のサブプレッションプール浄化系に相当する設備はない</p> <p>・記載表現の相違 【柏崎 6/7, 東海第二】 島根 2号炉は、燃料プールへの注水とスプレーは同様な操作になる</p>

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>(5) (4)と並行して、使用済燃料プールの漏えいを緩和するため、あらかじめ準備している漏えい緩和のための資機材を用いた手段により、使用済燃料プール内側からの漏えい緩和を行う。</p> <p>(6) 使用済燃料プールへアクセスできない場合や建屋内部での使用済燃料プールスプレイが困難な場合、放水砲（大容量送水車（原子炉建屋放水設備用）を使用）を用いた使用済燃料プールへの放水を行う。</p>	<p>(5) (4)による使用済燃料プールスプレイが行えない場合、使用済燃料プールへのアクセスが可能であれば、可搬型代替注水大型ポンプによる代替燃料プール注水系（可搬型スプレイノズル）を使用した使用済燃料プールスプレイを行い、困難な場合は、可搬型代替注水大型ポンプによる代替燃料プール注水系（常設スプレイヘッド）を使用した使用済燃料プールスプレイを行う。</p> <p>(6) また、使用済燃料プールへの注水により使用済燃料プール水位の維持ができない場合、(4)又は(5)の使用済燃料プールスプレイと並行して、使用済燃料プールの漏えいを緩和するため、あらかじめ準備している漏えい緩和のための資機材を用いた手段により、使用済燃料プール内側からの漏えい緩和を行う。</p> <p>(7) (1)～(5)の操作による建屋内部からの使用済燃料プールへの注水、スプレイにより使用済燃料プールの水位上昇が確認できない場合、可搬型代替注水大型ポンプ、放水砲等を用いた建屋外部からの使用済燃料プールへの放水を行う。</p>	<p>(4) 燃料プールからの漏えいが発生している場合は、(2)又は(3)の燃料プールへの注水又はスプレイと並行して、燃料プールの漏えいを緩和するため、あらかじめ準備している漏えい緩和のための資機材を用いた手段により、燃料プール内側からの漏えい緩和を行う。</p> <p>(5) (1)～(4)の操作による建物内部からの燃料プールへの注水又はスプレイにより燃料プールの水位上昇が確認できない場合において、大型航空機が原子炉建物に衝突する等して原子炉建物が損傷し開口部がある場合には、大型送水ポンプ車、放水砲等を用いて、開口部に対して建物外部からの燃料プールへの放水を行う。</p>	<p>ため、まとめて記載</p>

2. 重大事故を想定した使用済燃料プールの監視対応フロー



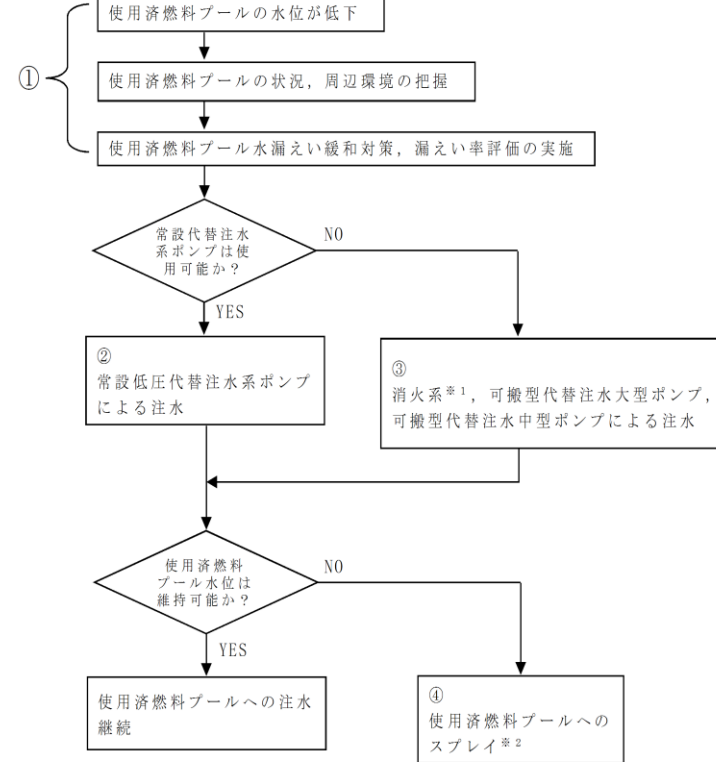
※1 重大事故等へ対処するために消火が必要な火災が発生していないこと。
 ※2 サプレッションプール浄化系による注水も含む。
 ※3 資機材等による漏えい緩和措置が有効な場合は実施する。

図1 使用済燃料プールの監視対応フロー

表1 各設備の監視機能

計器名称		①	②	③	④	⑤
水位	使用済燃料貯蔵プール水位計	○	○	○	-	-
	使用済燃料貯蔵プール水位計 (SA広域)	○	○	○	○	○
温度	使用済燃料貯蔵プール温度計 (SA)	○	○	○	○	-
	使用済燃料貯蔵プール温度計 (SA広域)	○	○	○	-	-
空間線量率	使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)	○	○	○	○	-
	使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ)	-	-	○	○	○
状態監視	使用済燃料貯蔵プール監視カメラ	○	○	○	○	○

2. 重大事故を想定した使用済燃料プールの監視対応フロー



※1 重大事故等へ対処するために消火が必要な火災が発生していないこと。
 ※2 資機材等による漏えい緩和措置が有効な場合は実施する

第1図 使用済燃料プール水位低下時の監視対応フロー

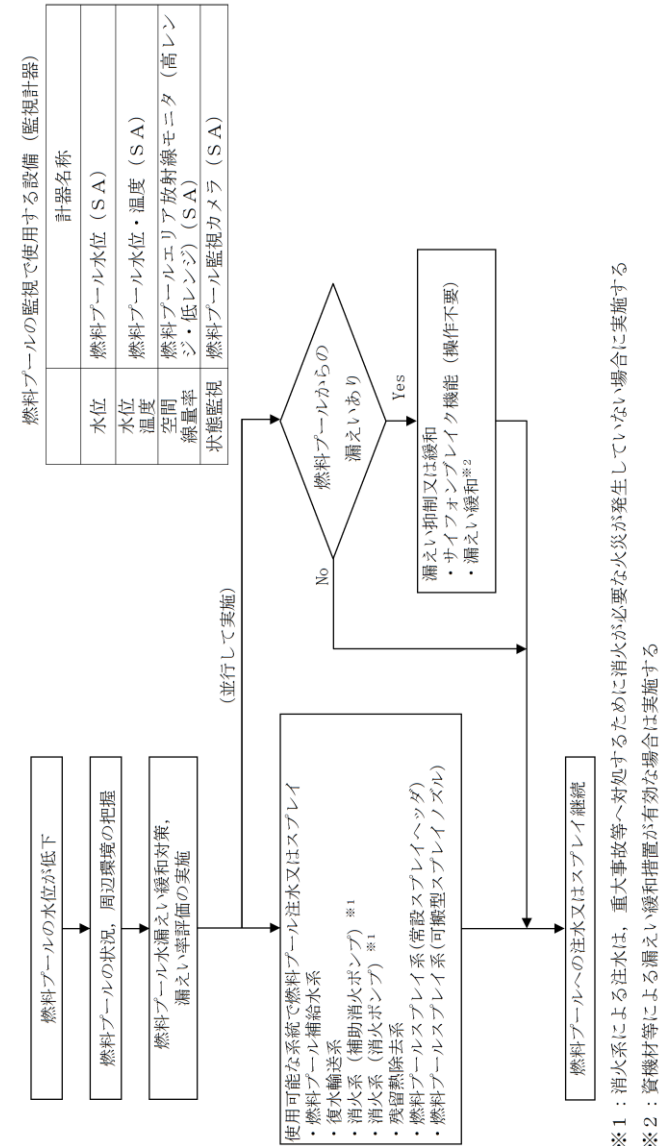
第1表 各設備の監視機能

計器名称		①	②	③	④
水位	使用済燃料プール水位 (SA広域)	○	○	○	○
	使用済燃料プール温度 (SA広域)	○	○	○	- ※3
温度	使用済燃料プール温度 (SA)	○	○	○	- ※3
	使用済燃料プールエリア放射線モニタ (低レンジ)	○	○	○	- ※3
空間線量率	使用済燃料プールエリア放射線モニタ (高レンジ)	-	-	○	○
	状態監視	使用済燃料プール監視カメラ	○	○	- ※3

※3 使用済燃料プールからの漏えいにより、使用済燃料プールの水位が使用済燃料ラック上端の位置を超えて低下する場合、水位の低下量に応じて計測できなくなる場合がある。

・設備及び運用の相違
【柏崎6/7, 東海第二】
 判断基準及び対応設備の相違
 ・設備の相違
【東海第二】
 東海第二は、常設低圧代替注水系ポンプによる代替燃料プール注水系を使用した使用済燃料プールへの注水及びスプレー設備を整備
【柏崎6/7】
 島根2号炉は、柏崎6/7のサプレッションプール浄化系に相当する設備はない
 ・記載表現の相違
【柏崎6/7, 東海第二】
 島根2号炉は、燃料プールへの注水とスプレーは同様な操作になるため、まとめて記載

2. 重大事故等を想定した燃料プールの監視対応フロー



※1：消火系による注水は、重大事故等へ対処するために消火が必要な火災が発生していない場合に実施する
 ※2：資機材等による漏えい緩和措置が有効な場合は実施する

第1図 燃料プールの監視対応フロー

柏崎刈羽原子力発電所 6/7号炉 (2017.12.20版)	東海第二発電所 (2018.9.18版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>3. <u>使用済燃料プールへのスプレイ手順の妥当性について</u> <u>(1) 使用済燃料プール水の大規模漏えい時の未臨界評価</u> <u>柏崎刈羽6号及び7号炉の使用済燃料プール</u> (以下、本添付資料において「SFP」という。)では、ボロン添加ステンレス鋼製ラックセルに燃料が貯蔵される。SFPには、通常は限られた体数の新燃料と使用済燃料が貯蔵されるが、臨界設計については新燃料及びいかなる燃焼度の燃料を貯蔵しても十分安全側の評価を得るように、炉心装荷時の無限増倍率として1.30を仮定している。また、プール水温、ラック製造公差、ボロン添加率、ラックセル内燃料配置それぞれについて最も結果が厳しくなる状態で評価している。</p> <p>仮にSFPプール水が沸騰や喪失した状態、SFPスプレイが作動する状態を想定し、プールの水密度が減少した場合を考えると、ラックセル内で中性子を減速する効果が減少し、実効増倍率を低下させる効果がある。一方、ラックセル間では水及びラックセルによる中性子を吸収する効果が減少するため、隣接ラックへの中性子の流れ込みが強くなり、実効増倍率を増加させる効果が生じる。</p> <p>そこで、<u>柏崎刈羽6号及び7号炉のSFP</u>において水密度を1.0～0.0g/cm³と変化させて実効増倍率を計算したところ、中性子の強吸収体であるラックセル中のボロンの効果により、実効増倍率を増加させる効果がある隣接ラックへの中性子の流れ込みが抑制されることから、水密度の減少に伴い実効増倍率は単調に減少する効果が得られた。このため、水密度が減少する事象が生じた場合でも未臨界は維持されることを確認した。</p>	<p>4. <u>使用済燃料プール水の大規模漏えい時の未臨界性評価</u> <u>東海第二発電所の使用済燃料プール</u>では、ボロン添加ステンレス鋼製ラックセルを平成6年11月に設置(平成3年5月認可)し、現在に至るまで燃料を貯蔵している。使用済燃料プールには、通常は限られた体数の新燃料と照射済燃料を貯蔵するが、<u>臨界設計では、新燃料及びいかなる燃焼度の照射済燃料を貯蔵しても十分安全側の評価を得るように、炉心装荷時の無限増倍率が1.30となる燃料を用いて評価している。</u>また、<u>使用済燃料プール水温、ラック製造公差、ボロン添加率、ラックセル内燃料配置それぞれについて最も結果が厳しくなる状態で評価している。</u>未臨界性評価の基本計算条件を第6表に、ラック形状が確保された状態を前提とした計算体系を第2図に示す。</p> <p>仮に使用済燃料プール水が大規模漏えいし、<u>使用済燃料プールのスプレイ設備が作動する状態となった場合には、使用済燃料プール水の水密度が減少することにより、ラックセル内で中性子を減速する効果が減少し、実効増倍率を低下させる効果が生じる。</u>一方、ラックセル間では水及びラックセルによる中性子を吸収する効果が減少するため、隣接ラックへの中性子の流れ込みが強くなり、実効増倍率を増加させる効果が生じる。</p> <p>低水密度状態を想定した場合の<u>使用済燃料プールの実効増倍率は上記の2つの効果のバランスにより決定されるため、ラックの材質・ピッチの組合せによっては通常の冠水状態と比較して未臨界性評価結果が厳しくなる可能性がある。</u></p> <p>そこで、<u>東海第二発電所の使用済燃料プール</u>において水密度を一様に0.0～1.0g/cm³と変化させて実効増倍率を計算したところ、中性子の強吸収体であるラックセル中のボロンの効果により、実効増倍率を増加させる効果がある隣接ラックへの中性子の流れ込みが抑制されることから、<u>第3図に示すとおり、水密度の減少に伴い実効増倍率は単調に減少する結果が得られた。</u>ボロンは供用期間中に中性子を吸収し、中性子の吸収体としての効果が低下することが考えられるが、<u>仮に供用期間を60年としても効果の低下はごく僅かである。</u>このため、水密度が減少する事象が生じた場合でも未臨界は維持されることとなる。</p>	<p>3. <u>燃料プールへのスプレイ手順の妥当性について</u> <u>(1) 燃料プール水沸騰・喪失時の未臨界性評価</u> <u>島根2号炉の燃料プール</u>では、ボロン添加ステンレス鋼製ラックセルに燃料が貯蔵されている。燃料プールには、通常は限られた体数の新燃料と使用済燃料が貯蔵されるが、<u>臨界設計については新燃料及びいかなる燃焼度の燃料を貯蔵しても十分安全側の評価を得るように、炉心装荷時の無限増倍率として1.30(ウラン燃料の場合)、1.23(MOX燃料の場合)を仮定している。</u>また、<u>プール水温、ラック製造公差、ボロン添加率及びラックセル内燃料配置それぞれについて最も結果が厳しくなる状態で評価している。</u><u>未臨界性評価の基本計算条件を第1表に、ラック形状が確保された状態を前提とした計算体系を第2図に示す。</u></p> <p>仮に燃料プール水が沸騰や喪失した状態及び燃料プールのスプレイ系(常設スプレイヘッド)又は燃料プールのスプレイ系(可搬型スプレイノズル)が作動する状態を想定し、<u>プール水密度が減少した場合を考えると、ラックセル内で中性子を減速する効果が減少し、実効増倍率を低下させる効果がある。</u>一方、ラックセル間では水及びラックセルによる中性子を吸収する効果が減少するため、隣接ラックへの中性子の流れ込みが強くなり、実効増倍率を増加させる効果が生じる。</p> <p>低水密度状態を想定した場合の燃料プールの実効増倍率は上述の2つの効果のバランスにより決定されるため、ラックの材質・ピッチの組合せによっては通常の冠水状態と比較して臨界評価結果が厳しくなる可能性がある。</p> <p>そこで、<u>島根2号炉の燃料プール</u>において水密度を一様に1.0～0.0g/cm³と変化させて実効増倍率を計算したところ、中性子の強吸収体であるラックセル中のボロンの効果により、実効増倍率を増加させる効果がある隣接ラックへの中性子の流れ込みが抑制されることから、水密度の減少に伴い実効増倍率は単調に減少する結果が得られた。このため、水密度が減少する事象が生じた場合でも未臨界は維持されることを確認した。<u>解析結果を第3-1図及び第3-2図に示す。</u>なお、ボロンは供用期間中に中性子を吸収し、中性子の吸収体としての効果が低下することが考えられるが、<u>仮に供用期間を60年としても効果の低下はごくわずかである。</u>このため、水密度が減少する事象が生じた場合でも未臨界は維持されることとなる。</p>	<p>・解析条件の相違 【柏崎6/7、東海第二】 島根2号炉は、MOX適用プラントであるため。</p> <p>・資料構成の相違 【柏崎6/7】 島根2号炉は計算条件を記載している</p>

柏崎刈羽原子力発電所 6/7号炉 (2017.12.20版)	東海第二発電所 (2018.9.18版)	島根原子力発電所 2号炉	備考																																																																										
<p>なお、解析には米国オークリッジ国立研究所(ORNL)により米国原子力規制委員会(NRC)の原子力関連許認可評価用に作成された3次元多群輸送計算コードであり、米国内及び日本国内の臨界安全評価に広く使用されているSCALEシステムを用いた。</p>	<p>なお、解析には、米国オークリッジ国立研究所(ORNL)が米国原子力規制委員会(NRC)の原子力関連許認可評価用として作成したモンテカルロ法に基づく3次元多群輸送計算コードであり、米国内及び日本国内の臨界安全評価に広く使用されているSCALEシステムを用いた。</p>	<p>なお、解析には米国オークリッジ国立研究所(ORNL)により米国原子力規制委員会(NRC)の原子力関連許認可評価用に作成されたモンテカルロ法に基づく3次元多群輸送計算コードであり、米国内及び日本国内の臨界安全評価に広く使用されているSCALEシステムを用いた。</p>	<p>・資料構成の相違 【柏崎6/7】 島根2号炉は計算条件を記載している。 【東海第二】 島根2号炉は、MOX適用プラントであるため</p>																																																																										
	<p style="text-align: center;"><u>第6表 未臨界性評価の基本計算条件</u></p> <table border="1" data-bbox="955 529 1700 1352"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">燃料仕様</td> <td>燃料種類</td> <td>9×9燃料(A型)</td> </tr> <tr> <td>²³⁵U濃縮度</td> <td>□ wt%^{※1}</td> </tr> <tr> <td>ペレット密度</td> <td>理論密度の97%</td> </tr> <tr> <td>ペレット直径</td> <td>0.96cm</td> </tr> <tr> <td>被覆管外径</td> <td>1.12cm</td> </tr> <tr> <td>被覆管厚さ</td> <td>0.71mm</td> </tr> <tr> <td>燃料有効長</td> <td>3.71m</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">使用済燃料貯蔵ラック</td> <td>ラックタイプ</td> <td>キャン型</td> </tr> <tr> <td>ラックピッチ</td> <td>□ mm</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>ボロン添加ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td>ボロン濃度</td> <td>□ wt%^{※2}</td> </tr> <tr> <td>板厚</td> <td>□ mm</td> </tr> <tr> <td>内のり</td> <td>□ mm</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 未臨界性評価用燃料集合体 ($k_{\infty}=1.30$ 未燃焼組成, Gdなし) ※2 ボロン濃度の解析使用値は、製造公差下限値とする。</p>			項目	仕様	燃料仕様	燃料種類	9×9燃料(A型)	²³⁵ U濃縮度	□ wt% ^{※1}	ペレット密度	理論密度の97%	ペレット直径	0.96cm	被覆管外径	1.12cm	被覆管厚さ	0.71mm	燃料有効長	3.71m	使用済燃料貯蔵ラック	ラックタイプ	キャン型	ラックピッチ	□ mm	材料	ボロン添加ステンレス鋼	ボロン濃度	□ wt% ^{※2}	板厚	□ mm	内のり	□ mm	<p style="text-align: center;"><u>第1表 未臨界性評価の基本計算条件</u></p> <table border="1" data-bbox="1742 525 2499 1041"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">仕様</th> </tr> <tr> <th>ウラン燃料</th> <th>MOX燃料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">燃料仕様</td> <td>燃料種類</td> <td>9×9燃料(A型)</td> <td>MOX燃料</td> </tr> <tr> <td>濃縮度</td> <td>²³⁵U濃縮度 □ wt%^{※1}</td> <td>核分裂性Pu富化度 □ wt%^{※2} ²³⁵U濃縮度 □ wt%</td> </tr> <tr> <td>ペレット密度</td> <td>理論密度の97%</td> <td>理論密度の95%</td> </tr> <tr> <td>ペレット直径</td> <td>0.96cm</td> <td>1.04cm</td> </tr> <tr> <td>被覆管外径</td> <td>1.12cm</td> <td>1.23cm</td> </tr> <tr> <td>被覆管厚さ</td> <td>0.71mm</td> <td>0.86mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">使用済燃料貯蔵ラック</td> <td>ラックタイプ</td> <td colspan="2">たて置ラック式</td> </tr> <tr> <td>ラックピッチ</td> <td colspan="2">□ mm</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td colspan="2">ボロン添加ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td>ボロン濃度</td> <td colspan="2">□ wt%^{※3}</td> </tr> <tr> <td>板厚</td> <td colspan="2">□ mm</td> </tr> <tr> <td>内のり</td> <td colspan="2">□ mm</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 未臨界性評価用燃料集合体 ($k_{\infty}=1.30$ 未燃焼組成, Gdなし) ※2 未臨界性評価用燃料集合体 ($k_{\infty}=1.23$ 未燃焼組成, Gdなし) ※3 ボロン濃度の解析使用値は、製造公差下限値とする。</p>		項目	仕様		ウラン燃料	MOX燃料	燃料仕様	燃料種類	9×9燃料(A型)	MOX燃料	濃縮度	²³⁵ U濃縮度 □ wt% ^{※1}	核分裂性Pu富化度 □ wt% ^{※2} ²³⁵ U濃縮度 □ wt%	ペレット密度	理論密度の97%	理論密度の95%	ペレット直径	0.96cm	1.04cm	被覆管外径	1.12cm	1.23cm	被覆管厚さ	0.71mm	0.86mm	使用済燃料貯蔵ラック	ラックタイプ	たて置ラック式		ラックピッチ	□ mm		材料	ボロン添加ステンレス鋼		ボロン濃度	□ wt% ^{※3}		板厚	□ mm		内のり	□ mm
	項目	仕様																																																																											
燃料仕様	燃料種類	9×9燃料(A型)																																																																											
	²³⁵ U濃縮度	□ wt% ^{※1}																																																																											
	ペレット密度	理論密度の97%																																																																											
	ペレット直径	0.96cm																																																																											
	被覆管外径	1.12cm																																																																											
	被覆管厚さ	0.71mm																																																																											
	燃料有効長	3.71m																																																																											
使用済燃料貯蔵ラック	ラックタイプ	キャン型																																																																											
	ラックピッチ	□ mm																																																																											
	材料	ボロン添加ステンレス鋼																																																																											
	ボロン濃度	□ wt% ^{※2}																																																																											
	板厚	□ mm																																																																											
	内のり	□ mm																																																																											
	項目	仕様																																																																											
		ウラン燃料	MOX燃料																																																																										
燃料仕様	燃料種類	9×9燃料(A型)	MOX燃料																																																																										
	濃縮度	²³⁵ U濃縮度 □ wt% ^{※1}	核分裂性Pu富化度 □ wt% ^{※2} ²³⁵ U濃縮度 □ wt%																																																																										
	ペレット密度	理論密度の97%	理論密度の95%																																																																										
	ペレット直径	0.96cm	1.04cm																																																																										
	被覆管外径	1.12cm	1.23cm																																																																										
	被覆管厚さ	0.71mm	0.86mm																																																																										
使用済燃料貯蔵ラック	ラックタイプ	たて置ラック式																																																																											
	ラックピッチ	□ mm																																																																											
	材料	ボロン添加ステンレス鋼																																																																											
	ボロン濃度	□ wt% ^{※3}																																																																											
	板厚	□ mm																																																																											
内のり	□ mm																																																																												

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<div data-bbox="192 233 872 793" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="261 835 807 869" data-label="Caption"> <p>図2 柏崎刈羽6号炉 角管型ラックの計算体系</p> </div> <div data-bbox="184 936 887 1524" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="261 1556 807 1589" data-label="Caption"> <p>図3 柏崎刈羽6号炉 格子型ラックの計算体系</p> </div>	<div data-bbox="955 233 1694 848" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1130 884 1525 917" data-label="Caption"> <p>第2図 角管型ラックの計算体系</p> </div>	<div data-bbox="1751 264 2496 779" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1872 793 2365 827" data-label="Caption"> <p>第2図 使用済燃料貯蔵ラックの計算体系</p> </div>	<p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載対象の相違 【柏崎 6/7】 柏崎は複数種類のラックを使用しており、また複数号炉を記載している

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<div data-bbox="184 289 884 856" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="249 926 813 963" data-label="Caption"> <p>図4 柏崎刈羽7号炉 角管型ラックの計算体系</p> </div> <div data-bbox="178 1041 884 1608" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="237 1642 825 1680" data-label="Caption"> <p>図5 柏崎刈羽6号炉 実効増倍率の水密度依存性</p> </div>	<div data-bbox="949 1035 1691 1759" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1104 1776 1543 1814" data-label="Caption"> <p>第3図 実効増倍率の水密度依存性</p> </div>	<div data-bbox="1748 1075 2487 1673" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1786 1686 2436 1724" data-label="Caption"> <p>第3図(1) 実効増倍率の水密度依存性 (ウラン燃料)</p> </div>	<div data-bbox="2522 1598 2840 1768" data-label="Text"> <p>・記載対象の相違 【柏崎6/7】 柏崎は複数号炉を記載している</p> </div>

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<div data-bbox="255 268 813 716" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="237 745 825 783" data-label="Caption"> <p>図6 柏崎刈羽7号炉 実効増倍率の水密度依存性</p> </div>		<div data-bbox="1754 226 2490 863" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1795 884 2436 919" data-label="Caption"> <p>第3図(2) 実効増倍率の水密度依存性 (MOX燃料)</p> </div>	

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>4. 必要スプレイ流量</p>	<p>3. <u>使用済燃料プールへの必要スプレイ流量について</u> <u>使用済燃料プールへの注水（代替燃料プール注水系等による注水）によっても使用済燃料プール水位を維持できないような漏えいが生じた場合に実施する使用済燃料プールのスプレイ戦略について、使用済燃料プール内に保管されている照射済燃料の冷却に必要なスプレイ流量を算出する。</u></p> <p>(1) <u>評価条件</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>使用済燃料プール内の冷却水が流出して照射済燃料が全露出している状態を想定する。</u> ・<u>崩壊熱除去に必要なスプレイ流量を算出する。</u> ・<u>スプレイ水の温度は保守的に見積もっても 35℃であるが、顕熱冷却による効果は考慮せずに、保守的に飽和水（大気圧における）と仮定する。</u> ・<u>想定する崩壊熱は、第 2 表、第 3 表及び第 4 表に示すとおり、原子炉運転中（運転開始直後）と原子炉停止中（全炉心燃料取出後）の 2 ケースとする。</u> <p>(2) <u>必要注水量の評価式</u></p> <p><u>使用済燃料プールへの必要注水量は、崩壊熱による使用済燃料プールの保有水の蒸発量に等しいとして扱い、以下の式で評価した。評価結果を第 5 表に示す。</u></p> $\frac{\Delta V}{\Delta t} = Q \times 10^3 \times 3,600 / (hfg \times \rho)$ <p><u>$\frac{\Delta V}{\Delta t}$: 必要注水量 [m³/h]</u> <u>Q : 崩壊熱 [MW]</u> <u>hfg : 飽和水蒸発潜熱 [kJ/kg] (=2,257kJ/kg)</u> <u>ρ : 注水密度 [kg/m³] (=958kg/m³)</u></p>	<p>4. <u>必要スプレイ流量</u></p>	<p>・評価方法の相違 【東海第二】 島根 2 号炉では実機寸法を模擬した試験を実施し、評価しているが、東海第二では机上計算により評価している（以下、添 2.1.13-①の相違）</p> <p>・資料構成の相違 【東海第二】 島根 2 号炉では、評価条件については 54 条補足説明資料 6（容量設定根拠）に記載している</p> <p>・資料構成の相違 【東海第二】 島根 2 号炉では、必要注水量の評価式については 54 条補足説明資料 6（容量設定根拠）に記載している</p>

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考																																																																	
	<p style="text-align: center;"><u>第2表 崩壊熱評価条件</u></p> <table border="1" data-bbox="967 279 1673 705"> <thead> <tr> <th></th> <th>原子炉運転中</th> <th>原子炉停止中</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>照射期間 / 1 サイクル</td> <td>14 ヶ月</td> <td>14 ヶ月</td> </tr> <tr> <td>冷却期間 / 1 サイクル</td> <td>13 ヶ月</td> <td>13 ヶ月</td> </tr> <tr> <td>停止期間^{*1}</td> <td>30 日</td> <td>30 日</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料体数</td> <td>1,486 体^{*2}</td> <td>1,486 体^{*3}</td> </tr> <tr> <td>施設定期検査時取出燃料体数</td> <td>—</td> <td>764 体^{*3}</td> </tr> <tr> <td>評価日</td> <td>運転開始直後</td> <td>原子炉停止 9 日後^{*4}</td> </tr> </tbody> </table> <p> <u>※1 過去の施設定期検査における発電機解列から併入までの期間の実績よりも短い日数を設定した。</u> <u>※2 使用済燃料プールの最大貯蔵量 (2,250 体) から 1 炉心の燃料 (764 体) を除いた体数 (1,486 体) が貯蔵されているものとする。</u> <u>※3 使用済燃料プールの最大貯蔵量 (2,250 体) の燃料が貯蔵 (前サイクルまで原子炉に装荷されていた取出燃料 (764 体) + 使用済燃料 (1,486 体)) されているものとする。</u> <u>※4 過去の全燃料取出完了日の実績を踏まえ余裕を見た日数を設定した。</u> </p> <p style="text-align: center;"><u>第3表 燃料取出スキーム (原子炉運転中)</u></p> <table border="1" data-bbox="967 1278 1644 1787"> <thead> <tr> <th>使用済燃料プール 貯蔵燃料</th> <th>冷却期間</th> <th>燃料体数</th> <th>崩壊熱 (MW)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8 サイクル冷却済燃料</td> <td>8 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日</td> <td>142 体</td> <td>0.047</td> </tr> <tr> <td>7 サイクル冷却済燃料</td> <td>7 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日</td> <td>168 体</td> <td>0.059</td> </tr> <tr> <td>6 サイクル冷却済燃料</td> <td>6 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日</td> <td>168 体</td> <td>0.064</td> </tr> <tr> <td>5 サイクル冷却済燃料</td> <td>5 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日</td> <td>168 体</td> <td>0.072</td> </tr> <tr> <td>4 サイクル冷却済燃料</td> <td>4 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日</td> <td>168 体</td> <td>0.085</td> </tr> <tr> <td>3 サイクル冷却済燃料</td> <td>3 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日</td> <td>168 体</td> <td>0.110</td> </tr> <tr> <td>2 サイクル冷却済燃料</td> <td>2 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日</td> <td>168 体</td> <td>0.161</td> </tr> <tr> <td>1 サイクル冷却済燃料</td> <td>1 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日</td> <td>168 体</td> <td>0.283</td> </tr> <tr> <td>施設定期検査時取出燃料</td> <td>30 日</td> <td>168 体</td> <td>1.214</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計 (使用済燃料及び施設定期検査時取出燃料)</td> <td>1,486 体</td> <td>2.095</td> </tr> </tbody> </table>		原子炉運転中	原子炉停止中	照射期間 / 1 サイクル	14 ヶ月	14 ヶ月	冷却期間 / 1 サイクル	13 ヶ月	13 ヶ月	停止期間 ^{*1}	30 日	30 日	使用済燃料体数	1,486 体 ^{*2}	1,486 体 ^{*3}	施設定期検査時取出燃料体数	—	764 体 ^{*3}	評価日	運転開始直後	原子炉停止 9 日後 ^{*4}	使用済燃料プール 貯蔵燃料	冷却期間	燃料体数	崩壊熱 (MW)	8 サイクル冷却済燃料	8 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	142 体	0.047	7 サイクル冷却済燃料	7 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	168 体	0.059	6 サイクル冷却済燃料	6 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	168 体	0.064	5 サイクル冷却済燃料	5 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	168 体	0.072	4 サイクル冷却済燃料	4 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	168 体	0.085	3 サイクル冷却済燃料	3 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	168 体	0.110	2 サイクル冷却済燃料	2 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	168 体	0.161	1 サイクル冷却済燃料	1 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	168 体	0.283	施設定期検査時取出燃料	30 日	168 体	1.214	合計 (使用済燃料及び施設定期検査時取出燃料)		1,486 体	2.095		
	原子炉運転中	原子炉停止中																																																																		
照射期間 / 1 サイクル	14 ヶ月	14 ヶ月																																																																		
冷却期間 / 1 サイクル	13 ヶ月	13 ヶ月																																																																		
停止期間 ^{*1}	30 日	30 日																																																																		
使用済燃料体数	1,486 体 ^{*2}	1,486 体 ^{*3}																																																																		
施設定期検査時取出燃料体数	—	764 体 ^{*3}																																																																		
評価日	運転開始直後	原子炉停止 9 日後 ^{*4}																																																																		
使用済燃料プール 貯蔵燃料	冷却期間	燃料体数	崩壊熱 (MW)																																																																	
8 サイクル冷却済燃料	8 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	142 体	0.047																																																																	
7 サイクル冷却済燃料	7 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	168 体	0.059																																																																	
6 サイクル冷却済燃料	6 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	168 体	0.064																																																																	
5 サイクル冷却済燃料	5 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	168 体	0.072																																																																	
4 サイクル冷却済燃料	4 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	168 体	0.085																																																																	
3 サイクル冷却済燃料	3 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	168 体	0.110																																																																	
2 サイクル冷却済燃料	2 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	168 体	0.161																																																																	
1 サイクル冷却済燃料	1 × (13 ヶ月 + 30 日) + 30 日	168 体	0.283																																																																	
施設定期検査時取出燃料	30 日	168 体	1.214																																																																	
合計 (使用済燃料及び施設定期検査時取出燃料)		1,486 体	2.095																																																																	

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考																																																																											
	<p align="center">第4表 燃料取出スキーム (原子炉停止中)</p> <table border="1" data-bbox="952 262 1670 982"> <thead> <tr> <th>使用済燃料プール 貯蔵燃料</th> <th>冷却期間</th> <th>燃料体数</th> <th>崩壊熱 (MW)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>9 サイクル冷却済燃料</td><td>9× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日</td><td>142 体</td><td>0.045</td></tr> <tr><td>8 サイクル冷却済燃料</td><td>8× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日</td><td>168 体</td><td>0.056</td></tr> <tr><td>7 サイクル冷却済燃料</td><td>7× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日</td><td>168 体</td><td>0.059</td></tr> <tr><td>6 サイクル冷却済燃料</td><td>6× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日</td><td>168 体</td><td>0.065</td></tr> <tr><td>5 サイクル冷却済燃料</td><td>5× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日</td><td>168 体</td><td>0.073</td></tr> <tr><td>4 サイクル冷却済燃料</td><td>4× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日</td><td>168 体</td><td>0.086</td></tr> <tr><td>3 サイクル冷却済燃料</td><td>3× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日</td><td>168 体</td><td>0.112</td></tr> <tr><td>2 サイクル冷却済燃料</td><td>2× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日</td><td>168 体</td><td>0.165</td></tr> <tr><td>1 サイクル冷却済燃料</td><td>1× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日</td><td>168 体</td><td>0.293</td></tr> <tr><td>施設定期検査時取出燃料 5</td><td>9 日</td><td>92 体</td><td>1.089</td></tr> <tr><td>施設定期検査時取出燃料 4</td><td>9 日</td><td>168 体</td><td>1.893</td></tr> <tr><td>施設定期検査時取出燃料 3</td><td>9 日</td><td>168 体</td><td>1.800</td></tr> <tr><td>施設定期検査時取出燃料 2</td><td>9 日</td><td>168 体</td><td>1.714</td></tr> <tr><td>施設定期検査時取出燃料 1</td><td>9 日</td><td>168 体</td><td>1.608</td></tr> <tr><td>合計 (使用済燃料及び施設定期検査時取出燃料)</td><td></td><td>2,250 体</td><td>9.058</td></tr> </tbody> </table> <p align="center">第5表 東海第二発電所において必要なスプレイ流量</p> <table border="1" data-bbox="952 1073 1679 1341"> <thead> <tr> <th></th> <th>原子炉運転中</th> <th>原子炉停止中</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>崩壊熱</td> <td>約 2.1 [MW]</td> <td>約 9.1 [MW]</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">必要なスプレイ流量</td> <td>約 3.5 [m³/h]</td> <td>約 15.1 [m³/h]</td> </tr> <tr> <td>約 15.4 [gpm]</td> <td>約 66.4 [gpm]</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) <u>まとめ</u></p> <p><u>東海第二発電所の使用済燃料プール内にある照射済燃料の冷却に必要なスプレイ流量を評価した。</u></p> <p><u>この結果、使用済燃料プールの熱負荷が最大となるような組合せで照射済燃料を貯蔵した場合でも、崩壊熱除去に必要なスプレイ流量は約15.1m³/hとなった。</u></p> <p><u>東海第二発電所で配備する可搬型スプレイ設備 (可搬型スプレイノズル (3 個), 可搬型代替注水大型ポンプ) の流量は約 50m³/h であり、使用済燃料プール内にある照射済燃料はスプレイにより冷却可能である。また、NEI06-12 の使用済燃料プールスプレイ要求において示されている必要流量 200gpm (約 45.4m³/h) を上回る流量になっている。</u></p>	使用済燃料プール 貯蔵燃料	冷却期間	燃料体数	崩壊熱 (MW)	9 サイクル冷却済燃料	9× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	142 体	0.045	8 サイクル冷却済燃料	8× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.056	7 サイクル冷却済燃料	7× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.059	6 サイクル冷却済燃料	6× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.065	5 サイクル冷却済燃料	5× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.073	4 サイクル冷却済燃料	4× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.086	3 サイクル冷却済燃料	3× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.112	2 サイクル冷却済燃料	2× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.165	1 サイクル冷却済燃料	1× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.293	施設定期検査時取出燃料 5	9 日	92 体	1.089	施設定期検査時取出燃料 4	9 日	168 体	1.893	施設定期検査時取出燃料 3	9 日	168 体	1.800	施設定期検査時取出燃料 2	9 日	168 体	1.714	施設定期検査時取出燃料 1	9 日	168 体	1.608	合計 (使用済燃料及び施設定期検査時取出燃料)		2,250 体	9.058		原子炉運転中	原子炉停止中	崩壊熱	約 2.1 [MW]	約 9.1 [MW]	必要なスプレイ流量	約 3.5 [m ³ /h]	約 15.1 [m ³ /h]	約 15.4 [gpm]	約 66.4 [gpm]		<p>・資料構成の相違</p> <p>【東海第二】</p> <p>島根 2 号炉では、必要スプレイ量のまとめについては 54 条補足説明資料 6 (容量設定根拠) に記載している</p>
使用済燃料プール 貯蔵燃料	冷却期間	燃料体数	崩壊熱 (MW)																																																																											
9 サイクル冷却済燃料	9× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	142 体	0.045																																																																											
8 サイクル冷却済燃料	8× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.056																																																																											
7 サイクル冷却済燃料	7× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.059																																																																											
6 サイクル冷却済燃料	6× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.065																																																																											
5 サイクル冷却済燃料	5× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.073																																																																											
4 サイクル冷却済燃料	4× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.086																																																																											
3 サイクル冷却済燃料	3× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.112																																																																											
2 サイクル冷却済燃料	2× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.165																																																																											
1 サイクル冷却済燃料	1× (13 ヶ月 + 30 日) + 9 日	168 体	0.293																																																																											
施設定期検査時取出燃料 5	9 日	92 体	1.089																																																																											
施設定期検査時取出燃料 4	9 日	168 体	1.893																																																																											
施設定期検査時取出燃料 3	9 日	168 体	1.800																																																																											
施設定期検査時取出燃料 2	9 日	168 体	1.714																																																																											
施設定期検査時取出燃料 1	9 日	168 体	1.608																																																																											
合計 (使用済燃料及び施設定期検査時取出燃料)		2,250 体	9.058																																																																											
	原子炉運転中	原子炉停止中																																																																												
崩壊熱	約 2.1 [MW]	約 9.1 [MW]																																																																												
必要なスプレイ流量	約 3.5 [m ³ /h]	約 15.1 [m ³ /h]																																																																												
	約 15.4 [gpm]	約 66.4 [gpm]																																																																												

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
	<p>5. <u>可搬型スプレインズル，常設スプレイヘッドの放水範囲について</u></p> <p>(可搬型スプレインズル)</p> <p><u>下記条件により，第4図，第5図に示すスプレイ分布を満足することを確認している。</u></p> <div data-bbox="1003 453 1605 669" style="border: 1px solid black; height: 100px; margin: 10px 0;"></div> <div data-bbox="958 720 1688 1255" style="border: 1px solid black; height: 250px; margin: 10px 0;"></div> <p><u>第4図 可搬型スプレインズルの放水範囲 (単体)</u></p>		<p>・資料構成の相違</p> <p>【東海第二】</p> <p>島根2号炉では，放水範囲については54条補足説明資料6（容量設定根拠）に記載している</p>

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>(1)測定方法 試験設備は、基準として床面を燃料頂部の高さとして仮定し、実機寸法を模擬して図7のようにポンプ、流量計、流量調整弁、ヘッド管、ノズルを設置した。また、実機 SFP と同様のスプレイ状態を模擬するため、足場とブルーシートにより SFP プール壁面の形状を構築した。</p>	<div data-bbox="952 226 1700 989" style="border: 1px solid black; height: 363px; width: 252px; margin-bottom: 10px;"></div> <p style="text-align: center;">第5図 可搬型スプレイノズルの放水範囲 (組合せ)</p> <p>(常設スプレイヘッド)</p> <p>下記条件により、第6図に示すスプレイ分布を満足することを確認している。</p> <p style="text-align: center;">・ノズル使用本数、ノズル設置角度及びスプレイ流量</p> <div data-bbox="952 1289 1700 1493" style="border: 1px solid black; height: 97px; width: 252px; margin-top: 10px;"></div>	<p>(1) 測定方法 試験設備は、基準としてスプレイ流量測定容器の頂部を燃料頂部の高さとして仮定し、実機寸法を模擬して第4図のようにポンプ、流量計、流量調整弁、スプレイヘッド、スプレイノズルを設置した。また、足場とブルーシートにより燃料プール壁面を模擬することで、実機燃料プールと同様のスプレイ状態で試験可能な考慮を実施した。</p>	<p>・評価方法の相違 【東海第二】 添 2.1.13-①の相違</p>

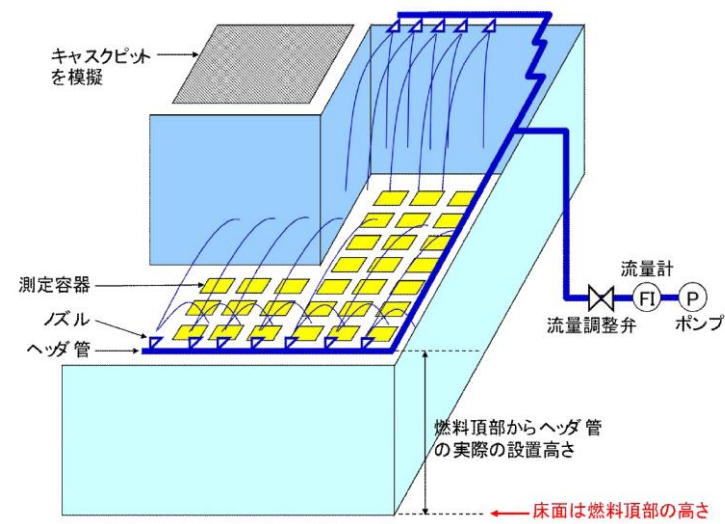


図 7 試験設備概要図

(2) 測定条件

- ・ スpray時間 : 2min
- ・ 測定容器開口面積 : 318 mm×318 mm

(3) 判定基準

表 2 Spray実証試験の判定基準

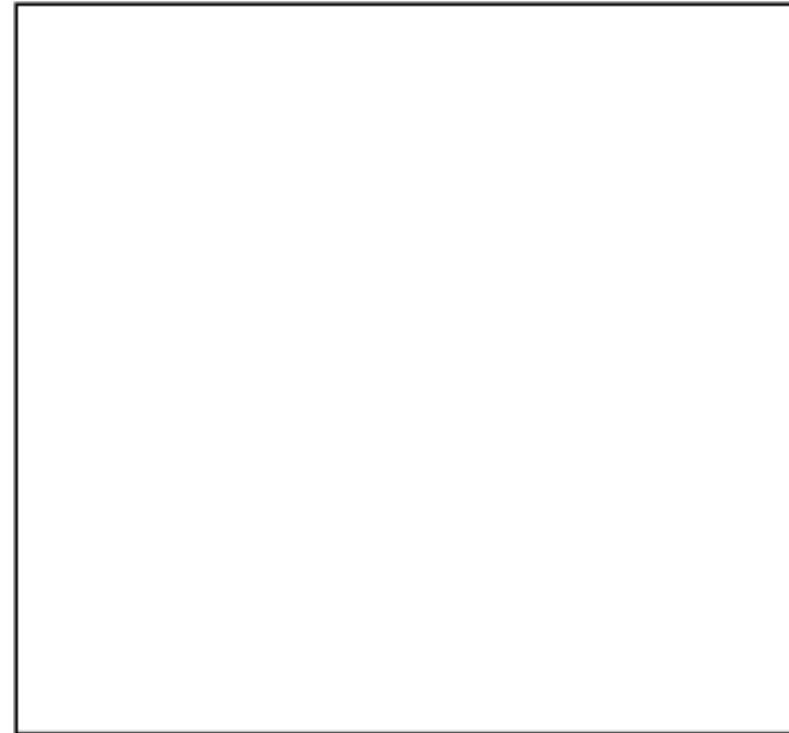
	単位面積当たりの必要Spray流量	必要Spray範囲
高温燃料域		2炉心以上の燃料
低温燃料域		全ての燃料

(4) 測定結果

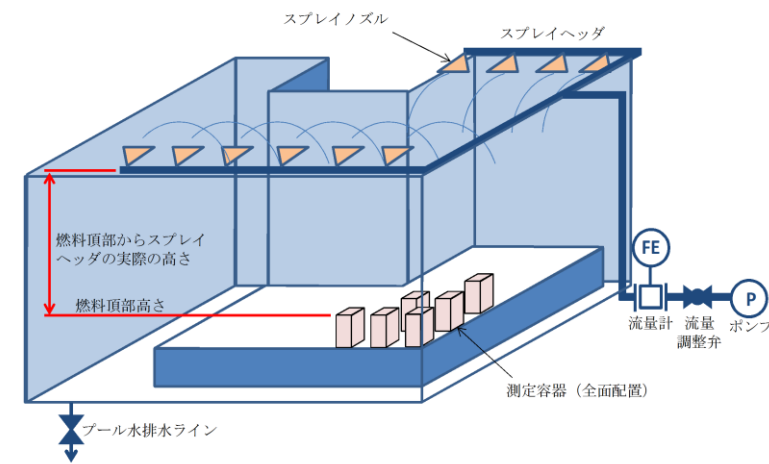
① Spray状態の確認

試験のSpray状態について、Spray前の状況を図 8、Spray状態の状況を図 9 に示す。

図 9 のSpray状態から、Sprayヘッドの複数のノズルからのSpray水は互いに衝突等の干渉がなく、燃料域全体に広がることを確認した。



第 6 図 常設Sprayヘッドの放水範囲



第 4 図 試験設備概要図

(2) 測定条件

- ・ Spray時間 : 10分
- ・ 測定容器開口面積 : 167 mm×167 mm

(3) 判定基準

第 2 表 単位面積当たりの必要Spray流量

	単位面積当たりの必要Spray流量	必要Spray範囲
高温燃料域		2炉心以上の燃料
低温燃料域		すべての燃料

(4) 測定結果

① Spray状態の確認

試験のSpray状態について、Spray前の状況を第 5 図、Spray時の状況を第 6 図に示す。

第 6 図のSpray時の状況から、Sprayヘッドの複数のノズルからのSpray水は互いに衝突等による干渉がなく燃料域上部に均質に広がることを確認できる。

・ 設備の相違
【柏崎 6/7】
設備の相違による試験装置の相違

・ 設備の相違
【柏崎 6/7】
設備仕様の相違
・ 設備の相違
【柏崎 6/7】

設備仕様の相違
・ 評価方法の相違
【東海第二】
添 2. 1. 13-①の相違

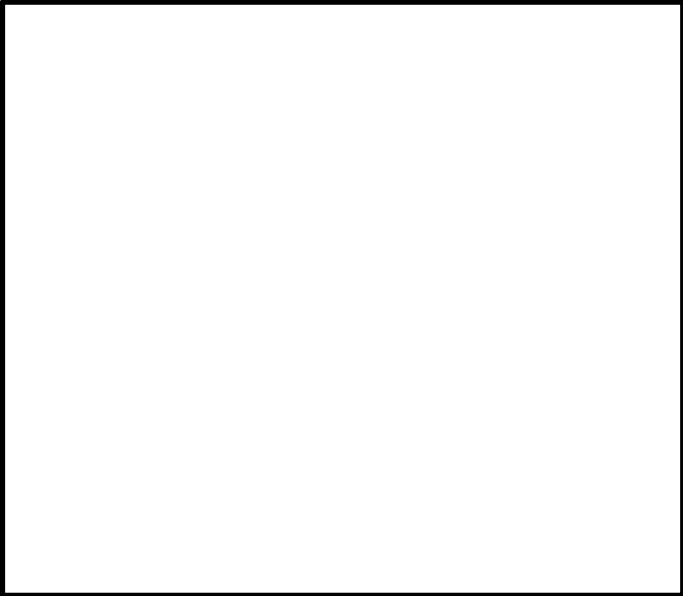



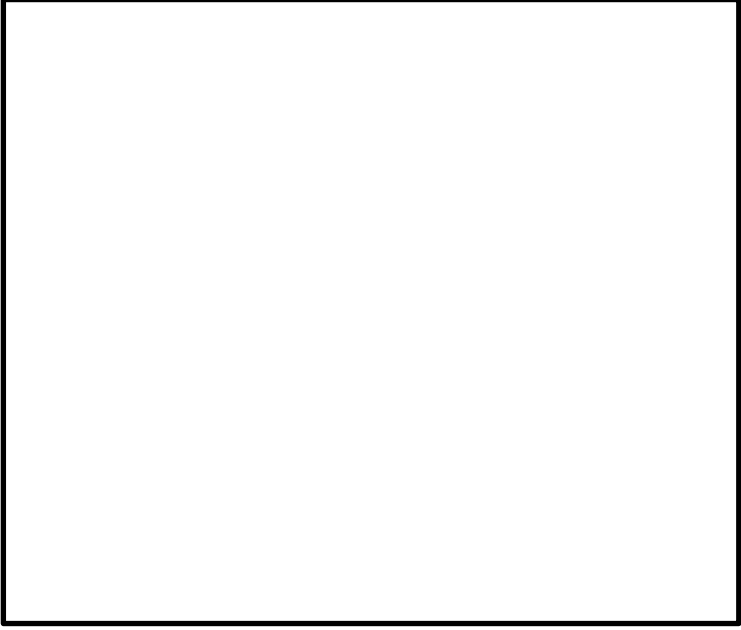

・ 評価方法の相違
【東海第二】
添 2. 1. 13-①の相違

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<div data-bbox="172 268 902 726" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="388 789 676 829" data-label="Caption"> <p>図8 スプレイ前の状況</p> </div> <div data-bbox="172 1024 902 1488" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="201 1596 854 1633" data-label="Caption"> <p>図9 スプレイ状態の試験状況 (スプレイ量: 132m³/h)</p> </div> <div data-bbox="142 1776 540 1814" data-label="Section-Header"> <p>5. 必要スプレイ流量の測定結果</p> </div> <div data-bbox="142 1820 926 1900" data-label="Text"> <p>6号炉の実証試験結果を表3に, 7号炉の実証試験結果を表4に示す。</p> </div>		<div data-bbox="1792 224 2481 762" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1973 789 2303 829" data-label="Caption"> <p>第5図 スプレイ前の状況</p> </div> <div data-bbox="1792 993 2481 1562" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1780 1596 2436 1633" data-label="Caption"> <p>第6図 スプレイ時の試験状況(スプレイ量: 120m³/h)</p> </div> <div data-bbox="1745 1776 2169 1814" data-label="Section-Header"> <p>② 必要スプレイ流量の測定結果</p> </div> <div data-bbox="1792 1820 2169 1858" data-label="Text"> <p>実証試験結果を第3表に示す。</p> </div>	<div data-bbox="2513 789 2843 961" data-label="Text"> <p>・設備の相違 【柏崎6/7】 設備の相違による試験装置の相違</p> </div> <div data-bbox="2513 1596 2843 1768" data-label="Text"> <p>・設備の相違 【柏崎6/7】 設備の相違による試験装置の相違</p> </div>

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考																											
<p>6号及び7号炉ともに、単位面積当たりの必要スプレイ流量を満足する高温燃料域を2炉心以上確保し、全てのエリアに対し低温燃料域の単位面積当たりの必要スプレイ流量を満足することが可能である。</p> <p>また、必要スプレイ流量は、下記の範囲で上記単位面積当たりのスプレイ量を満足するスプレイ分布を一定に保つことが可能である。なお、7号炉のスプレイ分布と燃料配置を示す。</p> <p>・スプレイ流量：<u>2200～2450L/min (132～147m³/h)</u></p> <p><u>表3 スプレイ実証試験結果 (6号炉)</u></p> <table border="1" data-bbox="166 758 905 898"> <thead> <tr> <th></th> <th>単位面積当たりの必要スプレイ流量</th> <th>必要スプレイ範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高温燃料域</td> <td></td> <td>2.36 炉心分</td> </tr> <tr> <td>低温燃料域</td> <td></td> <td>全燃料ラック</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>表4 スプレイ実証試験結果 (7号炉)</u></p> <table border="1" data-bbox="178 984 896 1125"> <thead> <tr> <th></th> <th>単位面積当たりの必要スプレイ流量</th> <th>必要スプレイ範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高温燃料域</td> <td></td> <td>2.34 炉心分</td> </tr> <tr> <td>低温燃料域</td> <td></td> <td>全燃料ラック</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="172 1178 896 1654" style="border: 1px solid black; height: 200px; width: 100%;"></div> <p>図10 スプレイ分布図及び燃料配置図 (7号炉の例)</p>		単位面積当たりの必要スプレイ流量	必要スプレイ範囲	高温燃料域		2.36 炉心分	低温燃料域		全燃料ラック		単位面積当たりの必要スプレイ流量	必要スプレイ範囲	高温燃料域		2.34 炉心分	低温燃料域		全燃料ラック		<p><u>単位面積当たりの必要スプレイ流量を満足する高温燃料域を2炉心以上確保し、すべてのエリアに対し低温燃料域の単位面積当たりの必要スプレイ流量を満足することが可能である。</u></p> <p>また、必要スプレイ流量は、下記の範囲で上記単位面積当たりのスプレイ量を満足するスプレイ分布を一定に保つことが可能である。なお、スプレイ分布と燃料配置図を第7図に示す。</p> <p>・スプレイ流量：<u>2,000L/min (120m³/h)</u></p> <p style="text-align: center;">第3表 スプレイ実証試験結果</p> <table border="1" data-bbox="1742 758 2493 863"> <thead> <tr> <th></th> <th>単位面積当たりのスプレイ流量</th> <th>スプレイ範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高温燃料域</td> <td></td> <td>3.83 炉心分</td> </tr> <tr> <td>低温燃料域</td> <td></td> <td>全燃料ラック</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="1768 1121 2493 1661" style="border: 1px solid black; height: 200px; width: 100%;"></div> <p><u>第7図 燃料プールスプレイ系(常設スプレイヘッド)のスプレイ分布図及び燃料配置図</u></p>		単位面積当たりのスプレイ流量	スプレイ範囲	高温燃料域		3.83 炉心分	低温燃料域		全燃料ラック	<p>・設備の相違 【柏崎6/7】 設備仕様の相違</p> <p>・設備の相違 【柏崎6/7】 設備の相違によるスプレイ範囲の相違</p> <p>・設備の相違 【柏崎6/7】 設備の相違によるスプレイ範囲の相違</p>
	単位面積当たりの必要スプレイ流量	必要スプレイ範囲																												
高温燃料域		2.36 炉心分																												
低温燃料域		全燃料ラック																												
	単位面積当たりの必要スプレイ流量	必要スプレイ範囲																												
高温燃料域		2.34 炉心分																												
低温燃料域		全燃料ラック																												
	単位面積当たりのスプレイ流量	スプレイ範囲																												
高温燃料域		3.83 炉心分																												
低温燃料域		全燃料ラック																												

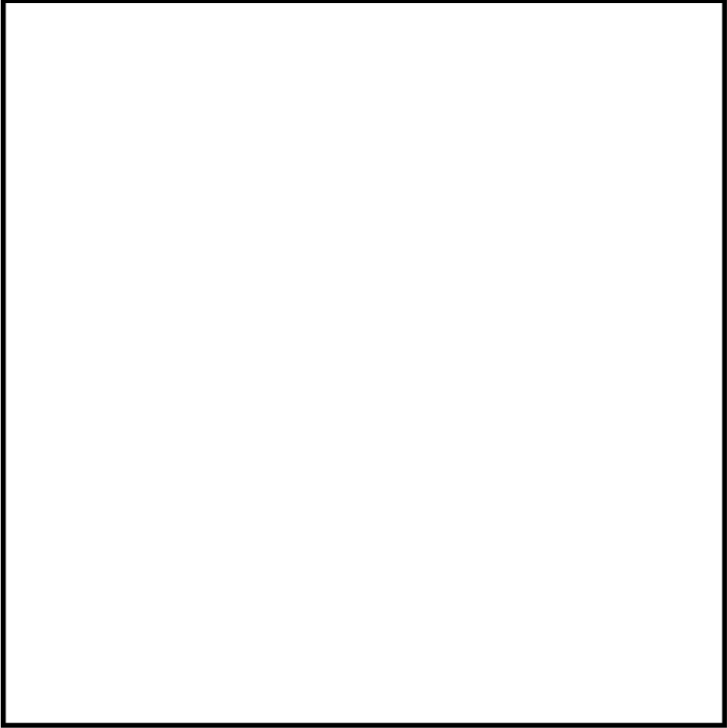

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p style="text-align: right;">添付資料 2. 1. 14</p> <p style="text-align: center;">放水砲の設置場所及び使用方法等について</p> <p>1. 放水砲による具体的なプラント事故対応</p> <p>(1) 放水砲による放射性物質の拡散抑制, <u>大規模な火災の消火活動の具体的な対応例</u></p> <p>① 放水砲の使用の判断</p> <p>次のいずれかに該当する場合は, 放水砲を使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉格納容器へあらゆる注水手段を講じても注水できず, 原子炉格納容器の破損のおそれがあると判断した場合 ・原子炉格納容器からの異常な漏えいにより, <u>格納容器圧力逃がし装置</u>で原子炉格納容器の減圧及び除熱をしているものの, 原子炉建屋内の水素濃度が低下しないことにより原子炉建屋トップベントを開放する場合 ・<u>燃料プール代替注水系 (可搬型)</u>による燃料プールのプレイができない場合 ・プラントの異常により, モニタリング・ポストの指示がオーダーレベルで上昇した場合 ・<u>原子炉建屋等で大規模な火災が発生した場合</u> <p>② 放水砲の設置位置の判断</p> <p>放水砲の設置位置として, 放射性物質の拡散抑制の場合はあらかじめ設置位置候補を複数想定しているが, 現場からの情報(風向き, 損傷位置(高さ, 方位))等を勘案し, <u>発電所対策本部</u>が総合的に判断して, 適切な位置からの放水を指示する。</p> <p>また, 消火活動の場合は, 火災の状況(アクセスルート含む)等を勘案し, 設置位置を確保した上で, 適切な位置から放水する。</p>	<p style="text-align: right;">添付資料 2. 1. 13</p> <p style="text-align: center;">放水砲の設置位置及び使用方法等について</p> <p>1. 放水砲による具体的なプラント事故対応</p> <p>(1) 放水砲による<u>大気への放射性物質の拡散抑制</u>, 航空機燃料火災への消火活動の具体的な対応例</p> <p>a. <u>放水砲の使用の判断</u></p> <p>次のいずれかに該当する場合又はそのおそれがある場合は, 放水砲を使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉格納容器へあらゆる注水手段を講じても注水できず, 原子炉格納容器の破損のおそれがあると判断した場合 ・<u>原子炉建屋水素濃度が 2.0vol%に到達した場合, 原子炉格納容器内の水素排出のため格納容器圧力逃がし装置を使用した格納容器ベントによる水素排出ができず, 原子炉建屋水素濃度の上昇が継続することにより, ブローアウトパネル強制開放装置の操作にて原子炉建屋外側ブローアウトパネル (ブローアウトパネル閉止装置使用後については, ブローアウトパネル閉止装置のパネル部) を開放する場合</u> ・<u>代替燃料プール注水系による使用済燃料プールのプレイができない場合</u> ・プラントの異常により, モニタリング・ポストの指示がオーダーレベルで上昇した場合 ・航空機燃料火災が発生した場合 <p>b. <u>放水砲の設置位置の判断</u></p> <p>放水砲の設置位置として, <u>大気への放射性物質の拡散抑制</u>の場合はあらかじめ設置位置候補を複数想定しているが, 現場からの情報(風向き, 損傷位置(高さ, 方位))等を勘案し, <u>災害対策本部長代理</u>が総合的に判断して, 適切な位置からの放水を<u>重大事故等対応要員</u>へ指示する。</p> <p>また, 消火活動の場合は, 火災の状況(アクセスルート含む)等を勘案し, 設置位置を確保した上で, 適切な位置から放水する。</p>	<p style="text-align: right;">添付資料 2. 1. 14</p> <p style="text-align: center;">放水砲の設置場所及び使用方法等について</p> <p>1. 放水砲による具体的なプラント事故対応</p> <p>(1) 放水砲による放射性物質の拡散抑制, 航空機燃料火災の消火活動の具体的な対応例</p> <p>① 放水砲の使用の判断</p> <p>次のいずれかに該当する場合<u>又はそのおそれがある場合は</u>, 放水砲を使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉格納容器へあらゆる注水手段を講じても注水できず, 原子炉格納容器の破損のおそれがあると判断した場合 ・<u>原子炉格納容器からの異常な漏えいにより, 格納容器フィルターベント系で原子炉格納容器の減圧及び除熱をしているものの, 原子炉建物内の水素濃度が低下しないことにより原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネルを開放する場合</u> ・<u>燃料プールのプレイ系 (可搬型 <u>スプレイノズル</u>) による燃料プールのプレイができない場合</u> ・プラントの異常により, モニタリング・ポストの指示がオーダーレベルで上昇した場合 ・<u>航空機燃料火災が発生した場合</u> <p>② 放水砲の設置位置の判断</p> <p>放水砲の設置位置として, 放射性物質の拡散抑制の場合はあらかじめ設置位置候補を複数想定しているが, 現場からの情報(風向き, 損傷位置(高さ, 方位))等を勘案し, <u>緊急時対策本部</u>が総合的に判断して, 適切な位置からの放水を<u>緊急時対策要員</u>へ指示する。</p> <p>また, 消火活動の場合は, 火災の状況(アクセスルート含む)等を勘案し, 設置位置を確保したうえで, 適切な位置から放水する。</p>	

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>③ 放水砲の設置位置と原子炉建屋（原子炉格納容器又は使用済燃料プール）への放水可能性</p> <p>前述のとおり、放水砲は状況に応じて適切な場所に設置する。原子炉建屋から約86m の範囲内に放水砲を仰角50° 以上(泡消火放水の場合は、原子炉建屋から約73m の範囲内に放水砲を仰角55° 以上)で設置すれば、原子炉建屋トップ（屋根トラス）まで放水することができることから、原子炉格納容器又は使用済燃料プールへの放水は十分に可能である。</p> <p>また、海水取水箇所については複数箇所を想定するとともに、ホースの敷設ルートについても、その時の被害状況や火災の状況を勘案して柔軟な対応ができるよう複数のアクセスルートを確認し、複数のアクセスルートを想定した手順及び設備構成とする。</p> <p>なお、放射性物質の拡散抑制の場合は、放射性物質を含む汚染水が雨水排水の流路等を通して海へ流れることを想定して、放水前に排水路に放射性物質吸着材を設置するとともに、海洋へ拡散することを想定して、汚濁防止膜を設置することにより汚染水の海洋への拡散抑制を行う。</p>	<p>c. 放水砲の設置位置と原子炉建屋（原子炉格納容器又は使用済燃料プール）への放水可能性</p> <p>前述のとおり、放水砲は状況に応じて適切な場所に設置する。原子炉建屋中心から約 80m の範囲内に放水砲を仰角 65°（泡消火放水の場合は、原子炉建屋中心から約 50m の範囲内に放水砲を仰角 75°）で設置すれば、原子炉建屋トップ（屋根トラス）まで放水することができることから、原子炉格納容器又は使用済燃料プールへの放水は十分に可能である。</p> <p>また、海水取水箇所については複数箇所を想定するとともに、ホースの敷設ルートについても、その時の被害状況や火災の状況を勘案して柔軟な対応ができるよう複数の敷設ルートを確認し、複数のアクセスルートを想定した手順及び設備構成とする。</p> <p>なお、大気への放射性物質の拡散抑制の場合は、放射性物質を含む汚染水が一般排水路を通して雨水排水路集水桝から海へ流れることを想定し、汚濁防止膜を設置することにより海洋への放射性物質の拡散抑制を行う。</p>	<p>③ 放水砲の設置位置と原子炉建物（原子炉格納容器又は燃料プール）への放水可能性</p> <p>前述のとおり、放水砲は状況に応じて適切な場所に設置する。原子炉建物から約 99m の範囲内に放水砲を仰角 55° 以上（泡消火放水の場合は、原子炉建物から約 61m の範囲内に放水砲を仰角 65° 以上）で設置すれば、原子炉建物 4 階（燃料取替階）屋上（屋根トラス）まで放水することができることから、原子炉格納容器又は燃料プールへの放水は十分に可能である。</p> <p>また、海水取水箇所については複数箇所を想定するとともに、ホースの敷設ルートについては、そのときの被害状況や火災の状況を勘案して柔軟な対応ができるよう複数のアクセスルートを確認し、複数のアクセスルートを想定した手順及び設備構成とする。</p> <p>なお、大気への放射性物質の拡散抑制の場合は、放射性物質を含む汚染水が雨水排水の流路等を通して海へ流れることを想定し、放射性物質吸着材及びシルトフェンスを設置することにより汚染水の海洋への放射性物質の拡散抑制を行う。</p>	<p>・設備の相違</p> <p>【柏崎 6/7, 東海第二】 設計方針の相違による射程及び仰角の相違</p> <p>・設備の相違</p> <p>【東海第二】 島根 2 号炉は、放水砲による放水開始前に放射性物質吸着材の設置による海洋拡散抑制対策を行うため、放射性物質吸着材は重大事故等対処設備として位置付けている</p>

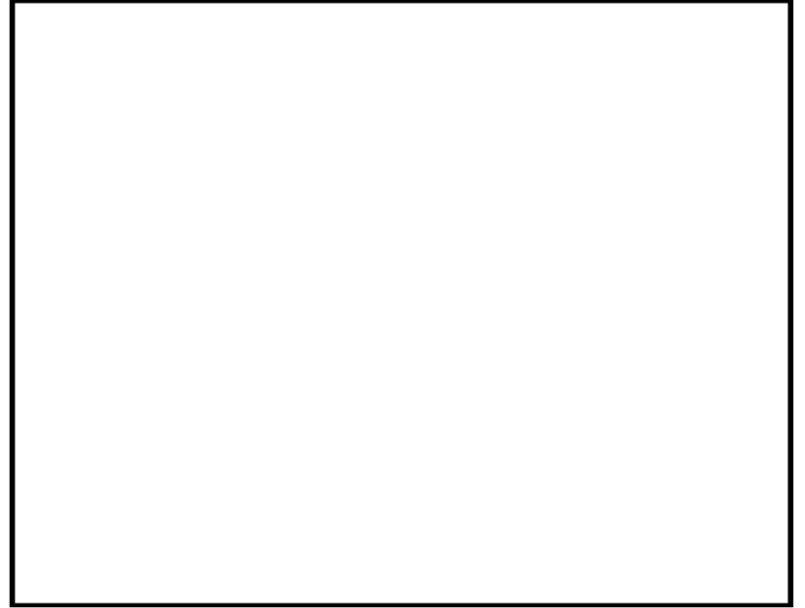
柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>2. 放水砲の設置位置について (1) 海水放水（放射性物質拡散抑制）の場合</p>  <p>図1 射程と射高の関係 (海水放水（放射性物質拡散抑制）の場合)</p> 	<p>2. 放水砲の設置位置について (1) 海水放水（放射性物質拡散抑制）の場合</p>  <p>第2図 射程と射高の関係 (海水放水，放水砲設置位置Aからの場合)</p> 	<p>2. 放水砲の設置位置について (1) 海水放水（放射性物質拡散抑制）の場合</p>  <p>第1図 射程と射高の関係 (海水放水（放射性物質拡散抑制）の場合)</p> 	

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
	<div data-bbox="973 300 1679 1005" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1071 1012 1584 1098" data-label="Caption"> <p>第3図 射程と射高の関係 (海水放水, 放水砲設置位置Bからの場合)</p> </div> <div data-bbox="961 1152 1688 1535" data-label="Image"> </div>		

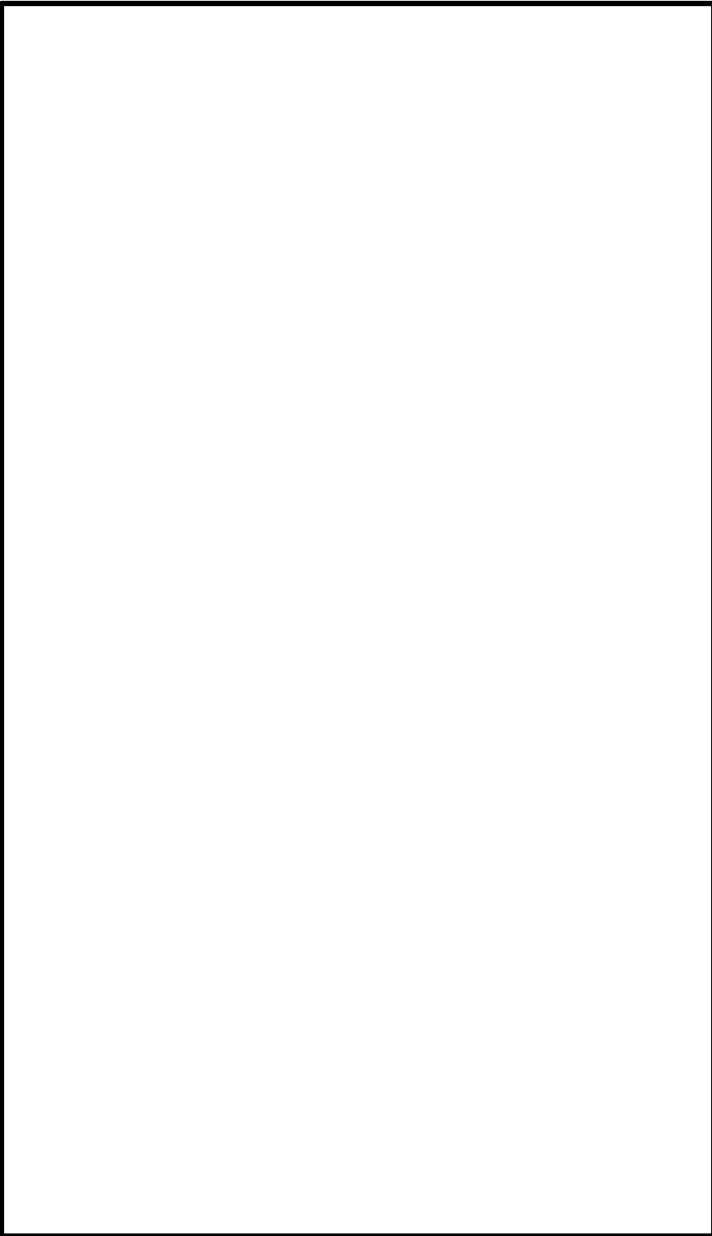
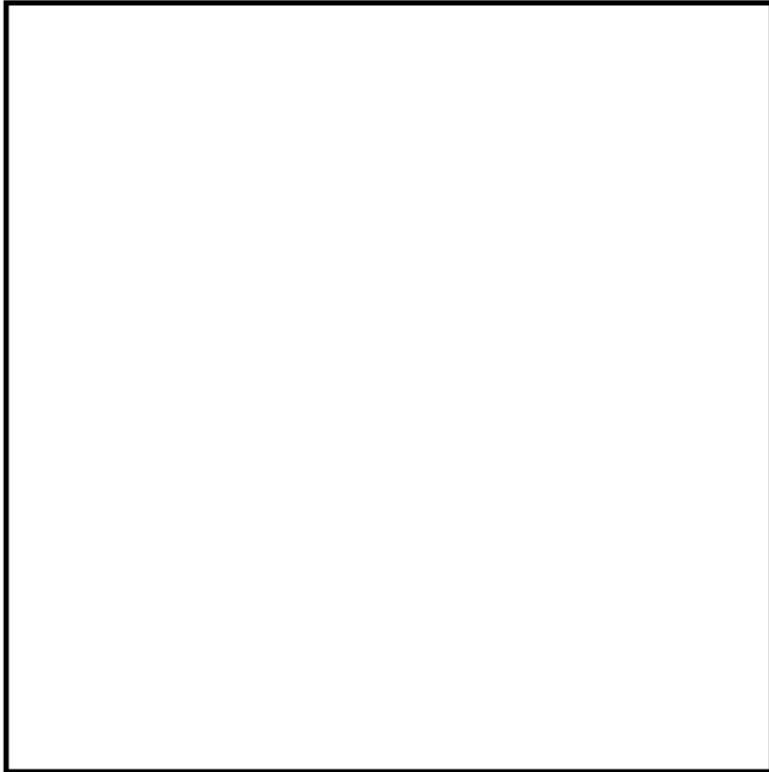
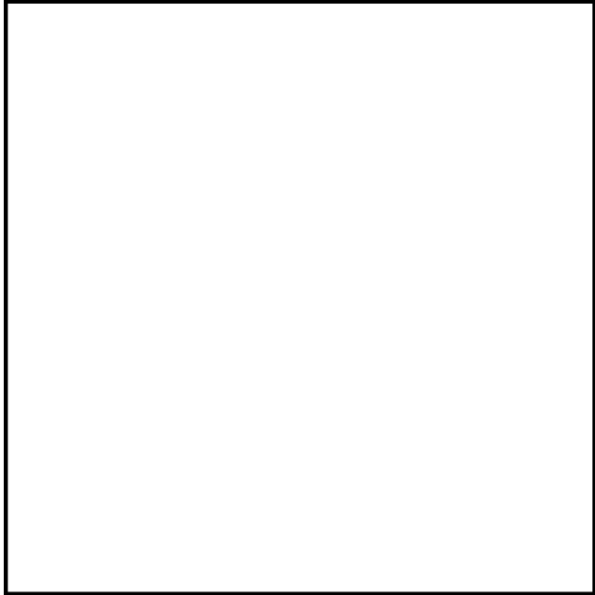
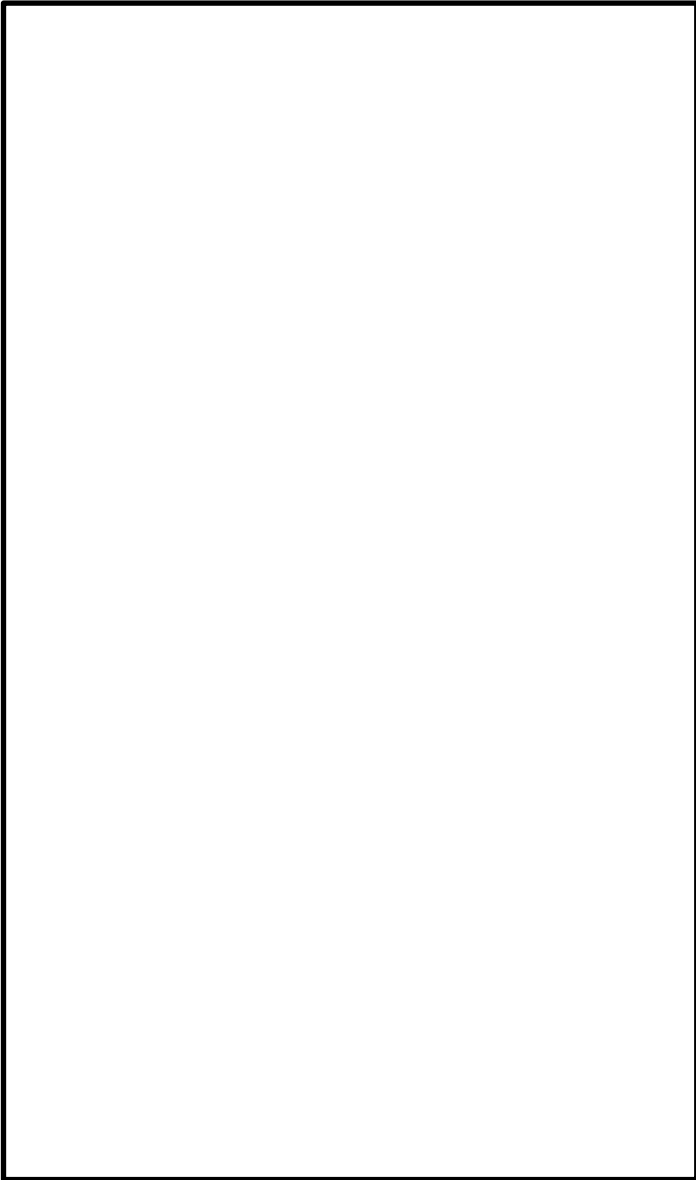
柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
	<div data-bbox="1012 401 1650 1041" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1083 1062 1576 1136" data-label="Caption"> <p>第4図 射程と射高の関係 (海水放水, 放水砲設置位置Cからの場合)</p> </div> <div data-bbox="967 1203 1688 1591" data-label="Image"> </div>		

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
	 <p data-bbox="1083 1150 1578 1234">第5図 射程と射高の関係 (海水放水, 放水砲設置位置Dからの場合)</p> 		

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>(2) 泡消火放水 (大規模火災) の場合</p>	<p>(2) 泡消火放水 (航空機燃料火災) の場合</p> <div data-bbox="952 264 1703 810" style="border: 1px solid black; height: 260px; margin-bottom: 20px;"></div> <p data-bbox="1065 837 1590 915" style="text-align: center;">第 7 図 射程と射高の関係 (泡消火放水, 放水砲設置位置 E からの場合)</p> <div data-bbox="952 989 1703 1304" style="border: 1px solid black; height: 150px;"></div>	<p>(2) 泡消火放水 (航空機燃料火災) の場合</p> <div data-bbox="1762 289 2502 785" style="border: 1px solid black; height: 236px; margin-bottom: 20px;"></div> <p data-bbox="1893 837 2371 915" style="text-align: center;">第 2 図 射程と射高の関係 (泡消火放水 (航空機燃料火災) の場合)</p> <div data-bbox="1762 961 2502 1194" style="border: 1px solid black; height: 111px;"></div>	

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
 <p data-bbox="201 835 905 871">図2 射程と射高の関係 (泡消火放水 (大規模火災) の場合)</p>	 <p data-bbox="1062 835 1599 913">第8図 射程と射高の関係 (泡消火放水, 放水砲設置位置Fからの場合)</p>		
			

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
	<div data-bbox="955 214 1694 955" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1053 1010 1596 1098" data-label="Caption"> <p>第9図 射程と射高の関係 (泡消火放水, 放水砲設置位置Gからの場合)</p> </div> <div data-bbox="964 1157 1688 1543" data-label="Image"> </div>		

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
 <p style="text-align: center;">図3 放水砲設置位置</p>	 <p style="text-align: center;">第1図 放水砲設置位置 (海水放水の場合)</p>  <p style="text-align: center;">第6図 放水砲設置位置 (泡消火放水の場合)</p>	 <p style="text-align: center;">第3図 放水砲設置位置</p>	備考

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>3. 放水砲の放射方法について</p> <p>放射性プルーム放出時には、放水砲により放水した水により、放射性プルームに含まれる微粒子状の放射性物質が除去されることが期待できる。</p> <p>放水砲の放射方法としては、直状放射から噴霧放射への切替えが可能であり、噴霧放射は直状放射に比べ射程距離が短くなるものの、より細かい水滴径が期待できるため、高い放射性物質の除去効果が期待できる。</p> <p>したがって、プルーム放出時の放水砲の放射方法としては、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉建屋（原子炉格納容器又は使用済燃料プール）の破損箇所が確認できる場合、原子炉建屋の破損箇所に向けて放水し、噴射ノズルを調整することにより噴霧放射で損壊箇所を最大限覆うことができるように放射する。 ・原子炉建屋（原子炉格納容器又は使用済燃料プール）の破損箇所や放射性物質の放出箇所が確認できない場合、原子炉建屋の中央に向けて放水する。 <p>なお、直状放射でしか届かない場合においても、到達点では霧状になっていることから（第4 図参照）、放射性物質の除去に期待できる。</p>	<p>3. 放水砲の放射方法について</p> <p><u>放水砲の放射方法としては、噴射ノズルを調整することで直状放射と噴霧放射の切替えが可能であり、直状放射はより遠くまで放水できるが、噴霧放射は直状放射よりも、より細かい水滴径が期待できる。</u></p> <p>放射性プルーム放出時には、放水砲により放水した水により、放射性プルームに含まれる微粒子状の放射性物質が除去されることが期待できるが、<u>微粒子状の放射性物質の粒子径は、0.1 物質～0.5 μm と考えられ、この粒子径の微粒子の水滴による除去機構は、水滴と微粒子の慣性衝突作用（水滴径 0.3mm φ 前後で最も衝突作用が大きくなる）によるものであり、噴霧放射を活用することで、その衝突作用に期待できる。また、水滴と微粒子の相対速度を大きくし、水の流量を大きくすることで、除去効果の増大が期待できる。</u></p> <p>したがって、プルーム放出時の放水砲の放射方法としては、以下のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 原子炉建屋（原子炉格納容器又は使用済燃料プール）の破損箇所が確認できる場合 原子炉建屋損壊部に向けて放水し、噴射ノズルを調整することにより噴霧放射で損壊箇所を最大限覆うことができるように放射する。 (2) 原子炉建屋（原子炉格納容器又は使用済燃料プール）の破損箇所が不明な場合 原子炉建屋の中央に向けて放水する。 <p>なお、直状放射でしか届かない場合においても、到達点では霧状になっていることから（第 10 図参照）、放射性物質の除去に期待できる。</p>	<p>3. 放水砲の放射方法について</p> <p>放射性プルーム放出時には、放水砲で放水した水により、放射性プルームに含まれる微粒子状の放射性物質が除去されることが期待できる。</p> <p>放水砲の放射方法としては、直状放射から噴霧放射への切替えが可能であり、噴霧放射は直状放射に比べ射程距離が短くなるものの、より細かい水滴径が期待できるため、高い放射性物質の除去効果が期待できる。</p> <p>したがって、プルーム放出時の放水砲の放射方法としては、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉建物（原子炉格納容器又は燃料プール）の破損箇所が確認できる場合、原子炉建物破損箇所に向けて放水し、噴射ノズルを調整することにより噴霧放射で破損箇所を最大限覆うことができるように放射する。 ・原子炉建物（原子炉格納容器又は燃料プール）の破損箇所や放射性物質の放出箇所が確認できない場合、原子炉建物の中央に向けて放水する。 <p>なお、直状放射でしか届かない場合においても、到達点では霧状になっていることから（第 4 図参照）、放射性物質の除去に期待できる。</p>	

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<div data-bbox="222 205 899 730" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <div data-bbox="385 745 875 787" style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;"> <p>図4 直状放射による放水</p> </div>	<div data-bbox="952 394 1694 646">  </div> <div data-bbox="1092 659 1605 695" style="display: flex; justify-content: space-around;"> 全景 到達点での状態 </div> <div data-bbox="1068 745 1587 787" style="text-align: center;"> <p>第10図 直状放射による放水 (放水訓練)</p> </div>	<div data-bbox="1768 247 2502 516">  </div> <div data-bbox="1952 520 2309 562" style="text-align: center;"> <p>第4図 直状放射による放水</p> </div>	

添付資料 2.1.15

添付資料 2.1.15

外部事象に対する対応操作の適合性について

航空機衝突に対する各対応操作の適用性の評価
○：衝突箇所に対して多量性を有している設備に期待する手順
△：衝突箇所によって使用可能な設備に期待する手順
△：損傷する可能性が高い設備に期待する手順
○：基準地震動 S₀に対して一定程度余裕を有する設備に期待する手順
△：基準地震動 S₀を満足しない設備に期待する手順
○：原子炉建屋を通過する巻で機能維持される

Table with columns: 個別戦略, 手順番号, 主要な使用設備, 水源, 備考, 所要時間, 必要人員, 航空機衝突, 地震, 津波, 巻, 手順成立のために必要な手順

外部事象に対する対応操作の適合性について

航空機衝突に対する各対応操作の適用性の評価
○：衝突箇所に対して多量性を有している設備に期待する手順
△：衝突箇所によって使用可能な設備に期待する手順
○：基準地震動 S₀に対して一定程度余裕を有する設備に期待する手順
△：基準地震動 S₀を満足しない設備に期待する手順
○：基準津波に對して一定程度余裕を有する設備に期待する手順
△：基準津波を満足しない設備に期待する手順

Table with columns: 個別戦略, 手順番号, 技術的能力に係る重要事項の項目, 主な使用設備(保管場所,仕器等), 水源, 備考, 所要時間, 必要人員, 航空機衝突, 地震, 津波, 巻, 手順成立のために必要な手順

各対応操作の適用性の相違
【東海第二】
使用設備の設置場所の相違等による相違
(以下, 同様)

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	竜巻	手順成立のために必要な手順
③ 原子炉停止戦略	○非常時運転手順書II (徴収ベース)											
	「ほうろ水注入操作」		・ほうろ水注入ポンプ (容量: 約 9.78m ³ /h (1台当たり))、 揚程: 約 870m、台数: 2)	・ほうろ水貯蔵タンク	-	中央操作	当直運転員 (中機) 1名	△	○	○	○	-
	「代替用制御棒挿入機能の自動挿入操作」			-	-	中央操作	当直運転員 (中機) 2名	△	○	○	○	-
	「選択用制御棒挿入機構の自動操作」			-	-	中央操作	当直運転員 (中機) 2名	△	○	○	○	-
	「スクラム・バイロケット弁電器用ヒューズ引抜き操作」 (スクラム弁閉の場合)			-	-	中央操作	当直運転員 (中機) 2名	△	○	○	○	-
	「スクラム・バイロケット弁計器用空気系排気操作」	(1.1)		-	-	75分以内	当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (現場) 2名	△	×	○	○	-
	「スクラム・リセット後の自動スクラム・スイツの操作」 (スクラム弁閉の場合)			-	-	中央操作	当直運転員 (中機) 2名	△	○	○	○	-
	「スクラム・リセット後の代替用制御棒挿入機能の自動操作」			-	-	中央操作	当直運転員 (中機) 2名	△	○	○	○	-
	「スクラム・リセット後のスクラム・バイロケットの自動操作」			-	-	139分以内	当直運転員 (中機) 2名 当直運転員 (現場) 2名	△	×	△	○	-

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	手順成立のために必要な手順	
④ 原子炉停止戦略	「原子炉水位低下操作」		・復水ポンプ 配管数: 3台 (容量: 約 2.70m ³ /h/台) ・復水貯蔵タンク 容量: 約 800m ³ (約 30m ³ /h/台) ・配管数: 3台 (容量: 約 2.90m ³ /h/台) ・配管数: 2台 (容量: 約 1.00m ³ /h/台) ・原子炉内循環ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 100m ³ /h、全周長: 約 120m) (約 900m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m)	復水器	事故時操作要領書 (徴収ベース) [反応度制御: 移行後の時間]	6分22以内	中央制御室運転員 2名	△	×	△	-	-
	「制御棒挿入操作」	(1.1)				7分22以内	中央制御室運転員 2名	△	○	○	-	
	「代替用制御棒挿入」					6分22以内	中央制御室運転員 2名	△	○	○	-	
	「選択用制御棒挿入」					7分22以内	中央制御室運転員 2名	△	○	○	-	
	「スクラム・バイロケット弁電器用ヒューズ引抜き操作」 (スクラム弁閉の場合)					16分22以内	現場運転員 2名	△	○	○	-	
	「スクラム・バイロケット弁計器用空気系排気操作」					47分以内	現場運転員 2名	△	×	○	-	
	「スクラム・リセット後の自動スクラム・スイツの操作」 (スクラム弁閉の場合)					現場操作	現場運転員 2名	△	×	○	-	
	「スクラム・リセット後の代替用制御棒挿入機能の自動操作」					37分22以内	現場運転員 2名	△	×	○	-	
	「スクラム・リセット後のスクラム・バイロケットの自動操作」											
	④ 原子炉停止戦略		(1.2) (1.3) (1.4) (1.8)	・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 3台 (容量: 約 2.70m ³ /h/台、全周長: 約 800m) (約 30m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m)	復水器 サブプレッシャー・システム	電源者の場合 中央制御室操作	電源者の場合 中央制御室操作	△	○	○	○	・電源操作
		(1.2) (1.3) (1.4) (1.8)	・復水ポンプ (容量: 約 2.70m ³ /h/台) ・復水貯蔵タンク 容量: 約 800m ³ (約 30m ³ /h/台) ・配管数: 3台 (容量: 約 2.90m ³ /h/台) ・配管数: 2台 (容量: 約 1.00m ³ /h/台) ・原子炉内循環ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 100m ³ /h、全周長: 約 120m) (約 900m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m)	復水器		電源者の場合 中央制御室操作	電源者の場合 中央制御室操作	△	×	△	○	・電源操作
		(1.2) (1.3) (1.4) (1.8)	・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 3台 (容量: 約 2.70m ³ /h/台、全周長: 約 800m) (約 30m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m)	復水器 サブプレッシャー・システム		電源者の場合 中央制御室操作	電源者の場合 中央制御室操作	△	○	○	○	・電源操作
		(1.2) (1.3) (1.4) (1.8)	・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 3台 (容量: 約 2.70m ³ /h/台、全周長: 約 800m) (約 30m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m)	復水器 サブプレッシャー・システム		電源者の場合 中央制御室操作	電源者の場合 中央制御室操作	△	○	○	○	・電源操作
		(1.2) (1.3) (1.4) (1.8)	・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 3台 (容量: 約 2.70m ³ /h/台、全周長: 約 800m) (約 30m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m) ・高圧中心スプレイ・ポンプ 配管数: 1台 (容量: 約 320m ³ /h、約 1.65m/台、全周長: 約 800m) (約 30m)	復水器 サブプレッシャー・システム		電源者の場合 中央制御室操作	電源者の場合 中央制御室操作	△	×	△	○	・電源操作

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備 (装置場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	竜巻	手組成立のために必要な手順	
④ 原子炉注水戦略	○非常時運転: 手順書 III (シビアアクシデント)、非常時運転: 手順書 II (断水ベーンズ)、重大事故等対策要領												
	「高圧炉心スプレイ系による原子炉注水」	(1.2)	高圧炉心スプレイ系ポンプ (容量: 約 1,440m ³ /h, 揚程: 約 257m, 台数: 1)	・復水貯蔵タンク ・サブレンジオン・チェンバ	—	中央操作	当直運転員 (中継) 1名	△	○	△	○	・電源の確保	
	「給水・復水系による原子炉注水」	(1.3)	・電動機駆動原子炉給水ポンプ (容量: 2,157.5m ³ /h (1台当たり), 揚程: 702m, 台数: 2) ・高圧復水ポンプ (容量: 3,792m ³ /h (1台当たり), 揚程: 365.8m, 台数: 3) ・低圧復水ポンプ (容量: 3,792m ³ /h (1台当たり), 揚程: 94.5m, 台数: 3)	・復水器	—	中央操作	当直運転員 (中継) 1名	△	×	×	×	・電源の確保	
	「低圧炉心スプレイ系による原子炉注水」	(1.4)	低圧炉心スプレイ系ポンプ (容量: 約 1,440m ³ /h, 揚程: 約 205m, 台数: 1)	・サブレンジオン・チェンバ	—	中央操作	当直運転員 (中継) 1名	△	○	○	○	・電源の確保	
	「残留熱除去系 (低圧注水系) による原子炉注水」	(1.13)	・残留熱除去系ポンプ (容量: 約 1,600m ³ /h (1台当たり), 揚程: 約 85m, 台数: 3)	・サブレンジオン・チェンバ	—	中央操作	当直運転員 (中継) 1名	△	○	○	○	・電源の確保	
	「代替冷却系 (常設) による原子炉注水」		・常設低圧代替注水系ポンプ (容量: 約 200m ³ /h (1台当たり), 揚程: 約 200m, 台数: 2)	・代替冷却設備	—	中央操作	当直運転員 (中継) 2名	△	○	○	○	・電源の確保	
	「代替蒸発冷却系による原子炉注水」		・代替蒸発冷却系ポンプ (容量: 約 250m ³ /h (1台当たり), 揚程: 約 120m, 台数: 2)	・サブレンジオン・チェンバ	—	中央操作	当直運転員 (中継) 2名	△	○	○	○	・電源の確保	
	「消火系による原子炉注水」		・ディーゼル駆動消火ポンプ (容量: 約 250m ³ /h, 揚程: 約 90m, 台数: 1)	・多目的タンク	—	56分以内	当直運転員 (中継) 1名 当直運転員 (中継) 2名 当直運転員 (中継) 2名	△	×	△	×	—	
	「補給水系による原子炉注水」		・復水移送ポンプ (容量: 145.4m ³ /h (1台当たり), 揚程: 85.4m, 台数: 2)	・復水貯蔵タンク	—	110分以内	当直運転員 (中継) 2名 重大事故等対応要員 6名	△	×	△	×	×	・電源の確保

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主要な使用設備 (装置場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	竜巻	手組成立のために必要な手順
④ 原子炉注水戦略	「復水輸送系による原子炉注水」	(1.2)	主役用復水ポンプ (容量: 約 100m ³ /h, 揚程: 約 70m)	復水貯蔵タンク	A-機器駆動系注入配管使用 中央制御室操作	電停の場合 中央制御室操作 電停の場合 中央制御室操作 電停の場合 中央制御室操作 電停の場合 中央制御室操作	中央制御室運転員 1名 中央制御室運転員 1名 現直運転員 2名	△	×	○	○	・電源の確保
	「排水系による原子炉注水」	(1.3)	・電動機駆動ポンプ (容量: 約 100m ³ /h, 揚程: 約 60m) ・大気注水ポンプ (容量: 約 100m ³ /h, 揚程: 約 20m, E.L.S. 5m)	補助排水ポンプ 大気注水ポンプ	A-機器駆動系注入配管使用 B、C-機器駆動系注入配管使用	電停の場合 中央制御室操作 電停の場合 中央制御室操作 電停の場合 中央制御室操作	中央制御室運転員 1名 中央制御室運転員 2名	△	×	○	○	・電源の確保
	「低圧代替注水系 (可搬型) による原子炉注水」	(1.3)	・大気注水ポンプ (容量: 約 100m ³ /h, 揚程: 約 20m, E.L.S. 5m)	補助排水ポンプ (低圧)	A、B-機器駆動系注入配管使用 可搬型ポンプ 設置が困難な場合	電停の場合 可搬型ポンプ使用 電停の場合 可搬型ポンプ使用	中央制御室運転員 1名 現直運転員 2名	○	○	○	○	・電源の確保
	「低圧代替注水系 (可搬型) による原子炉注水」	(1.3)	・大気注水ポンプ (容量: 約 100m ³ /h, 揚程: 約 20m, E.L.S. 5m)	補助排水ポンプ (低圧)	A-機器駆動系注入配管使用 B-機器駆動系注入配管使用	電停の場合 中央制御室操作 電停の場合 中央制御室操作	中央制御室運転員 1名 現直運転員 2名	○	○	○	○	—
	「低圧代替注水系 (可搬型) による原子炉注水」	(1.3)	・大気注水ポンプ (容量: 約 100m ³ /h, 揚程: 約 20m, E.L.S. 5m)	補助排水ポンプ (低圧)	低圧代替注水系 (可搬型) を使用する場合	電停の場合 可搬型ポンプ使用 電停の場合 可搬型ポンプ使用	緊急時対応要員 12名	○	○	○	○	・電源の確保 ・燃料補給

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	竜巻	手続成立のために必要な手順
原子炉注水戦略	「制御棒駆動水圧系による原子炉注水」	④	・制御棒駆動水ポンプ (容量: 46.3m ³ /h (1台当たり)、揚程: 823m, 台数: 2)	・復水貯蔵タンク	—	中央操作	当直運転員 (中継) 1名	△	×	△	○	・電源の確保
	「ほう酸水注入系による原子炉注水」		・ほう酸水注入ポンプ (容量: 約9.78m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約870m, 台数: 2)	・ほう酸水貯蔵タンク	—	中央操作	当直運転員 (中継) 1名	△	○	○	○	・電源の確保
原子炉注水戦略	「低圧代替注水系 (可搬型) による原子炉注水」	(L.2) (L.3) (L.4) (L.13)	・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約1.32m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約140m, 台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、制御棒保管場所、予備機置場) ・可搬型代替注水中型ポンプ (容量: 約210m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約100m, 台数: 5) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備機置場)	・代替注水貯槽 ・西側淡水貯水設備 ・海	系統構成を中央操作で実施する場合 系統構成を現場操作で実施する場合	205分以内 (ボース運転車を使用しない場合は535分以内) 205分以内 (ボース運転車を使用しない場合は535分以内)	当直運転員 (中継) 1名 重大事故等対応要員 8名 当直運転員 (現場) 3名 重大事故等対応要員 11名	○	○	○	○	・アークセスルトの確保 ・燃料給油
	「高圧代替注水系による原子炉注水」		・常高圧代替注水系ポンプ (容量: 約136.7m ³ /h, 揚程: 約900m, 台数: 1)	・サブプレッジョン・チェンバ	中央操作が実施できない場合	中央操作	当直運転員 (中継) 2名 当直運転員 (現場) 1名 当直運転員 (現場) 2名 重大事故等対応要員 2名	△	○	○	○	—

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	竜巻	手続成立のために必要な手順
原子炉注水戦略	④	「原子炉注水戦略」	・制御棒駆動水ポンプ (容量: 46.3m ³ /h (1台当たり)、揚程: 823m, 台数: 2)	・復水貯蔵タンク	—	中央操作	当直運転員 (中継) 1名	△	×	△	○	・電源の確保
			「ほう酸水注入系による原子炉注水」	・ほう酸水注入ポンプ (容量: 約9.78m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約870m, 台数: 2)	・ほう酸水貯蔵タンク	—	中央操作	当直運転員 (中継) 1名	△	○	○	○
原子炉注水戦略	④	「低圧代替注水系 (可搬型) による原子炉注水」	・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約1.32m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約140m, 台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、制御棒保管場所、予備機置場) ・可搬型代替注水中型ポンプ (容量: 約210m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約100m, 台数: 5) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備機置場)	・代替注水貯槽 ・西側淡水貯水設備 ・海	系統構成を中央操作で実施する場合 系統構成を現場操作で実施する場合	205分以内 (ボース運転車を使用しない場合は535分以内) 205分以内 (ボース運転車を使用しない場合は535分以内)	当直運転員 (中継) 1名 重大事故等対応要員 8名 当直運転員 (現場) 3名 重大事故等対応要員 11名	○	○	○	○	・アークセスルトの確保 ・燃料給油
			「高圧代替注水系による原子炉注水」	・常高圧代替注水系ポンプ (容量: 約136.7m ³ /h, 揚程: 約900m, 台数: 1)	・サブプレッジョン・チェンバ	中央操作が実施できない場合	中央操作	当直運転員 (中継) 2名 当直運転員 (現場) 1名 当直運転員 (現場) 2名 重大事故等対応要員 2名	△	○	○	○

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	電巻	手順成立のために必要な手順
④ 原子炉注水戦略	「逃がし安全弁による原子炉減圧」	(1.2) (1.3) (1.4) (1.13)	「逃がし安全弁 (個数: 18 (自動減圧機能付: 7))	-	-	中央操作	当直運転員 (中操) 1名	△	○	○	○	-
	「タービン・バイパス弁による減圧」		「タービン・バイパス弁 (個数: 5)	-	-	中央操作	当直運転員 (中操) 1名	△	×	○	○	-
	「非常用蒸気供給系による減圧」		「高圧蒸気ポンプ (本数: 20)	-	-	385分以内	当直運転員 (中操) 1名 当直運転員 (現場) 2名	△	○	○	○	-
	「逃がし安全弁用可搬型蓄電池による減圧」		「逃がし安全弁用可搬型蓄電池 (個数: 2)	-	-	55分以内	当直運転員 (中操) 1名 当直運転員 (現場) 2名	△	○	○	○	○
	「非常用逃がし安全弁駆動系による減圧」		「非常用逃がし安全弁駆動系」	-	-	120分以内	当直運転員 (中操) 1名 当直運転員 (現場) 2名	△	×	○	○	-

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	電巻	手順成立のために必要な手順	
④ 原子炉注水戦略	「緊急時冷却水供給系 (RCS) による原子炉減圧」	(1.3) (1.7)	「緊急時冷却水供給系 (RCS) (個数: 2台 (容量: 約 200m ³ /h) (圧力: 約 10MPa))	低圧注水ポンプ 注水槽	非常用冷却水供給系 (RCS) の使用	電源の都合 (現場作業時) 30分以内	中央制御室運転員 1名 現場運転員 2名	△	○	○	○	・電源確保 ・冷却確保	
	「原子炉減圧ポンプによる減圧」		「原子炉減圧ポンプ (個数: 3台 (容量: 約 80m ³ /h) (圧力: 約 7MPa))	原子炉減圧ポンプ	A-1 減圧ポンプ (原子炉減圧ポンプ) の使用	電源の都合 (現場作業時) 30分以内	中央制御室運転員 1名	△	○	○	○	・電源確保	
	「原子炉減圧ポンプによる減圧」		「原子炉減圧ポンプ (個数: 2台 (容量: 約 70m ³ /h) (圧力: 約 6MPa))	原子炉減圧ポンプ	B-1 減圧ポンプ (原子炉減圧ポンプ) の使用	電源の都合 (現場作業時) 30分以内	中央制御室運転員 1名 現場運転員 2名	△	×	○	○	○	・電源確保
	「原子炉減圧ポンプによる減圧」		「原子炉減圧ポンプ (個数: 2台 (容量: 約 60m ³ /h) (圧力: 約 5MPa))	原子炉減圧ポンプ	A-1 減圧ポンプ (原子炉減圧ポンプ) の使用	電源の都合 (現場作業時) 30分以内	中央制御室運転員 1名	×	×	○	○	○	・電源確保
	「原子炉減圧ポンプによる減圧」		「原子炉減圧ポンプ (個数: 3台 (容量: 約 100m ³ /h) (圧力: 約 8MPa))	原子炉減圧ポンプ	B-1 減圧ポンプ (原子炉減圧ポンプ) の使用	電源の都合 (現場作業時) 30分以内	中央制御室運転員 1名 現場運転員 2名	×	×	○	○	・電源確保	
	「原子炉減圧ポンプによる減圧」		「原子炉減圧ポンプ (個数: 4台 (容量: 約 2,000m ³ /h) (圧力: 約 10MPa))	原子炉減圧ポンプ	非常用冷却水供給系 (RCS) の使用	電源の都合 (現場作業時) 30分以内	中央制御室運転員 1名 現場運転員 2名	○	○	○	○	・電源確保	
	「原子炉減圧ポンプによる減圧」		「原子炉減圧ポンプ (個数: 4台 (容量: 約 1,700m ³ /h) (圧力: 約 9MPa))	原子炉減圧ポンプ	非常用冷却水供給系 (RCS) の使用	電源の都合 (現場作業時) 30分以内	中央制御室運転員 1名 現場運転員 2名	○	○	○	○	・電源確保	
	「原子炉減圧ポンプによる減圧」		「原子炉減圧ポンプ (個数: 4台 (容量: 約 1,700m ³ /h) (圧力: 約 9MPa))	原子炉減圧ポンプ	非常用冷却水供給系 (RCS) の使用	電源の都合 (現場作業時) 30分以内	中央制御室運転員 1名 現場運転員 2名	○	○	○	○	・電源確保	
	「原子炉減圧ポンプによる減圧」		「原子炉減圧ポンプ (個数: 4台 (容量: 約 1,700m ³ /h) (圧力: 約 9MPa))	原子炉減圧ポンプ	非常用冷却水供給系 (RCS) の使用	電源の都合 (現場作業時) 30分以内	中央制御室運転員 1名 現場運転員 2名	○	○	○	○	・電源確保	
	「原子炉減圧ポンプによる減圧」		「原子炉減圧ポンプ (個数: 4台 (容量: 約 1,700m ³ /h) (圧力: 約 9MPa))	原子炉減圧ポンプ	非常用冷却水供給系 (RCS) の使用	電源の都合 (現場作業時) 30分以内	中央制御室運転員 1名 現場運転員 2名	○	○	○	○	・電源確保	

個別略称	手順等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	電波	手順成立のために必要な手順
⑤ 水素発生防止装置	○非常時運転手続書Ⅲ (シビアアクシデント)、重大事故等対策要綱	技術的能力に係る審査基準の該当項目	<ul style="list-style-type: none"> ・格納容器内水素濃度 (S/A) ・格納容器内水素濃度 (S/A) ・格納容器内水素濃度モニタ ・格納容器内水素濃度 (容量: 約 200mm³/h (1台当たり)、台数: 4) ・蒸気供給装置用電源車 (台数: 2) ・蒸気供給装置用電源車 (保管場所: 西側保管庫所、南側保管庫所) 	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 1名	△	○	○	○	—
	「原子炉格納容器内水素濃度監視」			—	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 1名	△	×	○	○
⑥ 水素発生防止装置	「可搬型蒸気供給装置による原子炉格納容器への蒸気注入」	(L.9) (L.10)	<ul style="list-style-type: none"> ・再結合装置、ブロー (容量: 約 300mm³/h (1台当たり)、台数: 2) ・非常用ガス処理系 ・非常用ガス再循環系 	—	—	135分以内	重大事故等対応委員 6名	△	○	○	○	—
	「格納容器圧力感知装置による格納容器ベント」			—	—	—	—	115分以内	重大事故等対応委員 6名	△	○	○
⑦ 水素発生防止装置	「原子炉建屋外側プロアウトバネル開放」	(L.9) (L.10)	<ul style="list-style-type: none"> ・格納容器圧力感知装置 	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 1名	△	○	○	○	—
	「原子炉建屋外側プロアウトバネル開放」			—	—	—	—	75分以内	当直運転員 (中機) 1名	△	○	○
⑧ 水素発生防止装置	「可燃性ガス濃度制御系起動」	(L.9) (L.10)	<ul style="list-style-type: none"> ・再結合装置、ブロー (容量: 約 300mm³/h (1台当たり)、台数: 2) 	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 1名	△	×	○	○	・電源の確保
	「原子炉建屋外側プロアウトバネル開放」			—	—	—	—	約 130分	当直運転員 (中機) 1名	△	○	○

個別略称	手順等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	電波	手順成立のために必要な手順
⑨ 水素発生防止装置	「原子炉建屋外側プロアウトバネル開放」	(L.9) (L.10)	<ul style="list-style-type: none"> ・大気送水ポンプ車 (保管場所: E L.50m, E L.13~32m, E L.8.5m) ・格納容器圧力感知装置 (容量: 約 200mm³/h (1台当たり)、台数: 4) ・蒸気供給装置用電源車 (台数: 2) ・蒸気供給装置用電源車 (保管場所: 西側保管庫所、南側保管庫所) 	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 1名	△	○	○	○	—
	「格納容器圧力感知装置による格納容器ベント」			—	—	—	—	135分以内	重大事故等対応委員 6名	△	○	○
⑩ 水素発生防止装置	「可燃性ガス濃度制御系起動」	(L.9) (L.10)	<ul style="list-style-type: none"> ・再結合装置、ブロー (容量: 約 300mm³/h (1台当たり)、台数: 2) ・非常用ガス処理系 ・非常用ガス再循環系 	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 1名	△	×	○	○	・電源の確保
	「原子炉建屋外側プロアウトバネル開放」			—	—	—	—	約 130分	当直運転員 (中機) 1名	△	○	○

個別機器	手順書等	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	竜巻	手順成立のために必要な手順
④-1 格納容器除熱機	「異常時運転手順書II (巻線ベース)、重大事故等対応要領」	「残留熱除去系による冷却又はスプレイによる原子炉格納容器除熱」	・残留熱除去系ポンプ (容量: 約 1,600m ³ /h (1 台当たり), 揚程: 約 85m, 台数: 2)	・サブプレッション・チェンバ	—	中央操作	当直運転員 (中機) 1名	△	○	○	○	・電源の確保
	「代替格納容器スプレイ冷却系 (常設) による格納容器スプレイ」	「代替格納容器スプレイ冷却系 (可搬型) による格納容器スプレイ」	・常設型代替注水ポンプ (容量: 約 200m ³ /h (1 台当たり), 揚程: 約 200m, 台数: 2) ・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約 1,320m ³ /h (1 台当たり), 揚程: 約 140m, 台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備機置場) ・可搬型代替注水中型ポンプ (容量: 約 210m ³ /h (1 台当たり), 揚程: 約 100m, 台数: 5) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備機置場)	・代替淡水貯槽 ・高圧淡水貯水設備 ・海水	系統構成を中央操作で実施する場合 205分以内 (ホース運搬車を使用しない場合は535分以内)	当直運転員 (中機) 1名 重大事故等対応要員 8名	○	○	○	○	・アクセスルートへの確保 ・燃料給油	
	「代替格納容器冷却系による原子炉格納容器除熱」	「代替格納容器冷却系による格納容器スプレイ」	・代替格納容器冷却系ポンプ (容量: 約 250m ³ /h (1 台当たり), 揚程: 約 120m, 台数: 2)	・サブプレッション・チェンバ	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名	△	○	○	○	・電源の確保
	「消火系による格納容器スプレイ」	「格納水系による格納容器スプレイ」	・ディーゼル型動火ポンプ (容量: 約 300m ³ /h/台, 揚程: 90m, 台数: 1台) ・多目的タンク ・復水移送ポンプ (容量: 145.4m ³ /h (1 台当たり), 揚程: 85.4m, 台数: 2)	—	—	58分以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現機) 2名	△	×	△	×	—

個別機器	手順書等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	竜巻	手順成立のために必要な手順
④-1 原子炉格納容器除熱機 (可搬型)	「格納容器フィルタスタックベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱」	「格納容器フィルタスタックベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱」	・第1ベントフィルタスタックラフ管 ・第2ベントフィルタスタックラフ管 ・第3ベントフィルタスタックラフ管 ・圧力調整弁 ・可搬式送風機 ・可搬式送風機用燃料油 (保管場所: E.L.50m, E.L.8.5m) ・大気注水車 (保管場所: E.L.40m, E.L.13~23m, E.L.8.5m) ・配管数: 3台 (容量: 約 100m ³ /h (形式1) 1台、配管数: 3台 (容量: 約 100m ³ /h, 配管長: 約 0.35km))	—	中央操作 非常用コントロールセンターが稼働している場合、格納容器ベント系稼働まで 中央操作 非常用コントロールセンターが稼働している場合、格納容器ベント系稼働まで 現場操作 現場操作	電源有の場合 (現場操作) 45分以内 電源有の場合 (現場操作) 10分以内	中央制御室運転員 1名 現場運転員 2名 中央制御室運転員 1名 現場運転員 2名	△	○	○	○	・電源確保
	「格納容器フィルタスタックベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱」	「格納容器フィルタスタックベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱」	・可搬式送風機用燃料油 (保管場所: E.L.50m, E.L.8.5m) ・大気注水車 (保管場所: E.L.40m, E.L.13~23m, E.L.8.5m) ・配管数: 3台 (容量: 約 100m ³ /h (形式1) 1台、配管数: 3台 (容量: 約 100m ³ /h, 配管長: 約 0.35km))	輸送貯水車 (車1) 輸送貯水車 (車2)	現場操作 第1ベントフィルタスタックラフ管系稼働後 (仮設)	現場操作 (現場操作) 2時間以内 緊急時対応要員 12名	緊急時対応要員 4名 現場運転員 4名	△	○	○	○	・水確保

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	竜巻	手動成立のために必要な手順
⑤-1 格納容器除熱戦略	「格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベント」	(1.5) (1.6) (1.13)	・格納容器圧力逃がし装置 (台数: 1台) ・耐圧強化ベント	-	-	第一弁 (S/C) 125分以内 第一弁 (D/W) 140分以内 第二弁 75分以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現場) 3名 重大事故等対応要員 3名	△	○	○	○	-
	「耐圧強化ベントによる格納容器ベント」				-	-	中央操作	当直運転員 (中機) 1名	△	○	○	○

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	竜巻	手動成立のために必要な手順
⑤-1 格納容器除熱戦略 (島根)	耐圧強化ベントラインによる原子炉格納容器内の減圧及び排熱。	(1.5) (1.6) (1.7)	主な使用設備 (保管場所、仕様等) ・遠隔手動操作用機器 ・可搬式変換供給装置 (保管場所: E.L.S.m, E.L.S.m) 配線数: 2台 (容量: 約100m ³ /h, normal) / 台	-	格納容器ベント準備完了まで 中央制御室操作	電源停止の場合 中央制御室操作	中央制御室運転員 1名	△		○		
					格納容器ベント基準値から格納容器ベント開始まで	電源停止の場合 中央制御室操作	中央制御室運転員 1名	△	○	○		
					現機操作	電源停止の場合 (現機操作) 2時間 30分以内	中央制御室運転員 1名 現機運転員 4名	△		○		
					可搬式変換供給装置を使用し、た格納容器フィルタベント系の変換ガス取機、変換ガス取機 (建物内) (原子炉建屋) (格納容器内) を使用した場合	現機操作 2時間以内		○		○		
					可搬式変換供給装置を使用し、た格納容器フィルタベント系の変換ガス取機、変換ガス取機 (建物内) (タービン建屋比側) を使用した場合	現機操作 6時間 30分以内	中央制御室運転員 1名 緊急時対応要員 4名	△		△		

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	電巻	手順成立のために必要な手順	
⑨-2 格納容器除熱戦略	「格納容器下部注水系統」によるベズタル注水	⑨-2 格納容器除熱戦略	・常設低圧代替注水ポンプ (容量: 約200m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約200m、台数: 2) ・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約1,320m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約140m、台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備機) ・可搬型代替注水中型ポンプ (容量: 約210m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約100m、台数: 6) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備機)	・代替淡水貯槽 ・西側淡水貯槽 ・海水	—	中央操作	当直運転員 (中継) 2名	△	○	○	○	・電源の確保	
	「消防系によるベズタル注水」		・ディーゼル駆動消火ポンプ (容量: 約261m ³ /h、揚程: 約90m、台数: 1) ・多目的タンク	・ろ過水貯蔵タンク	—	54分以内	当直運転員 (中継) 1名 当直運転員 (現場) 2名 当直運転員 8名	△	×	△	×	—	
	「輸給水系によるベズタル注水」		・海水移送ポンプ (容量: 115.4m ³ /h (1台当たり)、揚程: 85.4m、台数: 2)	・海水貯蔵タンク	—	—	108分以内	当直運転員 (中継) 1名 当直運転員 8名 重大事故等対応要員 6名	△	×	△	×	・電源の確保
	「格納容器周部注水系統」によるベズタル注水		・常設低圧代替注水ポンプ (容量: 約200m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約200m、台数: 2) ・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約1,320m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約140m、台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備機)	・代替淡水貯槽 ・海水	—	—	205分以内 (ホース運搬車を使用しない場合は55分以内)	当直運転員 (中継) 1名 当直運転員 8名 重大事故等対応要員 12名	○	○	○	○	・アクセスホールの確保 ・燃料給油
	「格納容器周部注水系統」によるウェル注水		—	—	—	—	中央操作	当直運転員 (中継) 1名	△	○	○	○	・電源の確保

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	電巻	手順成立のために必要な手順		
⑩-1 格納容器下部注水系統による原子炉格納容器下部への注水	「格納容器下部注水系統」による原子炉格納容器下部への注水	⑩-1 格納容器下部注水系統による原子炉格納容器下部への注水	・常設低圧代替注水ポンプ (容量: 約200m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約190m) ・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約1,320m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約140m、台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備機)	・代替淡水貯槽 ・海水	—	電源有の場合 (電源有の場合) 30分以内 電源有の場合 (電源有の場合) 30分以内 電源有の場合 (電源有の場合) 30分以内	当直運転員 (中継) 1名 当直運転員 8名 現場運転員 2名	△	○	○	○	・電源の確保 ・燃料給油		
	「消防系によるベズタル注水」		・ディーゼル駆動消火ポンプ (容量: 約261m ³ /h、揚程: 約90m、台数: 1) ・多目的タンク	・ろ過水貯蔵タンク	—	—	電源有の場合 (電源有の場合) 30分以内 電源有の場合 (電源有の場合) 30分以内	当直運転員 (中継) 1名 当直運転員 8名 現場運転員 2名	△	×	△	×	—	
	「輸給水系によるベズタル注水」		・海水移送ポンプ (容量: 115.4m ³ /h (1台当たり)、揚程: 85.4m、台数: 2)	・海水貯蔵タンク	—	—	—	電源有の場合 (電源有の場合) 30分以内 電源有の場合 (電源有の場合) 30分以内	当直運転員 (中継) 1名 当直運転員 8名 現場運転員 2名	△	×	△	×	—
	「格納容器周部注水系統」によるベズタル注水		・常設低圧代替注水ポンプ (容量: 約200m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約200m、台数: 2) ・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約1,320m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約140m、台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備機)	・代替淡水貯槽 ・海水	—	—	205分以内 (ホース運搬車を使用しない場合は55分以内)	当直運転員 (中継) 1名 当直運転員 8名 重大事故等対応要員 12名	○	○	○	○	・アクセスホールの確保 ・燃料給油	
	「格納容器周部注水系統」によるウェル注水		—	—	—	—	中央操作	当直運転員 (中継) 1名	△	○	○	○	・電源の確保	

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る最低基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	電巻	手順成立のために必要な手順
④-2 格納容器除熱戦略	「残留熱除去系 (格納容器スプレッド冷却) による格納容器スプレッド」	(L.6) (L.7) (L.8) (L.10) (L.13)	・残留熱除去系 (格納容器スプレッド) による格納容器スプレッド (容量: 約 1,090m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 85m、台数: 2)	・サブプレッション・チェンバ	—	中央操作	当直運転員 (中機) 1名	△	○	○	○	電源の確保
	「代替格納容器スプレッド冷却系 (常設) による格納容器スプレッド」		・常設格納容器スプレッド (容量: 約 200m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 20m、台数: 2)	・代替格納容器スプレッド	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名	△	○	○	○	電源の確保
④-2 格納容器除熱戦略	「代替格納容器スプレッド冷却系 (可搬型) による格納容器スプレッド」	(L.6) (L.7) (L.8) (L.10) (L.13)	・可搬型代替格納容器スプレッド (容量: 約 200m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 20m、台数: 2)	・サブプレッション・チェンバ	—	中央操作	当直運転員 (中機) 2名	△	○	○	○	電源の確保
	「冷却水系による格納容器スプレッド」		・冷却水系による格納容器スプレッド (容量: 約 200m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 20m、台数: 2)	・冷却水系による格納容器スプレッド	—	58分以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現場) 2名 当直運転員 (現場) 2名 重大事故等対応要員 6名	△	×	△	×	—
④-2 格納容器除熱戦略	「格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベンチ」	(L.6) (L.7) (L.8) (L.10) (L.13)	・格納容器圧力逃がし装置 (台数: 1台)	—	—	中央操作	当直運転員 (中機) 1名	△	○	○	○	—
	「格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベンチ」		・格納容器圧力逃がし装置 (台数: 1台)	—	—	—	205分以内 (ホース運搬車を使用しない場合は35分以内)	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現場) 3名 重大事故等対応要員 8名	○	○	○	○

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る最低基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	電巻	手順成立のために必要な手順
④-2 格納容器除熱戦略	「原子炉格納容器系による格納容器」	(L.6) (L.7) (L.8) (L.10) (L.13)	・原子炉格納容器系 (格納容器) による格納容器 (容量: 約 2,000m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 50m、台数: 4台 (容量: 約 1,700m ³ /h、台数: 約 50m))	・原子炉格納容器系 (格納容器) による格納容器 (容量: 約 2,000m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 50m、台数: 4台 (容量: 約 1,700m ³ /h、台数: 約 50m))	—	電巻の場合 (現場操作) 1時間以内	中央制御室運転員 1名	△	○	○	○	—
	「原子炉格納容器系による格納容器」		・原子炉格納容器系 (格納容器) による格納容器 (容量: 約 2,000m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 50m、台数: 4台 (容量: 約 1,700m ³ /h、台数: 約 50m))	・原子炉格納容器系 (格納容器) による格納容器 (容量: 約 2,000m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 50m、台数: 4台 (容量: 約 1,700m ³ /h、台数: 約 50m))	—	電巻の場合 (現場操作) 1時間以内	中央制御室運転員 1名 緊急時対応要員 6名	△	○	○	○	—
④-2 格納容器除熱戦略	「冷却水系による格納容器」	(L.6) (L.7) (L.8) (L.10) (L.13)	・冷却水系による格納容器 (容量: 約 2,000m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 50m、台数: 4台 (容量: 約 1,700m ³ /h、台数: 約 50m))	・冷却水系による格納容器 (容量: 約 2,000m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 50m、台数: 4台 (容量: 約 1,700m ³ /h、台数: 約 50m))	—	電巻の場合 (現場操作) 1時間以内	中央制御室運転員 1名 緊急時対応要員 6名	△	○	○	○	—
	「冷却水系による格納容器」		・冷却水系による格納容器 (容量: 約 2,000m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 50m、台数: 4台 (容量: 約 1,700m ³ /h、台数: 約 50m))	・冷却水系による格納容器 (容量: 約 2,000m ³ /h (1台当たり)、揚程: 約 50m、台数: 4台 (容量: 約 1,700m ³ /h、台数: 約 50m))	—	電巻の場合 (現場操作) 1時間以内	中央制御室運転員 1名 緊急時対応要員 6名	△	○	○	○	—

個別機軸	手順書等	技術的能力に 係る審査基準 の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機 衝突	地震	津波	竜巻	手順成立のために必要 な手順
① 使用済燃料プ ール注水電路	①非常時運転手順書 II (運転マニュアル) 重大事故等対応要領		主要な使用設備 (保管場所、仕様等) ・常設低圧代替注水ポンプ (容量: 約 20m ³ /h (1 台当 たり)、揚程: 約 20m、台数: 2) ・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約 1,320m ³ /h (1 台あたり)、揚程: 約 140m、 台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予 備機庫) ・可搬型代替注水中型ポンプ (容量: 約 210m ³ /h (1 台あたり)、揚程: 約 100m、台 数: 5) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備 機庫)	・代替排水貯槽 ・西側排水貯水設備 ・海水	-	中央操作	当直運転員 (中機) 1名	△	○	○	○	・電路の確保
	「代替燃料プール注水 系 (注水ライン) を使 用した S F P 注水 (常 設低圧代替注水系示 シンプ) 」	(1.11) (1.12) (1.13)	・ディーゼル駆動ポンプ (容量: 約 20m ³ /h/台、揚 程: 90m、台数: 1 台) ・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約 1,320m ³ /h (1 台あたり)、揚程: 約 140m、 台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備機庫)	・排水貯水設備 ・多目的タンク	原子炉建屋 薬物処理系 備用を使用す る場合	60 分以内 105 分以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現場) 3名 重大事故等対応要員 1名	△	×	△	×	-
② 使用済燃料プ ール注水電路	「代替燃料プール注水 系 (注水ライン) を使 用した S F P 注水 (可 搬型代替注水中型示 シンプ又は可搬型代替 注水大型ポンプ) 」		主要な使用設備 (保管場所、仕様等) ・常設低圧代替注水ポンプ (容量: 約 20m ³ /h (1 台当 たり)、揚程: 約 20m、台数: 2) ・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約 1,320m ³ /h (1 台あたり)、揚程: 約 140m、 台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予 備機庫) ・可搬型代替注水中型ポンプ (容量: 約 210m ³ /h (1 台あたり)、揚程: 約 100m、台 数: 5) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備 機庫)	・代替排水貯槽 ・西側排水貯水設備 ・海水	原子炉建屋 薬物処理系 備用を使用す る場合	45 分 以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現場) 3名 重大事故等対応要員 3名	△	○	○	○	・アクセスホールの 確保 ・燃料油
	「ドライウェル貯水系による原子炉建屋 内の代替注水」	(1.14) (1.15) (1.16) (1.17) (1.18) (1.19)	・低圧原子炉代替注水ポンプ (容量: 約 20m ³ /h/台、揚程: 約 100m) ・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約 1,320m ³ /h (1 台あたり)、揚程: 約 140m、 台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予 備機庫) ・可搬型代替注水中型ポンプ (容量: 約 210m ³ /h (1 台あたり)、揚程: 約 100m、台 数: 5) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備 機庫)	・排水貯水設備 ・多目的タンク	原子炉建屋 薬物処理系 備用を使用す る場合	30 分 以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現場) 3名 重大事故等対応要員 3名	△	○	○	○	○

個別機軸	手順書等	技術的能力に 係る審査基準 の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機 衝突	地震	津波	竜巻	手順成立のために必要 な手順
① 2 所 の 常 時 運 転 手 順 書 等 の 制 定 手 順	「低圧原子炉代替注水ポンプによる原子炉建屋内の 注水 (注水ライン) 」	(1.14) (1.15) (1.16) (1.17) (1.18) (1.19)	主要な使用設備 (保管場所、仕様等) ・低圧原子炉代替注水ポンプ (容量: 約 20m ³ /h/台、揚程: 約 100m) ・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約 1,320m ³ /h (1 台あたり)、揚程: 約 140m、 台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予 備機庫) ・可搬型代替注水中型ポンプ (容量: 約 210m ³ /h (1 台あたり)、揚程: 約 100m、台 数: 5) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備 機庫)	・排水貯水設備 ・多目的タンク	原子炉建屋 薬物処理系 備用を使用す る場合	1時間 40 分以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現場) 3名 重大事故等対応要員 3名	△	○	○	○	・電路の確保 ・燃料油
	「ドライウェル貯水系による原子炉建屋 内の代替注水」	(1.20) (1.21) (1.22) (1.23) (1.24) (1.25)	・低圧原子炉代替注水ポンプ (容量: 約 20m ³ /h/台、揚程: 約 100m) ・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約 1,320m ³ /h (1 台あたり)、揚程: 約 140m、 台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予 備機庫) ・可搬型代替注水中型ポンプ (容量: 約 210m ³ /h (1 台あたり)、揚程: 約 100m、台 数: 5) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備 機庫)	・排水貯水設備 ・多目的タンク	原子炉建屋 薬物処理系 備用を使用す る場合	1時間 40 分以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現場) 3名 重大事故等対応要員 3名	△	○	○	○	○

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	竜巻	手順成立のために必要な手順
⑦ 使用済燃料プール注水戦略	「代替燃料プール注水系 (常設スプレイング) を使用した SFP 注水 (常設低圧代替注水系ポンプ)」	(L.11) (L.12) (L.13)	・可搬型代替注水系ポンプ (容量: 約 200m ³ /h (1 台当たり), 揚程: 約 140m, 台数: 2) (保管場所: 西側保管場所、予備機置場)	・代替淡水貯槽	中央操作	205 分以内 (ボース運転車を使用しない場合は 535 分以内)	当直運転員 (中機) 1 名	△	○	○	○	・電源の確保
	「可搬型代替注水大型ポンプ及び放水砲による放水」		・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約 1,320m ³ /h (1 台当たり), 揚程: 約 140m, 台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備機置場)	・可搬型代替注水貯槽	中央操作	210 分以内	当直運転員 (中機) 1 名 重大事故等対応要員 8 名	○	○	○	○	・アクセルスタートの確保 ・燃料給油
⑧ 使用済燃料プール除熱戦略	「サイフォンレベック」	(L.11)	・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約 1,380m ³ /h, 揚程: 約 135m, 台数: 2) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所)	・海	中央操作	210 分以内	重大事故等対応要員 8 名	○	○	○	○	・アクセルスタートの確保 ・燃料給油
	「破断箇所手動隔離操作」		・放水砲 (台数: 2) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所)	中央操作	中央操作	中央操作	当直運転員 (中機) 1 名	△	○	○	○	・電源の確保

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主要な使用設備 (保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	手順成立のために必要な手順
① 燃料プール注水戦略	「燃料プール注水系 (常設スプレイング) を使用した SFP 注水 (常設低圧代替注水系ポンプ)」	(L.11)	・第 1 ベントフイルタスタック (容量: 約 8.8m ³ /s) (保管場所: 東側保管場所、予備機置場)	・燃料プール注水貯槽	燃料プール注水貯槽	205 分以内 (ボース運転車を使用しない場合は 535 分以内)	当直運転員 (中機) 1 名	△	○	○	・電源の確保
	「可搬型代替注水大型ポンプ及び放水砲による放水」		・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約 1,320m ³ /h (1 台当たり), 揚程: 約 140m, 台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備機置場)	・可搬型代替注水貯槽	中央操作	210 分以内	当直運転員 (中機) 1 名 重大事故等対応要員 8 名	○	○	○	○
② 燃料プール注水戦略	「燃料プール注水系 (常設スプレイング) を使用した SFP 注水 (常設低圧代替注水系ポンプ)」	(L.11)	・第 1 ベントフイルタスタック (容量: 約 8.8m ³ /s) (保管場所: 東側保管場所、予備機置場)	・燃料プール注水貯槽	燃料プール注水貯槽	205 分以内 (ボース運転車を使用しない場合は 535 分以内)	当直運転員 (中機) 1 名	△	○	○	・電源の確保
	「可搬型代替注水大型ポンプ及び放水砲による放水」		・可搬型代替注水大型ポンプ (容量: 約 1,320m ³ /h (1 台当たり), 揚程: 約 140m, 台数: 3) (保管場所: 西側保管場所、南側保管場所、予備機置場)	・可搬型代替注水貯槽	中央操作	210 分以内	当直運転員 (中機) 1 名 重大事故等対応要員 8 名	○	○	○	○

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る審査基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所, 仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	竜巻	手順成立のために必要な手順
③ 放射性物質拡散抑制戦略	○ 重大事故等対策要領		可搬型代替注水大型ポンプ (放水用) (容量: 約 1,380m ³ /h, 総程: 約 135m, 台数: 2) (保管場所: 西側保管場所, 南側保管場所) ・放水砲 (台数: 2) (保管場所: 西側保管場所, 南側保管場所)	・海	-	210分以内	重大事故等対応要員 8名	○	○	○	○	・アクセスルートの確保 ・燃料給油
	「汚濁防止砲の設置」	(1.12)	・汚濁防止砲 (鋼数: 48) (保管場所: 西側保管場所, 南側保管場所)	-	-	優先的に設置する4箇所: 140分 残る箇所: 6時間以内	重大事故等対応要員 9名	○	○	○	○	・アクセスルートの確保
	「放射性物質吸着材の設置」		・放射性物質吸着材 (保管場所: 西側保管場所, 南側保管場所)	-	-	21時間以内	重大事故等対応要員 9名	○	○	○	○	・アクセスルートの確保

個別戦略	手順書等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主要な使用設備 (保管場所, 仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	手順成立のために必要な手順
④ 燃料プール系 (可搬型スプレイング) による燃料プールへの注水又はスプレイング	「燃料プール系 (可搬型スプレイング) による燃料プールへの注水又はスプレイング」	(1.11)	主役使用設備 (保管場所, 仕様等) ・可搬型代替注水ポンプ 配管数: 3台 (容量: 約 1,380m ³ /h, 台数: 約 100m)	サプレッション・チェンバ	-	電源がある場合 中央制御室操作	中央制御室運転員 1名	○	○	○	・電源確保
			・大型海水系 (保管場所: E.L.4m, E.L.13~28m, E.L.5.5m) 配管数: 3台 (容量: 約 100m ³ /h, 吐出圧力: 約 0.8MPa)	・海水貯水槽 (原 1) ・海水貯水槽 (原 2)	-	電源操作 2時間 10分以内	中央制御室運転員 1名 緊急時対応要員 12名	○	○	○	・水圧確保 ・燃料給油
			・大型海水系 (保管場所: E.L.4m, E.L.13~28m, E.L.5.5m) 配管数: 3台 (容量: 約 100m ³ /h, 吐出圧力: 約 0.8MPa) ・可搬型スプレイング (保管場所: 原子炉建屋 1階又は2階) 配管数: 3台	・海水貯水槽 (原 1) ・海水貯水槽 (原 2)	-	電源操作 2時間 30分以内	中央制御室運転員 1名 緊急時対応要員 12名	△	○	○	○
「オフポンプレイク機能による漏えい抑制」	「オフポンプレイク機能による漏えい抑制」	(1.11)	・オフポンプレイク機能	-	-	-	-	-	-	-	-
			・クレーン ・格納庫 ・ステンレス鋼板 ・取り換え用コップ	-	-	1時間 30分以内	中央制御室運転員 1名 緊急時対応要員 3名	△	○	○	○

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る善処基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所, 仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	竜巻	手順成立のために必要な手順	
⑩ 電源確保戦略	「非常時運転手順書 (事象ベース)」	(1.14)	<ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替高圧電源装置 (台数: 6) ・常設代替高圧電源装置 (台数: 6) ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型代替直流電源設備 ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型整流器 	-	-	92分以内	当直運転員 (中機) 1名 当直運転員 (現機) 2名 重大事故等対応要員 2名	△	○	○	○	-	
	「常設代替交流電源設備による緊急用M/C及び非常用M/C受電 (中央制御室からの起動)」												
	「常設代替交流電源設備による緊急用M/C及び非常用M/C受電 (現場からの起動)」												
	「可搬型代替交流電源設備による非常用P/Cへ受電」												
	「可搬型代替交流電源設備による緊急用P/Cへ受電」												
	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」												
「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤2 A・2 B受電」	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」

個別戦略	手順書等	「技術的能力に係る善処基準」の該当項目	主要な使用設備 (保管場所, 仕様等)	水源	備考	所要時間 (目安)	必要人員 (目安)	航空機衝突	地震	津波	手順成立のために必要な手順
⑩ 電源確保戦略	「非常時運転手順書 (事象ベース)」	(1.11)	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料プールの冷却ポンプ ・配電盤: 2台 (容量: 約300kVA/台, 全機出力: 約800) ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) 	-	-	電機室 中央制御室	中央制御室 1名	△	○	○	・電源確保
	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」										
⑩ 電源確保戦略	「非常時運転手順書 (事象ベース)」	(1.12)	<ul style="list-style-type: none"> ・大型送電機 (保管場所: E.L.15~25m, E.L.5.5m) ・配電盤: 2台 (容量: 約300kVA/台, 全機出力: 約800) ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型代替直流電源設備 ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型整流器 	-	-	電機室 4時間30分以内	緊急時要員 15名	○	○	○	・燃料確保
	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」										
⑩ 電源確保戦略	「非常時運転手順書 (事象ベース)」	(1.12)	<ul style="list-style-type: none"> ・大型送電機 (保管場所: E.L.15~25m, E.L.5.5m) ・配電盤: 2台 (容量: 約300kVA/台, 全機出力: 約800) ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型代替直流電源設備 ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型整流器 	-	-	電機室 4時間30分以内	緊急時要員 5名	○	○	△	-
	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」										
⑩ 電源確保戦略	「非常時運転手順書 (事象ベース)」	(1.12)	<ul style="list-style-type: none"> ・大型送電機 (保管場所: E.L.15~25m, E.L.5.5m) ・配電盤: 2台 (容量: 約300kVA/台, 全機出力: 約800) ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型代替直流電源設備 ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型整流器 	-	-	電機室 3時間以内	緊急時要員 7名	○	○	△	-
	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」										
⑩ 電源確保戦略	「非常時運転手順書 (事象ベース)」	(1.12)	<ul style="list-style-type: none"> ・大型送電機 (保管場所: E.L.15~25m, E.L.5.5m) ・配電盤: 2台 (容量: 約300kVA/台, 全機出力: 約800) ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型代替直流電源設備 ・可搬型代替低圧電源車 (台数: 5) ・可搬型整流器 	-	-	電機室 24時間以内	緊急時要員 7名	○	○	△	-
	「可搬型代替直流電源設備による緊急用直流125V主母線盤受電」										

項目	手順等	技術的能力に係る要素 基準の該当 項目	主な使用設備(信管機系,仕掛等)	水型	備考	所要時間(目安)	必要人員(目安)	航空機 解決	地震	津波	手動成立のために 必要な手順
個別 手順	①緊急時原子炉制御(緊急停止), AMR動作確認, 原子炉冷却系監視 [ガスタービン発電機によるSAV/C C系及 DM/C D系発電]	①ガスタービン発電機 ・配線数:2台(容量:約1,600kW/台,電圧:6.6kV) ・燃料数:2基(容量:約7.0m ³ /基) ②ガスタービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:2台(容量:約4.0m ³ /h,吐出圧力:約0.3MPa) ③ガスタービン発電機用燃料タンク ・配線数:1基(容量:約30m ³ /基) ④M/C C系 ⑤M/C D系 ⑥緊急用4タワ	①ガスタービン発電機 ・配線数:2台(容量:約1,600kW/台,電圧:6.6kV) ②ガスタービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:2基(容量:約7.0m ³ /基) ③ガスタービン発電機用燃料タンク ・配線数:1基(容量:約30m ³ /基) ④M/C C系 ⑤M/C D系 ⑥緊急用4タワ	-	M/C D系発電機の場合 (中央制御室からの起動) M/C C系発電機の場合 (中央制御室からの起動) M/C D系発電機の場合 (現場からの起動)	40分以内 1時間10分以内 1時間5分以内 1時間10分以内	中央制御室運転員 1名 現場運転員2名 中央制御室運転員 1名 緊急時対策員2名	△ △ △ △	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	-
	ガスタービン発電機によるSAV/C D系及SAV/C D系発電	①ガスタービン発電機 ・配線数:2台(容量:約1,600kW/台,電圧:6.6kV) ②ガスタービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:2基(容量:約7.0m ³ /基) ③ガスタービン発電機用燃料タンク ・配線数:1基(容量:約30m ³ /基) ④SAV/C D系 ⑤緊急用4タワ	①ガスタービン発電機 ・配線数:2台(容量:約1,600kW/台,電圧:6.6kV) ②ガスタービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:2基(容量:約7.0m ³ /基) ③ガスタービン発電機用燃料タンク ・配線数:1基(容量:約30m ³ /基) ④SAV/C D系 ⑤緊急用4タワ	-	中央制御室からの起動	10分以内	中央制御室運転員 1名	○	○	○	-
	②高圧炉心スプレイ系タービン発電機によるM/C C系及DM/C D系発電	①高圧炉心スプレイ系タービン発電機 ・配線数:1台(容量:約1,000kW/台,電圧:6.6kV) ②高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:1基(容量:約4.0m ³ /h,吐出圧力:約0.3MPa) ③高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料タンク ・配線数:1基(容量:約30m ³ /基) ④高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:1基(容量:約17m ³ /基) ⑤高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料タンク ・配線数:1台(容量:約30m ³ /台,電圧:約35kV) ⑥M/C C系 ⑦M/C D系 ⑧号炉間電力融通ケーブル(1号炉)	①高圧炉心スプレイ系タービン発電機 ・配線数:1台(容量:約1,000kW/台,電圧:6.6kV) ②高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:1基(容量:約4.0m ³ /h,吐出圧力:約0.3MPa) ③高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:1基(容量:約17m ³ /基) ④高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料タンク ・配線数:1台(容量:約30m ³ /台,電圧:約35kV) ⑤M/C C系 ⑥M/C D系 ⑦号炉間電力融通ケーブル(1号炉)	-	現場からの起動	55分以内	中央制御室運転員 1名 緊急時対策員2名	○	○	○	-
③ 緊急時 原子炉 制御	①号炉間電力融通ケーブル(1号炉)	(L10)	①号炉間電力融通ケーブル(1号炉)	-	-	1時間30分以内	中央制御室運転員 1名 現場運転員2名	△	○	○	-
	②高圧炉心スプレイ系タービン発電機によるM/C C系及DM/C D系発電	①高圧炉心スプレイ系タービン発電機 ・配線数:1台(容量:約1,000kW/台,電圧:6.6kV) ②高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:1基(容量:約4.0m ³ /h,吐出圧力:約0.3MPa) ③高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:1基(容量:約17m ³ /基) ④高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料タンク ・配線数:1台(容量:約30m ³ /台,電圧:約35kV) ⑤M/C C系 ⑥M/C D系 ⑦号炉間電力融通ケーブル(1号炉)	①高圧炉心スプレイ系タービン発電機 ・配線数:1台(容量:約1,000kW/台,電圧:6.6kV) ②高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:1基(容量:約4.0m ³ /h,吐出圧力:約0.3MPa) ③高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:1基(容量:約17m ³ /基) ④高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料タンク ・配線数:1台(容量:約30m ³ /台,電圧:約35kV) ⑤M/C C系 ⑥M/C D系 ⑦号炉間電力融通ケーブル(1号炉)	-	原子炉制御室からの起動 高圧炉心スプレイ系タービン発電機 プラント制御室からの起動	現場操作 4時間30分以内 現場操作 4時間30分以内 現場操作 4時間30分以内	中央制御室運転員 1名 現場運転員2名 緊急時対策員3名	△ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	- 燃料供給
	③高圧炉心スプレイ系タービン発電機によるM/C C系及DM/C D系発電	①高圧炉心スプレイ系タービン発電機 ・配線数:1台(容量:約1,000kW/台,電圧:6.6kV) ②高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:1基(容量:約4.0m ³ /h,吐出圧力:約0.3MPa) ③高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:1基(容量:約17m ³ /基) ④高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料タンク ・配線数:1台(容量:約30m ³ /台,電圧:約35kV) ⑤M/C C系 ⑥M/C D系 ⑦号炉間電力融通ケーブル(1号炉)	①高圧炉心スプレイ系タービン発電機 ・配線数:1台(容量:約1,000kW/台,電圧:6.6kV) ②高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:1基(容量:約4.0m ³ /h,吐出圧力:約0.3MPa) ③高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料供給ポンプ ・配線数:1基(容量:約17m ³ /基) ④高圧炉心スプレイ系タービン発電機用燃料タンク ・配線数:1台(容量:約30m ³ /台,電圧:約35kV) ⑤M/C C系 ⑥M/C D系 ⑦号炉間電力融通ケーブル(1号炉)	-	原子炉制御室からの起動 高圧炉心スプレイ系タービン発電機 プラント制御室からの起動	現場操作 4時間30分以内 現場操作 4時間30分以内 現場操作 4時間30分以内	中央制御室運転員 1名 現場運転員2名 緊急時対策員3名	△ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	- 燃料供給

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	東海第二発電所 (2018. 9. 18 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>手帳等 高圧発電機系によるA-110V系 SAコンベクターループ電機</p> <p>技術的能力 に係る重要 事項の該当 項目 (L14)</p>	<p>主が使用設備(保管場所:仕替等) ・高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・M/C, C系 ・緊急用A-110V系 ・SAコンベクターループ電機</p> <p>・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p>	<p>高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p> <p>高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p>	<p>保守期間中A-110V系 直送電又はB-110V系直送電</p>
<p>手帳等 高圧発電機系によるA-110V系 SAコンベクターループ電機</p> <p>技術的能力 に係る重要 事項の該当 項目 (L14)</p>	<p>主が使用設備(保管場所:仕替等) ・高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・M/C, C系 ・緊急用A-110V系 ・SAコンベクターループ電機</p> <p>・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p>	<p>高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p> <p>高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p>	<p>保守期間中A-110V系 直送電又はB-110V系直送電</p>
<p>手帳等 高圧発電機系によるA-110V系 SAコンベクターループ電機</p> <p>技術的能力 に係る重要 事項の該当 項目 (L14)</p>	<p>主が使用設備(保管場所:仕替等) ・高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・M/C, C系 ・緊急用A-110V系 ・SAコンベクターループ電機</p> <p>・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p>	<p>高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p> <p>高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p>	<p>保守期間中A-110V系 直送電又はB-110V系直送電</p>
<p>手帳等 高圧発電機系によるA-110V系 SAコンベクターループ電機</p> <p>技術的能力 に係る重要 事項の該当 項目 (L14)</p>	<p>主が使用設備(保管場所:仕替等) ・高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・M/C, C系 ・緊急用A-110V系 ・SAコンベクターループ電機</p> <p>・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p>	<p>高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p> <p>高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p>	<p>保守期間中A-110V系 直送電又はB-110V系直送電</p>
<p>手帳等 高圧発電機系によるA-110V系 SAコンベクターループ電機</p> <p>技術的能力 に係る重要 事項の該当 項目 (L14)</p>	<p>主が使用設備(保管場所:仕替等) ・高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・M/C, C系 ・緊急用A-110V系 ・SAコンベクターループ電機</p> <p>・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p>	<p>高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p> <p>高圧発電機系(保管場所:E L50k, E L15~23k, E L15, 50k) ・配線数:7本(容量:約300kVA(台,電圧:6.6kV)) ・B-110V系発電機 ・SA用110V系発電機 ・250V系発電機(KTC)</p>	<p>保守期間中A-110V系 直送電又はB-110V系直送電</p>

種別	手順等	技術的能力に係る審査基準の該当項目	主使用設備(保管場所、仕様等)	水源	備考	所要時間(日付)	必要人員(日付)	航空機衝突	地震	津波	手帳成立のために必要な手順
本 高 濃 濃 縮 濃	○原子力災害対策手順 「大震災発生による備後」		・大震災発生(保管場所: E.L.4m, E.L.13~25m, E.L.8.5m) 配線数: 3台(容量: 約106MVA/台, 吐出圧力: 約0.85MPa)	輸送タンク(西1) 輸送タンク(東2) 1号少通水タンク 2号少通水タンク 非常用少通水タンク 輸送タンク(東1) 輸送タンク(東2)	低圧原子炉代位注水機又は低 圧輸送タンクへの補給 低圧原子炉代位注水機への 補給 低圧輸送タンクへの補給 輸送タンク(東1)又は輸送 タンク(東2)への補給 輸送タンク(東1)又は輸送 タンク(東2)への補給	現用機作 2時間 10分以内 1時間 30分以内 現用機作 1時間 30分以内 現用機作 1時間 30分以内 現用機作 1時間 30分以内	中央制御室運転員 緊急時対策要員 1名 12名 中央制御室運転員 緊急時対策要員 1名 12名	○	○	○	
	「大震災発生又は大震災発生ポンプ車による備 後」	(1.13)	・大震災発生ポンプ車(保管場所: E.L.50m, E.L.13~25m, E.L. 8.5m) 配線数: 3台(容量: 約1,800MVA/台, 吐出圧力: 約1.4MPa) ・大震災発生ポンプ車(保管場所: E.L.4m, E.L.13~25m, E.L.8.5m) 配線数: 3台(容量: 約106MVA/台, 吐出圧力: 約0.85MPa)	海水取水ポンプ(2号) 伊取取水機、荷揚機、 2号伊取取水機、1号 伊取取水機、3号伊取 取水機(水質監視)	大震災発生による海水取水 機(西1)又は輸送タンク(東2) への補給 海水取水ポンプ(2号) 伊取取水機、荷揚機、 2号伊取取水機、1号 伊取取水機、3号伊取 取水機(水質監視)による輸送 タンクへの補給 大震災発生による海水取水 機(東1)又は輸送タンク(東2) への補給	現用機作 2時間 30分以内 現用機作 3時間 40分以内 現用機作 2時間 10分以内 現用機作 3時間 50分以内	緊急時対策要員 12名	○	○	△	・燃料補給
	「大震災発生及び大震災発生ポンプ車又は大震 災発生(2号)による備後」		・大震災発生ポンプ車(保管場所: E.L.50m, E.L.13~25m, E.L. 8.5m) 配線数: 3台(容量: 約1,800MVA/台, 吐出圧力: 約1.4MPa) ・大震災発生ポンプ車(保管場所: E.L.50m, E.L.13~25m, E.L. 8.5m) 配線数: 5台(容量: 約106MVA/台, 吐出圧力: 約0.85MPa)	海水取水ポンプ(2号) 伊取取水機、荷揚機、 2号伊取取水機、1号 伊取取水機、3号伊取 取水機(水質監視)	大震災発生ポンプ車による海水 取水機(西1)又は輸送タンク(東2) への補給 大震災発生ポンプ車による大 震災発生ポンプ車(2号)伊取 取水機、荷揚機、2号伊取 取水機、1号伊取取水機、 3号伊取取水機(水質監視)に よる輸送タンクへの補給 大震災発生ポンプ車(2号)伊 取取水機、荷揚機、2号伊取 取水機、1号伊取取水機、 3号伊取取水機(水質監視)に よる輸送タンクへの補給	現用機作 2時間 10分以内 現用機作 3時間 50分以内 現用機作 2時間 10分以内 現用機作 3時間 50分以内	緊急時対策要員 12名	○	○	△	・燃料補給
燃 料 補 給	○原子力災害対策手順 「ガスタービン発電機用燃料タンク又はディ ーゼル機用燃料タンクからタンクローリ への補給」	(1.14)	・タンクローリ(保管場所: E.L.13~25m, E.L.8.5m) 配線数: 2台(容量: 約3.0MVA/台) ・ガスタービン発電機用燃料タンク ・非常用ディーゼル発電機用燃料タンク 配線数: 2基(容量: 約500MVA/基) 配線数: 3基(容量: 約100MVA/基) ・高圧中心炉冷却ポンプ(アイランド) 配線数: 1基(容量: 約100MVA/基) ・高圧中心炉冷却ポンプ(アイランド) 配線数: 2台(容量: 約3.0MVA/台)	ガスタービン発電機用燃料タ ンクから補給の場合 (タンクローリ1台当たり) 非常用ディーゼル発電機用 燃料タンク又は高圧中心炉 冷却ポンプ(アイランド)発電 機用燃料タンクから補給の 場合 (タンクローリ1台当たり)	1時間 50分以内 2時間 10分以内 2時間 30分以内	緊急時対策要員 1名 12名	○	○	○	○	○
	「タンクローリから各機器等への給油」			タンクローリ1台当たり	タンクローリ1台当たり	30分以内	緊急時対策要員 2名	○	○	○	○